2026年度

シ ラ バ ス

さいたま市立高等看護学院

シラバスの表記について

本シラバスの中で使用される用語は、下記の意味で使用する。

授業科目	学則上の教育課程で、厚生労働省の承認を受けた科目名
単位数	科目の単位数
時間数	講師担当の時間数。1科目1講師の場合はそのまま科目の単位数が表示されている。 15/30時間の様に分数表示は、30時間の科目の15時間を当該講師が講義することを示す。
年次・時期	講義が実施される学年と時期（前期・後期）を示す。
講義形態	講義・学内演習・グルプワーク（GW）の別を示す。また、学内演習については、下記のように分類する。
	・技術演習：学生一人一人が確実な技術が習得できるように複数教員により個別指導を行う。 ・GW演習：教授された技術について、グループ演習を行い、当該技術について考え、気づくことを目的とした演習方法。 課題を基に学生同士、意見交換等で学習を深める方法。 ・演　　習：体験を目的とした担当教員で行う演習方法。
技術チェック	技術チェックは当該年度で合格できるようにする。 指定された技術項目について、チェックリストに沿って評価する。

目　　次

教育理念･教育目的･教育目標 ･････････････････ P 1

カリキュラム編成の考え方 ･････････････････ P 2

臨地実習の目的･目標 ･････････････････ P 19

実習科目別 実習目的･目標 ･････････････････ P 20

1年次シラバス

学科進度表 ･････････････････････ P 29

実施科目および評価表 ･････････････････ P 30

基礎分野 ･････････････････････ P 31

専門基礎分野 ･････････････････････ P 45

専門分野 ･････････････････････ P 61

2年次シラバス

学科進度表 ･････････････････････ P 83

実施科目および評価表 ･････････････････ P 84

基礎分野 ･････････････････････ P 85

専門基礎分野 ･････････････････････ P 89

専門分野 ･････････････････････ P101

3 年次シラバス

学科進度表 ･････････････････････ P135

実施科目および評価表 ･････････････････ P136

専門分野 ･････････････････････ P137

臨地実習（領域別） ･････････････････ P144

教育理念・教育目的・教育目標

教育理念

さいたま市の「若い力の育つゆとりある生活文化都市」の基本的方針をもとに、充実した教育の提供と教育環境を整え、次世代を担う看護実践者の育成を行います。

看護師として必要な自律性・主体性を育み、感性豊かな人間性を培います。それとともに看護の対象となる人間を統合的にとらえ、生命の尊重、倫理に基づいた資質の高い看護の実践者を育成します。

あらゆる健康状態にある人々が安寧な生活を営めるように国際的視野を持ち、常に変化する社会に対応できる質の高い看護者の育成をめざします。

さらに、専門職業人として生涯学習し続ける力を確立できるよう支援します。

教育目的

豊かな人間性を養い、看護に必要な専門的知識・技術・態度を修得し、さいたま市及び社会に貢献できる看護師を育成する。

教育目標

1. 人間の多様な価値観を尊重し行動できる、豊かな人間性を養う。
2. 人間を統合的に捉え、人々の健康と生活の質を高める看護が実践できる基礎的能力を養う。
3. 人々の生命と権利を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた行動がとれる基礎的能力を養う。
4. 看護実践者として国内外の社会変化や医療の最新の知識・技術を把握し、自ら学び続ける能力を養う。
5. 保健・医療・福祉制度と多職種の役割を理解し、チーム医療を実践できる基礎的能力を養う。

アドミッション・ポリシー

当学院では、豊かな人間性と看護の実践に必要な基礎的能力を持ち、人と地域・社会に貢献できる人材を育てることを目指しています。そのためには以下のような学生を求めています。

1. 感性豊かで、多様な人とコミュニケーションをとることができる人
2. 看護に関心を持ち、看護を学ぶ上で必要となる基礎的知識を持つ人
3. 人と人との関わりを大切にでき、協働できる人
4. 誠実で責任感のある行動がとれる人
5. 探求心を持ち、自ら学ぼうとする意欲のある人

カリキュラムポリシー

教育課程編成・実施方針

1. 基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3科目群から構成する。
2. 基礎科目では、広く人間を見る視点を養うことを主眼とし、看護の対象である人間の理解の強化を図る。
3. 人間・環境・健康・看護の4つの概念とそれらの関係に基づき、基礎科目から専門科目を積み上げて学習できるように配置する。
4. 実践の場に即した学びのためにアクティブラーニングを行い、思考力、判断力などを育てる学習の機会を提供する。
5. 各科目では、学習者の学びを知識・技術・態度を統合的に評価する。

ディプロマポリシー

1. 科学的根拠に基づいた技術が実践できる人
2. 対象を取り巻く状況を理解し、行動できる人
3. 誠実に人と関わり、自分の言動に責任が持てる人
4. 対象の状況に応じたコミュニケーションができる人
5. 看護師としてさいたま市及び社会に貢献できる人

Ⅰ. カリキュラム編成の考え方

1. 看護に関わる主要概念

人間：身体的・精神的・社会的に統合された存在であり、社会の中で生活している。
胎児期より取り巻く環境と相互関係を持ち、常に成長・発達し続ける。
成長・発達の過程でおこる様々な課題や危機に関して、環境に適応しながらいのちを営む存在である。
自らの責任において意思決定をし、自己実現を目指している。
人間は全てが平等でありそれぞれの価値観があり、ひとりひとりが尊厳される存在である。

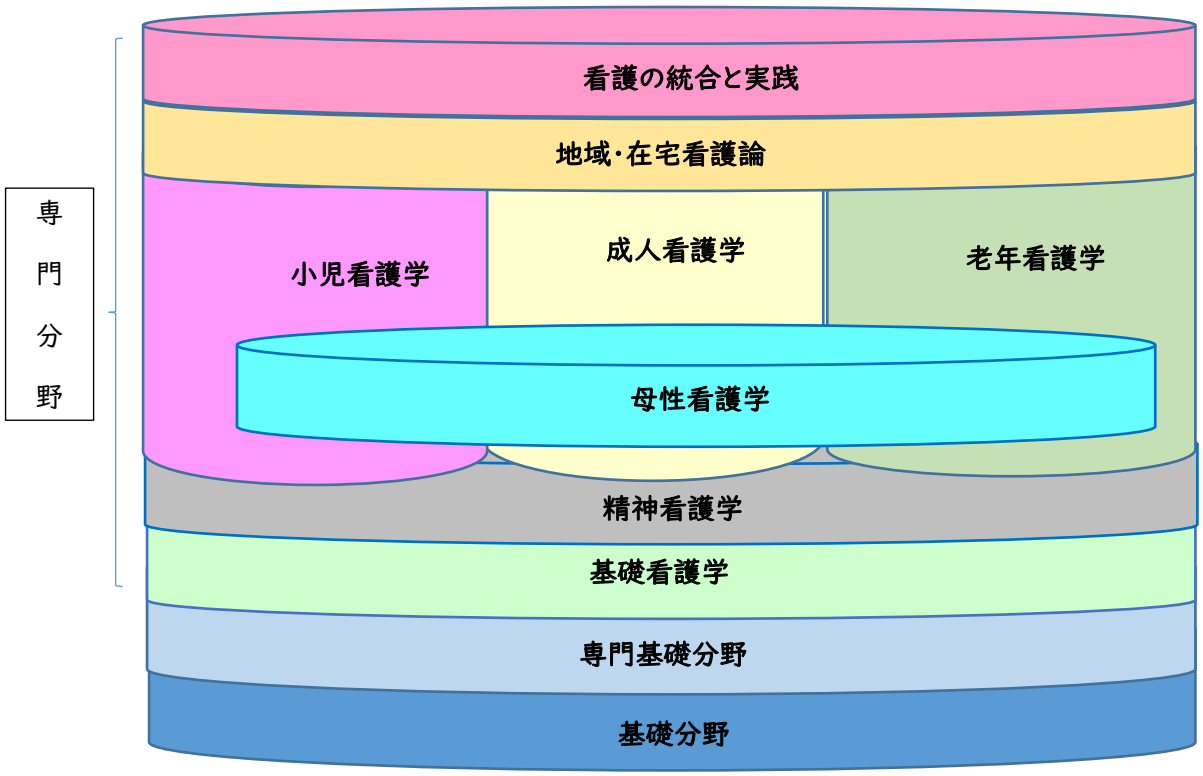
環境：環境は人間を取り巻く全てであり、内部環境と外部環境があり両者は常に影響し合う。
内部環境は人体内部の環境を示し、外部環境は自然環境と社会環境を示す。
自然環境は環境破壊、地球温暖化、自然災害など人間の健康に影響を与える多くの問題を有している。
社会環境も同様に少子高齢社会、国際化、情報社会、核家族化、ライフスタイルの変化による心身への影響も複雑化している。
人間と環境は相互関係にあり人間の健康に大きな影響を与える。

健康：単に病気ではないという状態ではなく、身体的・精神的・社会的に調和のとれた状態である。
人々はそれぞれの健康観を持ち、その健康観には個人差がある。
健康は自己管理（セルフケア）のもと維持される。
「健康から健康障害・死」という連続的な段階は流動的であり、個人の健康観によっても変化する。
健康は人種、宗教、政治的信念、経済的・社会的条件の差別なく、全ての人間に与えられた権利である。

看護：看護の対象は個人、家族、集団、社会であり、あらゆる発達段階・健康段階にある生活者である。
健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復、その人らしく生を全うする過程であり、QOL の向上または維持することを目指している。
人間の生命・尊厳・権利の尊重は看護実践者にとって責務である。
医療の変化に伴い、変化し続ける。
医療の高度化・ 複雑化、さらには地域包括ケアシステムの構築といった変化に伴い、保健医療福祉関係者と連携・協働し、多様な場所で生活する人々へ看護を提供する。

教育：知識と技術を獲得しようとする過程であり、学習により成長していく過程である。
高等教育を受ける学習者は主体的に学ぶ姿勢をもち、意欲的・創造的な行動が期待される。
学習課題を解決するために目標設定とリフレクションする能力が必要となる。
学生と教員の関係は共に学び共に成長する相互作用が期待される。

2. カリキュラム構造図



本カリキュラムは、看護実践能力を高めることをねらいとし、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成した。

基礎分野、専門基礎分野は、専門職業人として看護職の専門分野を学ぶ上で必要な看護の対象を理解し、対象の健康状態やニーズに応じた看護を実践するための基盤とした。

専門分野は看護の基礎となる基礎看護学を土台とし、各領域の看護学に共通する概念・理念・技術を学ぶ内容で構成した。

各領域の看護学については人間の成長・発達を基軸とし、小児看護学、成人看護学、老年看護学を位置付けた。母性看護学はライフサイクルのすべてにかかわる内容として位置付けた。精神看護学はどの領域にも共通し、患者の心理や発達段階別の課題などに関係するものでもあり土台となるものと考えた。地域・在宅看護論は各領域別看護学の対象はすべての人にかかり様々な場所で暮らす人を対象に考え、各領域で学んだことを土台に学びを繋げていくことを考えた位置付けにした。看護の統合と実践については基礎分野から各領域の看護学に学習した内容を統合し、より臨床の実践に必要な看護を学ぶ内容として位置付けた。

3. 学科進度の考え方

1）本カリキュラムでは、基礎分野、専門基礎分野を基盤として看護の専門分野を教授し、 基礎分野、専門基礎分野、専門分野の教育内容を統合するように教授する。本来、上記の各分野の順序性で教授する積み上げ型が望ましいが、教育期限が3年間であり、積み上げ型のみでの学科進度の強制は困難である。カリキュラムの構成においては、各分野及び科目の教育内容を単純から複雑な内容になるよう考慮して、並列型、漸進型を取り入れた学科進度で進めていく。

2）技術項目の進度の考え方

「日常生活援助技術Ⅰ」のコミュニケーションから教授し、技術を実施する際のコミュニケーションの重要性をおさえたうえで「日常生活援助技術Ⅰ」「日常生活援助技術Ⅱ」「日常生活援助技術Ⅲ」と進んでいく。

「日常生活援助技術Ⅰ～Ⅲ」及び「ヘルスアセスメントⅠ」は基礎看護学実習Ⅰが始まる前までに終了し、実習場で日常生活援助技術やバイタルサインの測定が実施できるようにする。2年次の領域別看護学実習が始まる前までには成人看護学や老年看護学などの技術の教授を終了する。

「看護過程」における事例展開については「疾病の成り立ちと治療」で既習した疾患から患者設定をし、看護過程の展開ができるようにする。

4. 単位制とその運営について

平成8年のカリキュラム改正より単位制での運営が求められているため、今回のカリキュラムもこれを厳守して構成した。適正に単位制の運営が行われるようにするため「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」を基に単位制に関する基本的項目を次に示す。

1）単位制の考え方

1単位の科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。
例えば「看護学概論」を 1 単位とした場合、「看護学概論」自体は 45 時間の学習を必要とする内容で構成するが、30 時間を講義と演習を行う時間として配当し、残りの 15 時間は学生の自己学習時間とする。

2）1単位当たりの授業時間の考え方

1単位の授業時間数は、授業方法に応じて該当授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して配当する。

・講義及び演習で行う場合 ：15 時間から 30 時間
・実験、実習及び実技を行う場合 ：30 時間から 45 時間
・臨地実習の場合 ：45 時間

例えば、講義と学生の自己学習による学習が効果的である科目には 15 時間を、講義と演習を織り交ぜた授業が効果的である科目には 30 時間を配当することを標準とした。

また、臨地実習以外の科目で 1 単位に 45 時間を配当する場合は、1 単位の大部分を実験、実習及び実技に当てる場合のみ適応されるが、今回のカリキュラム編成にあたっては適応する科目はなしとした。時間の考え方として1時間を 45 分で計算し、1 回の授業に関しては 2 時間で 90 分授業とした。実習も授業の一環と考え、1 時間を 45 分計算とする。

3）単位制の運営

単位制の運営にあたっては前述の通知及び一般的な考え方から下記のように行うことにした。

・ 時間数の計算上は、講義、実習等が実際に行われる時間数とした。 ・ 時間数には単位認定試験等、評価時間を含める。（再・追試験を除く） ・ 科目の運営単位認定（不認定）の評定までを配当年度内に完了する。

また、学生が当該科目の自己の学習達成状況を認識できるようにするため、原則的に科目を 1 単位のまとまり毎に設定し、科目ごとの評価を行うこととした。ただし、専門分野、専門基礎分野の一部科目については、教育内容を勘案して該当の科目の弾力的な運営を可能にするため、1 科目 2 単位とした。

さらに、学生が将来卒業後大学などで教育を受ける際の単位互換性を考慮し、1 単位の配当する時間数を 15 時間、30 時間、45 時間にいずれかとし、中間（例 35 時間等）の時間配当をさけた。

Ⅱ．基礎分野

1．基礎分野の考え方

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の学習の基盤となる分野である。また、看護実践者の土台及び社会人としての教養、人権を尊重する態度、人間関係を構築するための方法を学ぶ分野として位置付けている。

教育内容としては「科学的思考の基盤」、「人間と生活、社会の理解」とし、次の 5 点が求められており、これらを含めて科目設定した。

・科学的思考及びコミュニケーション能力を高める。
・感性を磨き、自由で主体的な判断と行為を促進する。
・人間と社会の仕組みを幅広く理解する。
・国際化へ対応しうる能力及び情報通信技術（ICT）を活用する能力を養う。
・人権の重要性を理解し、人権への意識が身につく。

特にコミュニケーション能力の育成では、「心理学」「人間関係論」「コミュニケーション論」「カウンセリング理論」の科目を設定した。また、国際化に向けてのコミュニケーション能力の育成として「医療英語」を設定した。

さらに高い倫理観を有する看護師の育成を目指すために基礎分野から専門基礎分野、そして専門分野へと積み上げて学習することとし、基礎分野では「哲学」を位置付ける。

2．科目設定理由

基礎分野には、上記の教育内容を教授するために計 12 科目（14 単位 270 時間）を設定した。「科学的思考の基盤」の科目としては下記1）～5）の 5 科目を「人間の生活、社会の理解」の科目としては6）～12）の 7 科目を設定する。

1）哲学（2単位 30 時間）

人間とは何か、人間の存在、人間らしい生き方を考えることにより人権の尊重や職業倫理に基づく行動の基礎を身につけることを目的とした。

2）論理学（2単位 30 時間）

論理的なものの見方、考え方、表現する能力を養うことを目的とした。

3）情報科学（1単位 30 時間）

情報を処理するために必要なパーソナルコンピューターの基本的操作を身につけ、さらに倫理観に基づいて情報管理ができる能力を養うことを目的とした。また、看護研究に必要な統計学の基礎知識を養うことを目的とした。

4）医療英語（1単位 30 時間）

医療に関する英語を理解し、コミュニケーションに必要な「読む」「聞く」「話す」「書く」能力を養うことを目的とした。

5）生物学（1 単位 15 時間）

生命体の特性、自己増殖、外部との物質交換、生命現象、細胞の構造等に関する現象を取り上げ、看護学の専門基礎や人体の構造と機能、生化学の基礎知識を養うことを目的とした。

6）社会学（1単位 15 時間）

人間を取り巻く環境や家族、文化が人間にどのように影響を与えているかを理解し、人間を社会的存在として理解することを目的とした。

7）教育学（1 単位 15 時間）

教育の方法や評価、教育の制度等について基礎的知識を養い、看護実践に活かす能力を養うことを目的とした。

8）心理学（1 単位 30 時間）

人間を理解するためには、人間の行動や心理を理解する必要がある。自己理解から始まり、他者を理解することを目的とした。

9）人間関係論（1 単位 30 時間）

他者理解を基に看護実践者として専門的な人間関係を形成するための能力を養うことを目的とした。

10）コミュニケーション論（1 単位 15 時間）

よりよい人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養うことを目的とした。

11）家族論（1 単位 15 時間）

家族とは何か．人が生きていくうえで家族はどういう意味を持つのか．また，ライフサイクルの視点から家族の役割について学び、看護の対象となる対象・家族の理解をすることを目的とした。

12）カウンセリング理論（1 単位 15 時間）

対話や会話を通して対象や家族のアプローチできる能力を養うことを目的とした。

Ⅲ 専門基礎分野

1. 専門基礎分野の考え方

専門基礎分野は、専門分野の学習の基盤となり、基礎分野での学習内容を専門分野に結びつく内容を学習する分野である。

教育内容としては「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」を科目設定する。教育内容としては次の 5 点の内容が求められており、これらを含めて科目設定する。

・看護の視点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するための諸内容を臨床で活用可能なものとして学ぶ。~~内容~~

・臨床判断力の基盤となる演習を強化した内容

・アクティブラーニング等を活用し主体的な学習を促す内容

・人間が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じた社会資源の活用が可能な知識と基礎的な能力を養う内容

・保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割の理解等を含む内容

2. 科目設定理由

専門基礎分野には、上記の教育内容を教授するために計 23 科目（23 単位 510 時間）を設定した。「人体の構造と機能」の科目は下記の1）～4）の 4 科目、「疾病の成り立ちと回復の促進」の科目は 5）～17）の 13 科目、「健康支援と社会保障制度」の科目は 18）～23）の 6 科目を設定する。

1）人体の構造と機能Ⅰ（呼吸器・循環器）（1 単位 30 時間）

2）人体の構造と機能Ⅱ（消化器・内分泌・腎・泌尿器・生殖）（1 単位 30 時間）

3）人体の構造と機能Ⅲ（脳・神経・感覚器・骨・筋）（1 単位 30 時間）

人体の構造と機能については、教育内容を器官系統別に大別し、関連する内容を組み合わせて上記1）～3）の科目を設定し、人体の機能と構造を理解することを目的とした。

4）生化学（1 単位 15 時間）

人間が健康を維持するために生化学がどのように生体にかかわっているかを理解し、生体物質の基礎知識とその物質を基にしての疾患や病態を捉えることができる力を養うことを目的とした。

5）病理学（1 単位 30 時間）

疾患の原因と特徴及び系統的代表的な疾患の病態について理解することを目的とした。

6）病原微生物学（1 単位 30 時間）

微生物の知識と健康障害を起こす病原微生物について理解し、感染予防及び対処方法を学ぶ。感染予防対策としての看護を学ぶ前提としての基礎的知識を養うことを目的とした。

7）疾病治療論（1 単位 15 時間）

疾病の診断に結びつく検査や生命維持管理に必要な機器の管理について理解するとともに看護と連携する多職種の業務についても理解することを目的とした。

8）疾病の成り立ちと治療Ⅰ（循環・呼吸）（1 単位 30 時間）
9）疾病と成り立ちと治療Ⅱ（脳・運動器・視覚）（1 単位 30 時間）
10）疾病の成り立ちと治療Ⅲ（消化器・内分泌・代謝）（1 単位 30 時間）
11）疾病の成り立ちと治療Ⅳ（腎・泌尿器・生殖器・乳腺）（1 単位 30 時間）
12） 疾病の成り立ちと治療Ⅴ（生体防御機能・免疫機能・血液・感覚器）（1 単位 15 時間）
13）疾病の成り立ちと治療Ⅵ（小児の特徴的な疾患と治療）（1 単位 15 時間）
14）疾病の成り立ちと治療Ⅶ（精神障がいと治療）（1 単位 15 時間）

疾病と治療については、身体機能別に大別し、関連する内容を組み合わせて 8）～12）の科目設定をした。13）～14）の科目は、成長発達段階が影響する小児期に特徴的な疾患と治療、全ての発達段階に発生する精神障がいと治療については1つの科目に取りまとめて科目を設定した。

15）リハビリテーション論（1 単位 15 時間）

リハビリテーションの基礎的知識及び技術について学ぶ。対象の状況に応じたリハビリテーション看護の前提としての基礎的能力を養うことを目的とした。

16）臨床栄養学（1 単位 30 時間）

人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について内部環境や代謝の機能の基盤を理解する。さらに食事療法及び栄養状態を把握・評価する方法を学ぶことを目的とし設定した。

17）臨床薬理学（1 単位 30 時間）

薬の作用を学び、薬理学の基礎知識と薬物療法を学ぶ。薬理作用・副作用を医薬品の安全対策と合わせて理解し、薬物療法を受ける対象の看護を学ぶ前提としての基礎知識を学ぶことを目的とした。

18）社会福祉（1 単位 15 時間）

生活者の健康を保障する社会福祉の基礎知識について理解することを目的とした。

19）生活を支える社会福祉制度（1 単位 15 時間）

生活者の健康を保障する社会の制度について社会福祉で理解した上で、社会資源を活用するための基礎を学ぶことを目的とした。

20）健康維持のための予防と支援（1 単位 15 時間）

生活習慣が健康に及ぼす影響を科学的根拠に基づき学び健康維持の必要性と方法についての基礎的知識を養うことを目的とした。

21）公衆衛生の基本（1 単位 15 時間）

看護の対象である個人及び集団の健康と生活を取り巻く環境に関連づけて理解し、健康の維持・増進のための個人・集団・地域の働きかけとしての保健活動について理解することを目的とした。

22）関係法規（1 単位 15 時間）

看護師が働くうえで必要な法律について理解し、看護師の法的責任について学ぶことを目的とした。

23）国際・災害医療論（1 単位 15 時間）

災害医療に関する基礎的な知識及び技術を学ぶ。災害看護を学ぶ前提としての基礎的知識を養うことを目的とした。また、国際的視野を持ち国際協力の必要性について考えられることを目的とした。

Ⅳ．専門分野

1．専門分野の考え方

専門分野では「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」8分野にわかれている。

8分野の教育内容としては「各領域の看護学」と「臨地実習」の2つで構成されている。

各看護学の構造は、概要を学ぶ科目と看護の方法を学ぶ科目で構造化した。

概要を学ぶ科目では、領域の対象と看護の目的を学習する。看護の方法を学ぶ科目では、対象への看護と技術を学習する内容として構成する。

2．基礎看護学

1）基礎看護学の考え方

「基礎看護学」の構造は、看護の概要を学ぶ科目と看護の方法を学ぶ内容で構成した。看護の対象である人間を理解し、看護の歴史的変遷を理解したうえで、看護の機能と役割を学習する。看護の方法を学ぶ科目では、他の 7 つの分野の土台となるよう、さまざまな対象に共通する技術を抽出して科目として構造化した。

看護実践者として必要な倫理的判断と行動ができる力を養うことを目的として「看護倫理」を設定した。「看護倫理」については横断的に配置し、各領域で担当をする。また、看護の方法を学ぶ科目の内容に倫理に基づく判断力を養う教育内容を位置づける。

2）基礎看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するために計 14 科目（14 単位 330 時間）を設定する。

(1) 看護学概論（1 単位 30 時間）

看護の対象を基礎分野の「人間と生活・社会の理解」と関連し、疾病や健康障害の有無を問わず「生活者」として捉えるようにする。また、看護の歴史的変遷を理解すると共に看護の主要概念をとらえ、看護の機能や役割を学び、保健医療福祉チームにおける看護の位置づけを理解することを目的とした。

(2)看護研究（1 単位 15 時間）

看護研究の意義と文献検索を活用し、看護研究の基本を学ぶことを目的とした。

(3)看護研究演習（1 単位 15 時間）

基本的な看護研究の方法を体験し、日々の看護を科学的に捉える力や問題意識をもって看護を探求する態度を身につけることを目的とした。

(4)日常生活援助技術Ⅰ（1 単位 30 時間）：コミュニケーション、環境、活動・休息
(5)日常生活援助技術Ⅱ（1 単位 30 時間）：清潔、衣生活
(6)日常生活援助技術Ⅲ（1 単位 30 時間）：食事、排泄
(4)～(6)は、日常生活援助の技術を習得するために設定する。単に基本的な技術の習得だけではなく、看護実践能力、臨床判断力の向上を目指して、対象に応じた援助の基盤となるような内容にする。また、援助を行う為のコミュニケーション能力、事故防止能力や倫理観の育成を行うことを目的とした。
(7)診療看護技術Ⅰ（1 単位 30 時間）：感染予防、検査
(8)診療看護技術Ⅱ（1 単位 30 時間）：与薬
(9)診療看護技術Ⅲ（1 単位 15 時間）：呼吸・循環を整える技術
(7)～(9)各看護学に共通する診療に伴う看護技術の基本的な技術の習得することを目的とした。単に基本的な技術の習得だけではなく、看護実践能力、臨床判断力の向上を目指して、対象に応じた援助の基盤となるような内容にする。また、援助を行う為のコミュニケーション能力、事故防止能力や倫理観の育成を行うことを目的とした。

(10)看護過程（1 単位 30 時間）
対象の健康問題に対して科学的な思考をもとにアセスメント・看護診断・計画立案・実施・評価を行う必要性を理解し、問題解決技法を習得することを目的とした。

(11)ヘルスアセスメントⅠ（バイタルサイン）（1 単位 15 時間）

(12)ヘルスアセスメントⅡ（フィジカルアセスメント）（1 単位 15 時間）
病院、施設や在宅で生活する対象の全身の状態を統合的に査定する基礎的能力を習得することを目的とし設定した。Ⅰでは 1 年次にバイタルサイン、Ⅱでは1年次に習得する解剖生理や疾患を理解した上で関連づけてフィジカルアセスメントを教授できるようにした。

(13)臨床看護総論（1 単位 30 時間）
さまざまな健康障害を持つ人々を理解し、症状、経過及び治療に応じた看護の方法を学ぶことを目的とした。

(14)看護倫理（1 単位 15 時間）
看護師としての職業倫理を理解し、専門職業人としての基本的な責任を果たすために倫理的課題に遭遇した時の判断力、対処する力を育成することを目的とした。

3. 地域・在宅看護論

1）地域・在宅看護論の考え方

「地域・在宅看護論」は地域で生活する人々とその家族の理解と地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ内容とする。教育内容としては次の 4 点が求められており、これらを含めた内容で科目設定をした。

・地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ内容
・地域で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につける内容とする。
・多職種と協働する中で看護の役割を理解する内容とする。
・地域での終末期看護に関する内容を含むものとする。

看護の提供の場が地域へと広がり、健康レベル、発達段階などが様々な対象の生活の場を理解し、生活者の視点に立ち看護を考えることを重視した看護の方法を学ぶ。また、地域で生活しながら療養するすべての人々と家族を対象とし、対象と家族を支える上でも多職種との協働する学習が求められている。

これらの教育内容の教授にあたっては、以下の4点を考慮し、教授する。

・在宅で看護を必要とする人々は積極的な治療を行うことが少なく、対象者ができる範囲の生活や残された時間の中で患者が望む生活に近づけていくための援助の工夫や看護について教授する。
・対象となる人々は胎児から高齢者まですべての人が対象となるため領域横断として教授する。
・地域で生活する人々のニーズや課題を地域住民のインタビューなどを行い把握し、学生が自ら問題解決を思考できるよう教授内容にグループワークを取り入れる。
・臨地で実践する看護を体験的に学習できるよう授業方法に演習を取り入れる。

2）地域・在宅看護論の科目設定理由

上記の教育内容を教授するために 6 科目（6 単位 150 時間）で設定した。

(1)地域・在宅看護論概論（1 単位 30 時間）

地域で生活する看護の対象・目的を理解し、在宅看護の意義と役割を学ぶこと、また、在宅看護に必要な法や制度を学ぶことを目的とした。

(2)地域・在宅看護生活援助技術（1 単位 30 時間）

地域・在宅療養者の状態に応じた看護の方法や援助の工夫を学ぶことを目的とした。

(3)地域・在宅で療養する対象の看護（1 単位 30 時間）

地域・在宅で療養する対象及び家族への経過別看護の特徴と看護介入について理解ができることを目的とした。

(4)健康とくらしを支える看護（1 単位 15 時間）

さいたま市に住む地域住民の発達段階別の健康と暮らしについてのニーズや課題を把握し、支援について考えることを目的とした。

(5)地域・在宅で生活する対象を支える看護（1 単位 15 時間）

在宅看護に必要な基礎的な看護援助や援助の工夫について考えることができることを目的とした。

(6)地域・在宅看護論看護過程演習（1 単位 30 時間）

在宅で療養する対象の事例を取り上げ、在宅援助技術と看護過程の演習を行うことを目的とした。

4.「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の考え方

「基礎看護学」の教育内容の上に専門領域の内容を教授する分野である。

教育内容としては、次の3点が求められており、これらを含めた科目設定をする。

・看護実践能力の向上を図るための内容

・健康の保持・増進及び疾病の予防に関する看護の方法を学ぶ内容

・成長発達段階を理解し、様々な健康状態にある人々及び多様な場で援助を必要とする人々を対象とした看護援助の方法を学ぶ内容

「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」では看護の対象を成長発達段階に沿って小児期・成人期・高齢期に区分しそれぞれの期に特徴的な看護を学習する内容とする。また、「精神看護学」「母性看護学」「地域・在宅看護論」の対象はライフサイクルのすべてに関わると考えた。「精神看護学」では人間の心（精神）の側面に関する看護の内容、「母性看護学」ではリプロダクティブヘルス/ライツに関する看護の内容とする。

また、各領域の看護過程演習では対象に応じたシミュレーション教育を取り入れていく。

5. 成人看護学

1）成人看護学の考え方

成人看護学の看護の対象は、青年期から壮年期・向老期までの人々である。これらのライフサイクルの人々にとって最適な健康の保持・増進に向けた看護、疾病や機能障害を持った場合の健康回復に向けた看護及び疾病や障害を持ちつつ生活する人々への看護の方法を学ぶ。また、終末期にある人と家族の看護並びに多職種連携や法制度の活用についても学ぶ内容とした。

成人看護学の構造は、成人期にある対象の特徴と看護の目的等を含んだ看護の概要を学ぶ科目とこの時期に生じやすい生活習慣がもたらす健康障害に対する看護の方法を学ぶ科目から構成する。

これらの教育内容の教授にあたっては、成人期の人々の発達段階上の特徴と援助方法を関連づけること、臨地で実践する看護を体験できるように授業に演習を取り入れる。

2）成人看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するために 6 科目（6 単位 180 時間）で設定した。

（1）成人看護学概論（1 単位 30 時間）

成人期にある対象と家族の特徴を理解し、成人期にある人々への健康の維持・増進の意義やそれに伴う看護を学ぶことを目的とした。

(2) 成人期にある対象の看護Ⅰ（消化器・代謝・内分泌）（1 単位 30 時間）

(3) 成人期にある対象の看護Ⅱ（呼吸・循環器）（1 単位 30 時間）

(4) 成人期にある対象の看護Ⅲ（運動・脳神経・感覚器）（1 単位 30 時間）

(5) 成人期にある対象の看護Ⅳ（内部環境・生体防御・血液）（1 単位 30 時間）

成人期にある特徴的な健康障害・疾病の特徴や生活に目を向けその援助方法を学ぶため上記(2)～(5)の科目を設定する。

(6) 成人看護学看護過程演習（1 単位 30 時間）

成人期に起こりやすい疾病・健康障害の事例を取り上げ、看護技術及び看護過程の演習を行うことを目的とした。

6. 老年看護学

1）老年看護学の考え方

老年看護学の看護の対象者は、高齢期の人々である。日本は超高齢者社会となり、日本の総人口の約 28%が高齢者である。高齢期は心理的側面、社会的側面については加齢とともに充実し、成熟度が増し、人生を統合する時期と考えられる。その反面、加齢を生じることにより日常生活が大きく変わる時期でもある。また、高齢者は有病率も高く、成人期に比べ緩やかな回復や回復困難となる状況がある。このような高齢者にとって最適な健康の保持・増進や疾病を持った場合の健康回復あるいは QOL の向上に向けた看護の方法を学ぶ。また、施設において終末期にある人と家族への看護並びに多種職との連携や法制度についても学ぶ内容とした。

老年看護学の構造は、高齢期にある対象の特徴と看護の目的を含んだ看護の概要を学ぶ科目とこの時期に生じる加齢現象による行動の変化及び健康障害に対する看護の方法を学ぶ。

これらの授業にあたっては、高齢者の特徴と援助方法を関連づけて教授すること、臨地実習で看護を体験的に学習できるように教授方法として演習を取り入れる。

2）老年看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するため 5 科目（4 単位 105 時間）で設定した。

（1）高齢者看護学概論（1 単位 15 時間）

老年期にある対象とその家族及び支える人々の特徴を理解し、高齢者への看護のあり方や健康の保持・増進及び自立的な生活並びに QOL の向上のために必要な看護を学ぶことを目的とした。

（2）高齢者の健やかな生活への看護（1 単位 30 時間）

加齢現象による生活行動の変化に対して、高齢者の健康の維持、自立を支えるために必要な援助方法を学ぶ目的とした。

（3）健康障害のある高齢者の看護（1 単位 30 時間）

高齢者に特徴的な疾患・健康状態の特徴及びその援助方法を学ぶことを目的とした。

（4）高齢者看護学看護過程演習（1 単位 30 時間）

高齢者に起こりやすい疾病・健康障害の事例を取り上げ、看護技術及び看護過程の演習を行うことを目的とした。

7. 小児看護学

1）小児看護学の考え方

小児看護学の看護の対象は、新生児期から乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期のこどもを一人の人間として捉え、対象にあった看護援助の必要性を学ぶ。また、これらのライフサイクルのこどもの健やかな成長・発達を促し、健康の保持・増進、疾病や機能障害を持った場合の健康回復に向けた看護

の方法を学ぶ。看護の方法には、こどもの発達段階上の特徴を踏まえ、こどもと家族に対する援助並びに多職種との連携や法制度の活用も含む。
小児看護学の構造は小児期にある対象の特徴と看護の目的等を含んだ看護の概要を学ぶ科目と日々、成長・発達をするこどもの日常生活の自立とそれを助ける養育並びに健康障害に対する看護の方法を学ぶ。
これらの授業にあたっては、こどもの成長発達段階の特徴と援助方法を関連づけて教授すること、臨地で実施する看護を体験的に学習できるように授業方法に演習を取り入れる。

2）小児看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するために 4 科目（4 単位 105 時間）で設定した。

(1)小児看護学概論（1 単位 15 時間）
成長発達するこどもと家族の特徴を理解し、こどもへの看護のあり方や養育のあり方を学ぶことを目的とした。
(2)こどもの成長・発達に応じた看護（1 単位 30 時間）
こどもの健康増進を促し、成長発達段階別に合わせて生活援助技術を獲得するための援助方法を学ぶことを目的とした。
(3)健康障害のあるこどもの看護（1 単位 30 時間）
こどもの特徴的な疾患・健康障害の特徴及び援助方法を学ぶことを目的とした。
(4)小児看護学看護過程演習（1 単位 30 時間）
こどもに起こりやすい疾患・健康障害の事例を取り上げ、看護技術及び看護過程の演習を行うことを目的とした。

8. 母性看護学

1）母性看護学の考え方

「母性看護学」の看護の対象は、周産期のみではなく、全てのライフサイクルに関わる女性と家族を対象としている。対象の健康の保持・増進や周産期における正常及び異常分娩経過をたどった場合の看護の方法を学ぶ。看護の方法には、多職種との連携や法制度の活用を含む。
母性看護の構造は、対象の特徴と看護の目的等を含んだ看護の概要を学ぶ科目と周産期に関する健康の維持・増進と健康障害に対する看護の方法を学ぶ科目を設定する。
これらの教育の教授にあたっては、対象の発達段階上の特徴及び性と生殖機能に関する特徴を援助方法に関連づけて教授すること、臨地で実践する看護を体験的に学習できるように授業方法に演習を取り入れる。

2）母性看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するため4科目（4 科目 105 時間）で設定した。

(1)母性看護学概論（1 単位 30 時間）
母性看護の対象の特徴を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの考えを基に母性看護の考え方及

び社会問題や倫理に関連づけて学ぶことを目的とした。

(2)女性のライフサイクルと健康と看護（1 単位 15 時間）

女性特有の疾患と女性の健康の維持・増進の意義及び必要な看護を学ぶことを目的とした。

(3)女性のライフサイクルと周産期の看護（1 単位 30 時間）

妊娠・分娩・産褥期にある対象及び新生児における対象の経過を理解し、看護師としての援助方法を学ぶことを目的とした。

(4)母性看護学看護過程演習（1 単位 30 時間）

周産期における対象及び新生児の正常及び異常の経過を事例で取り上げ、看護技術と看護過程の演習を行うことを目的とした。

9. 精神看護学

1）精神看護学の考え方

「精神看護学」の対象は、全てのライフサイクルの人々である。精神面での健康の保持・増進や疾病や障害を持った場合の健康回復及び社会復帰に向けた看護の方法を学ぶ。看護の方法には、多職種との連携や法制度の活用を含む。

精神看護学の構造は、対象の特徴と看護の目的等を含んだ看護の概要を学ぶ科目と精神的な健康の保持・増進との健康障害に対する看護の方法を学ぶ科目を設定する。

これらの教育内容を教授するにあたっては、ライフサイクル各期の精神面の発達段階上の特徴的な援助を教授し、臨地で実践する看護を体験的に学習できるように授業方法に演習を取り入れる。

2）精神看護学の科目設定理由

上記の教育内容を教授するため4科目（4科目 105 時間）で設定した。

(1)精神看護学概論（1 単位 30 時間）

精神看護学の対象及び対象を取り巻く現代社会の特徴を理解する。対象の心の健康保持・増進や社会的復帰（日常生活の自立を含む）のために必要な看護を学ぶことを目的とした。

(2)精神障害を持つ対象の看護（1 単位 30 時間）

心の看護の必要な対象者の特徴を理解し、医療施設や地域で生活する対象者の QOL の向上を目指した援助技術方法を学ぶことを目的とした。

(3)精神看護学援助技法（1 単位 15 時間）

心の健康障害をもつ対象者だけではなく、看護に共通する技術としての対象への接近法を習得することを目的とした。

(4)精神看護学看護過程演習（1 単位 30 時間）

心の疾患や健康障害の事例を取り上げ、接近技法と看護過程の演習を行うことを目的とした。

10. 看護の統合と実践

1）看護の統合と実践の考え方

「看護の統合と実践」では、既習した知識・技術を統合し、看護を実践する能力や判断能力が求めら

れている。教育内容としては次の 7 点が求められており、これを含めて科目設定した。

・チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携、協働を学ぶ内容
・臨床判断を行う為の基本的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容を基に看護実践を段階的に学ぶ内容
・看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容
・医療安全の基礎的知識を含む内容
・災害の基礎的知識を含む内容
・諸外国における看護・医療・福祉の課題を理解する内容
・看護技術の総合的評価を行う内容

「看護の統合と実践」については、基礎分野・専門基礎分野・専門分野での各領域別の看護を学習した内容や技術を統合し、臨床判断力・看護実践力の向上が図れる内容にした。また、チーム医療における看護師の役割と多職種との連携・協働を学ぶ内容とする。

2)看護の統合と実践の科目設定理由

上記の教育内容を教授するため 4 科目（4 単位 75 時間）で設定した。

（1）看護管理（1 単位 15 時間）

看護管理の目的と機能及び組織の一員としての力を発揮できる基礎的能力を学ぶために設定した。また、経営的視点を含めたマネジメント方法及び管理的思考を養うことを目的とした。

（2）医療安全（1 単位 15 時間）

医療安全行動がとれるようにするため、医療安全管理システムと自己分析方法を学ぶことを目的とした。

（3）国際・災害看護（1 単位 15 時間）

国際社会において、看護師として諸外国との協力の在り方や災害時に支援できる看護の基礎的知識を学ぶことを目的とした。

（4）統合技術演習（1 単位 30 時間）

看護基礎教育における看護技術の統合的な評価として、実務に即した複合的な看護援助の優先順位を決定する判断力、思考力を養う。また、対象の個別性を考えた援助技術を学ぶことを目的とした。

11.臨地実習

1）臨地実習の考え方

「臨地実習」の教育内容としては次の 5 点である。これらを含めた科目として下記の科目を設定する。

・知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う。
・対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶ。
・チームの一員としての役割を学ぶ。
・保健・医療・福祉との連携、協働を通して切れ目のない看護を学ぶ。

・「看護の統合と実践」の実習では以下の3点を追加する。

①各専門部門での実習を踏まえ、実務に即した実習を行う。

②多職種と連携・協働しながら看護を実践する。

③夜間の実習を行うことが望ましい。

2）臨地実習の科目設定

上記の教育内容を教授するため 12 科目（23 単位 1035 時間）で設定した。

（1）基礎看護学実習Ⅰ（1 単位 45 時間）

対象とのコミュニケーションを通して人間関係を構築し、根拠に基づき、安全・安楽に配慮した日常生活援助を実践することを目的とし設定した。

（2）基礎看護学実習Ⅱ（2 単位 90 時間）

対象に応じた看護を実践するために看護過程を展開し、対象に応じた日常生活援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とし設定した。

（3）地域・在宅看護論実習（2 単位 90 時間）

地域で生活しながら療養する人々と家族の特徴を理解し、終末期を含めた在宅での援助法方法の実践を身につける。また、多職種連携・協働の方法と実際を学ぶことを目的とした。

（4）成人看護学実習Ⅰ（2 単位 90 時間）

（5）成人看護学実習Ⅱ（2 単位 90 時間）

（6）成人看護学実習Ⅲ（2 単位 90 時間）

（4）～（6）は成人期の対象の健康障害及び経過に応じた特徴的な看護を発達段階上の特徴に関連づけて習得するために上記の科目を設定する。

Ⅰでは、疾患や障害を持ちながら生活する慢性期の対象の看護を習得することを目的とした。

Ⅱでは、手術や疾患の急性転化から回復過程をたどる対象の看護を習得することを目的とした。

Ⅲでは、対象の病期に合わせて対象の生活を捉えた看護を習得することを目的とした。

（7）老年看護学実習Ⅰ（2 単位 90 時間）

高齢者の健康の保持及び QOL の維持・向上の看護を高齢者の加齢現象と関連づけて習得することを目的とした。また、施設で生活している高齢者の援助の実際を学ぶことを目的とした。

（8）老年看護学実習Ⅱ（2 単位 90 時間）

高齢者の健康障害及び経過に応じた特徴的な看護を加齢現象と関連して習得する。また、高齢者の家族への看護を習得することを目的とした。

（9）小児看護学実習 (2 単位 90 時間)

こどもの健康障害及び経過に応じた特徴的な看護を成長発達段階の特徴と関連づけて習得する。また、こどもの家族への看護を習得することを目的とした。

（10）母性看護学実習　(2 単位 90 時間)

周産期及びライフサイクルの各期の女性の特徴的な看護を習得する。また、対象の家族への看護を習得することを目的とした。

（11）精神看護学実習 (2 単位 90 時間)

こころの健康障害及び経過に応じた特徴的な看護を習得する。また、接近技法を適用し、対象との人間関係の形成やコミュニケーション能力を身につけることを目的とした。

（12）統合実習 (2 単位 90 時間)

卒後、臨床への適応を安易にするために臨床看護の実務に即した実習を行う。複数受け持ち、多重課題下での優先順位の決定の思考、判断力を身につける。また、一勤務帯を通して看護師の役割、チーム連携、多職種連携について学ぶことを目的とした。

臨地実習の目的・目標

Ⅰ　実習目的

あらゆる健康状態にある対象を統合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養う。

Ⅱ　実習目標

1. 看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。

2. 対象の多様な価値観を受容し、倫理的配慮に基づいた看護実践ができる。

3. 知識・技術を活用し、対象や場に応じた看護実践ができる。

4. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割を理解できる。

5. 看護実践を通して、研究的姿勢を身につける。

6. 看護実践を通して、自己の看護観を培う。

実習科目別・実習目的・目標

◇1年生

基礎看護学実習Ⅰ 1単位（45時間）	<u>基礎看護学実習Ⅰ-1</u> 【目　的】 1.対象の療養環境と、看護師の対象への関わり方を学ぶ。 2.病院の役割・機能と医療従事者の業務とその役割を知る。 【目　標】 1.病院の役割・機能について分かる。 2.対象をとりまく医療従事者の業務とその役割について分かる。 3.対象の療養環境としての生活の場について理解することができる。 4.対象への看護援助の実際について理解することができる。 5.対象とのコミュニケーションを通し、療養に対する思いについて理解することができる 6.実習を通し、看護師としての基本的態度を学ぶことができる。 <u>基礎看護学実習Ⅰ-2</u> 【目　的】 対象の療養生活を理解し、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度をもとに、対象に応じた日常生活援助を実践する。 【目　標】 1.対象の日常生活を理解できる。 2.対象の日常生活援助の必要性について把握することができる。 3.対象に必要な日常生活援助を実践できる。 4.対象に実施した援助について評価することができる。 5.実習を通し、看護師としての基本的態度および倫理的態度を学ぶことができる。

◇2年生

基礎看護学実習Ⅱ 2 単位（90 時間）	【目 的】 対象の生活過程を理解し、対象に応じた日常生活援助を実践するための基礎的能力を養う。 【目 標】 1. 対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響を捉えることができる。 2. 対象に応じたコミュニケーション方法を用いて情報収集ができる。 3. 対象の情報をアセスメントし、健康問題を計画的に解決する方法を学ぶ。 4. 対象の安全・安楽・自立を考慮した根拠に基づく看護計画が立案できる。 5. 対象に応じた日常生活援助を実践し、評価できる。 6. 倫理に基づいた行動をとることができる。
成人看護学実習Ⅰ 2 単位（90 時間）	【目 的】 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で既習した知識・技術・態度を活用し、健康問題の解決や健康課題の達成に向けての看護を実践する。 【目 標】 1. 成人期にある対象を生活者として統合的に理解することができる。 2. 健康障害が対象の生活やセルフケア能力へ及ぼす影響を考えながら、アセスメントし看護実践に繋げることができる。 3. 疾患を抱えながら、よりよく生きるための看護を考え実践することができる。 4. 慢性期または回復期にある対象の看護について自己の考えを深めることができる。
老年看護学実習Ⅰ 2 単位（90 時間）	【目 的】 高齢者の特徴を理解し、対象に合わせた看護を実践できる。 【目 標】 1. 加齢に伴う高齢者の特徴を理解できる。 2. 対象のセルフケア能力に応じた看護を実践できる。 3. 対象の人生観・価値観を尊重し QOL を考慮した関わりができる。 4. 対象の家族の役割を知り家族を支援する必要性を理解できる。 5. 高齢者の生活を支える多職種連携を理解できる。

◇3年生

地域・在宅看護論実習 2 単位（90 時間）	【目 的】 地域で生活するあらゆる人々を理解し、その人らしく生きることを支援する看護を実践するための基礎的能力を養う。 【目 標】 1. 在宅看護が必要な療養者とその家族の状況が理解できる。 2. 療養者とその家族の価値観や意思を尊重した看護がわかる。 3. 継続看護の必要性について理解することができる。 4. 地域で生活している人の健康増進・疾病の予防について理解できる。 5. 地域包括システムにおける看護の役割を理解する。
成人看護学実習Ⅱ 2 単位（90 時間）	【目 的】 基礎分野、専門基礎分野、専門分野で既習した知識・技術・態度を活用しながら統合的に理解し、健康問題の解決や健康課題の達成に向けての看護を実践する。 【目 標】 1. 機能障害や治療により変化した身体的特徴を理解することができる。 2. 急性変化を生じた患者・家族への看護場面から、看護師の役割を考えることができる。 3. 生活変容を必要とする対象の社会的背景、変化を踏まえ、回復を促すための看護を考え実践できる。 4. チーム医療の重要性について理解し、看護師の役割を考えることができる。 5. 急性期・周手術期にある対象の看護について自己の考えを深めることができる。
成人看護学実習Ⅲ 2 単位（90 時間）	【目 的】 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱを基盤に、あらゆる健康段階にある対象の看護を実践する。また、臨床看護実践力を身に着けるための知識・技術・態度を習得し、看護の役割や自己の看護の考えを深めていく。 【目 標】 1. 対象の健康段階（病期）に合わせた特徴についてアセスメントできる。 2. 対象の生命の安全を守り、苦痛の緩和や異常の早期発見を考えながら看護実践につなげることができる。 3. チーム医療の重要性について理解し、看護師の役割を考えることができる。 4. 手術室における看護師の役割を理解することができる。 5. 成人看護学全般を通して、自己の看護観について考えを深めることができる。

老年看護学実習Ⅱ 2 単位（90 時間）	【目 的】 高齢者の特徴を理解し、健康障害に応じた看護を実践できる。 【目 標】 1. 健康障害をもった高齢者の特徴を理解できる。 2. 対象の健康障害に応じた援助が実践できる。 3. 対象の健康障害が家族に及ぼす影響が理解できる。 4. 対象の個人史、信条、信念、価値観を尊重した関わりが実践できる。 5. 対象を取り巻く社会資源を理解し、多職種連携と看護師の役割について理解できる。
小児看護学実習 2 単位（90 時間）	【目 的】 小児看護の対象を統合的に理解し、健康障害をもつ子どもと家族に対する看護が実践できる基礎的能力を養う。 【目 標】 1. 子どもの特徴と成長・発達を理解し、健康レベルや発達段階に応じた援助ができる。 2. 健康障害や入院生活が、子どもとその家族に及ぼす影響を理解できる。 3. 子どもの安全を守るために必要な援助ができる。 4. 子どもと家族の相互関係を理解した関わりについて学ぶ。 5. 子どもと家族への関わりを通して、自己の子ども観を養う。
母性看護学実習 2 単位（90 時間）	【目 的】 母性看護の対象の特徴を理解し、適応を促すための看護を実践できる基礎的能力を養う。 【目 標】 1. ライフサイクル各期の女性の特徴をふまえ、妊婦・産婦の特徴と援助の実際を理解する。 2. 褥婦の特徴を理解し、援助を必要とするニーズや問題を捉え、適応を促すための援助を実践する。 3. 新生児の特徴を理解し、日常の変化や新生児看護の原則に基づいた生活の援助を実践する。 4. 母性看護活動の在り方と社会資源の活用方法が理解できる。 5. 母子の援助を通して、母性の概念が深まり、自己の母性（父性）観を考察する。
精神看護学実習 2 単位（90 時間）	【目 的】 精神障がいをもつ対象を統合的に理解し、自立に向けた看護を行うための基礎的能力を養う。 【目 標】 1. 精神障がいをもつ対象の理解を深めることができる。 2. 精神障がいをもつ対象の自立の程度を把握し、日常生活援助ができる。 3. 看護師に求められる治療的関わりの実践が理解できる。

	4.精神に障がいを持つ対象を取り巻く保健医療福祉の連携や社会資源の活用について理解できる。
統合実習 2単位(90時間)	【目 的】 看護チームの一員として役割を理解し、知識、技術、態度を統合した看護実践ができる。 【目 標】 1.看護チームの業務の流れを把握し、チームの一員としての役割が理解できる。 2.複数の患者のマネジメントをしながら、患者の状況に応じた看護が実践できる。 3.保健医療福祉チームのなかで多職種と協働しながら、看護師としての役割が理解できる。 4.チームリーダーの役割がわかる。 5.統合実習での体験から自己の看護観や今後の課題が明確になる。

教育課程

別表(第7条、第13条関係)

（全部改正[平成21年規則62号、令和3年]）、一部改正[平成22年規則59号・107号、24年52号・27号・101号])

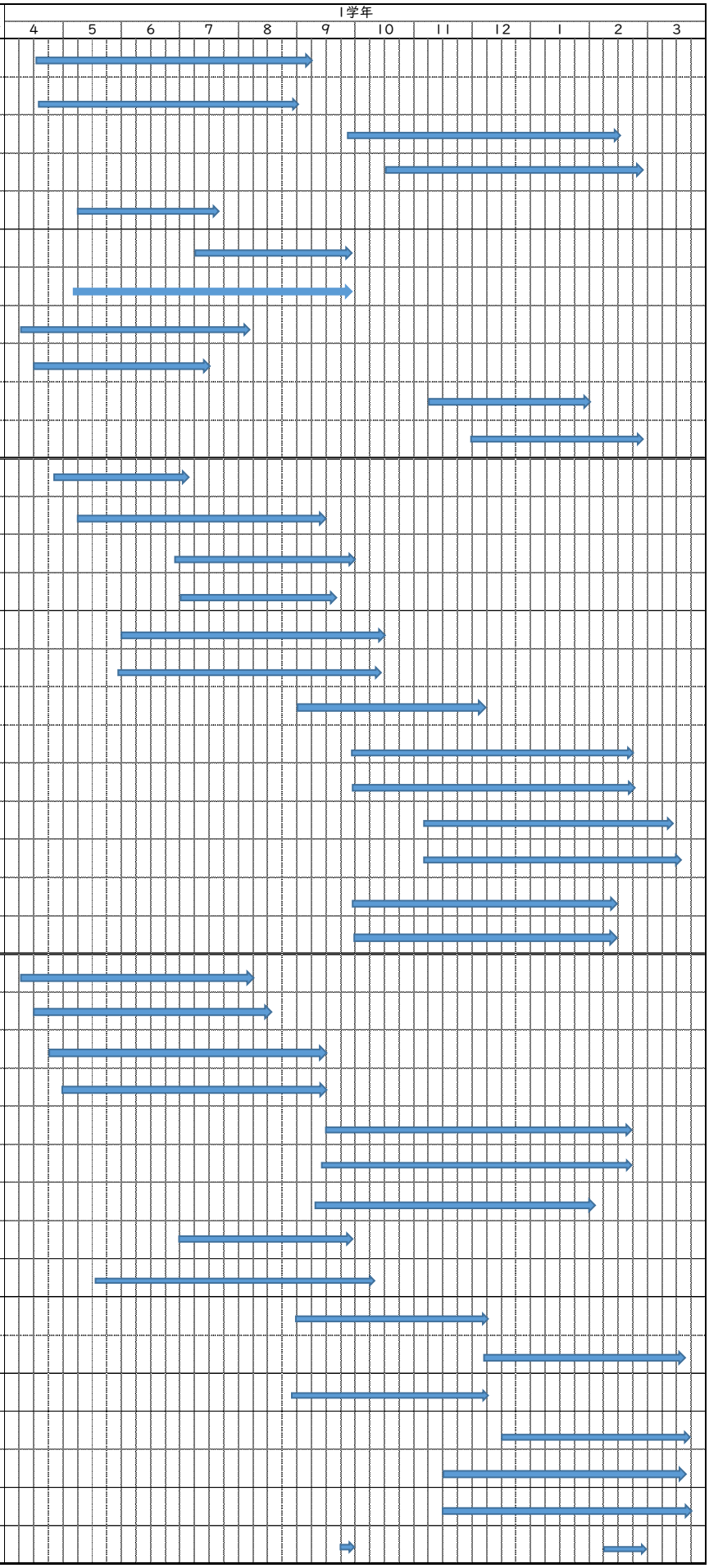
教育内容		授業科目	単位数	授業時間	備考
基礎分野	科学的思考の基盤	哲学	2	30	
		論理学	2	30	
		情報科学	1	30	
		医療英語	1	30	
		生物学	1	15	
		小計	7	135	
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15	
		教育学	1	15	
		心理学	1	30	
		人間関係論	1	30	
		コミュニケーション論	1	15	
		家族論	1	15	
		カウンセリング理論	1	15	
		小計	7	135	
	合計		14	270	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ(呼吸器・循環器)	1	30	
		人体の構造と機能Ⅱ(消化器・内分泌・腎・泌尿器・生殖)	1	30	
		人体の構造と機能Ⅲ（脳・神経・感覚器・骨・筋）	1	30	
		生化学	1	15	
		小計	4	105	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	
		病原微生物学	1	30	
		疾病治療論	1	15	
		疾病の成り立ちと治療Ⅰ(循環・呼吸)	1	30	
		疾病の成り立ちと治療Ⅱ(脳・運動器・視覚)	1	30	
		疾病の成り立ちと治療Ⅲ(消化器・内分泌・代謝)	1	30	
		疾病の成り立ちと治療Ⅳ(腎・泌尿器・生殖器・乳腺)	1	30	
		疾病の成り立ちと治療Ⅴ(生体防御機能・免疫機能・血液・感覚器)	1	15	
		疾病の成り立ちと治療Ⅵ(小児の特徴的な疾患と治療)	1	15	
		疾病の成り立ちと治療Ⅶ（精神障害と治療）	1	15	
		リハビリテーション論	1	15	
		臨床栄養学	1	30	
		臨床薬理学	1	30	
		小計	13	315	
	健康支援と社会保障制度	社会福祉	1	15	
		生活を支える社会福祉制度	1	15	
		健康維持のための予防と支援	1	15	
		公衆衛生の基本	1	15	
		関係法規	1	15	
		国際・災害医療論	1	15	
		小計	6	90	
	合計		23	510	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	
		看護研究	1	15	
		看護研究演習	1	15	
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30	
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30	
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30	
		診療看護技術Ⅰ	1	30	
		診療看護技術Ⅱ	1	30	
		診療看護技術Ⅲ	1	15	
		看護過程	1	30	
		ヘルスアセスメントⅠ（バイタルサイン）	1	15	
		ヘルスアセスメントⅡ（フィジカルアセスメント）	1	15	
		臨床看護総論	1	30	
		看護倫理	1	15	
		小計	14	330	

		授業科目	単位数	授業時間	備考
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論	1	30	
		地域・在宅看護生活援助技術	1	30	
		地域・在宅で療養する対象の看護	1	30	
		健康とくらしを支える看護	1	15	
		地域・在宅で生活する対象を支える看護	1	15	
		地域・在宅看護論看護過程演習	1	30	
		小計	6	150	
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	
		成人期にある対象の看護Ⅰ(消化器・代謝・内分泌)	1	30	
		成人期にある対象の看護Ⅱ(呼吸・循環器)	1	30	
		成人期にある対象の看護Ⅲ(運動・脳神経・感覚器)	1	30	
		成人期にある対象の看護Ⅳ（内部環境・体制防御・血液）	1	30	
		成人看護学看護過程演習	1	30	
		小計	6	180	
	老年看護学	高齢者看護学概論	1	15	
		高齢者の健やかな生活への看護	1	30	
		健康障害のある高齢者の看護	1	30	
		高齢者看護学看護過程演習	1	30	
		小計	4	105	
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	
		こどもの成長・発達に応じた看護	1	30	
		健康障害のあるこどもの看護	1	30	
		小児看護学看護過程演習	1	30	
		小計	4	105	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	
		女性のライフサイクルと健康と看護	1	15	
		女性のライフサイクルと周産期の看護	1	30	
		母性看護学看護過程演習	1	30	
		小計	4	105	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	
		精神障害を持つ対象の看護	1	30	
		精神看護学援助技法	1	15	
		精神看護学看護過程演習	1	30	
		小計	4	105	
	看護の統合と実践	看護管理	1	15	
		医療安全	1	15	
		国際・災害看護	1	15	
		統合技術演習	1	30	
		小計	4	75	
	合計		46	1155	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	
		地域・在宅看護論実習	2	90	
		成人看護学実習Ⅰ	2	90	
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	
		成人看護学実習Ⅲ	2	90	
		老年看護学実習Ⅰ	2	90	
		老年看護学実習Ⅱ	2	90	
		小児看護学実習	2	90	
		母性看護学実習	2	90	
		精神看護学実習	2	90	
		統合実習	2	90	
		合計	23	1035	
講義　合計			83	1935	
実習　合計			23	1035	
総合計			106	2970	

1年次シラバス

1年次 学科進度表

科目			単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	哲　学	2	30
		論理学	2	30
		情報科学	1	30
		医療英語	1	30
		生物学	1	15
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	15
		心理学	1	30
		人間関係論	1	30
		コミュニケーション論	1	15
		家族論	1	15
		カウンセリング理論	1	15
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1	30
		人体の構造と機能Ⅱ	1	30
		人体の構造と機能Ⅲ	1	30
		生化学	1	15
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30
		病原微生物学	1	30
		疾病治療論	1	15
		疾病の成り立ちと治療Ⅰ	1	30
		疾病の成り立ちと治療Ⅱ	1	30
		疾病の成り立ちと治療Ⅲ	1	30
		疾病の成り立ちと治療Ⅳ	1	30
		臨床栄養学	1	30
		臨床薬理学	1	30
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30
		日常生活援助技術Ⅲ	1	30
		診療看護技術Ⅰ	1	30
		診療看護技術Ⅱ	1	30
		看護過程	1	30
		ヘルスアセスメントⅠ	1	15
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論	1	30
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		成人期にある対象の看護Ⅰ	1	30
	老年看護学	高齢者看護学概論	1	15
	小児看護学	小児看護学概論	1	15
	母性看護学	母性看護学概論	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	1	30
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45



1年次　実施科目および評価方法

科目				単位数	時間数	授業形態	講師名	担当時間数	配点	認定方法	認定時期
基礎分野	科学的思考の基盤	哲　学		2	30	講義	笠松　和也	30	100	筆記	前期
		論理学		2	30	講義	米田和美	30	100	筆記・提出物	前期
		情報科学		1	30	講義・演習	安藤さや	30	100	ＰＣを使用しての実技試験	後期
		医療英語		1	30	講義	カール　エイホ　シロマ	30	100	筆記	後期
		生物学		1	15	講義	鶴ケ谷柊子	15	100	筆記	前期
	人間と生活・社会の理解	社会学		1	15	講義	菅原想	15	100	レポート	前期
		心理学		1	30	講義	小沢恵美子	30	100	筆記・課題	前期
		人間関係論		1	30	講義・演習	瀧深徹	30	100	筆記・授業態度	前期
		コミュニケーション論		1	15	講義	岡嶌浩志	15	100	筆記・振り返りシート	前期
		家族論		1	15	講義	菅原想	15	100	レポート	後期
		カウンセリング理論		1	15	講義	岡嶌浩志	15	100	筆記・振り返りシート	後期
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	呼吸器	1	30	講義	櫻井伊三	30	100	筆記	前期
			循環器								
		人体の構造と機能Ⅱ	消化器・内分泌	1	30	講義	村上志津子	30	100	筆記	前期
			腎・泌尿器・生殖器								
		人体の構造と機能Ⅲ	脳神経	1	30	講義	村上志津子	15	50	筆記	前期
			感覚器								
			骨・筋				櫻井伊三	15	50		
		生化学		1	15	講義	鶴ケ谷柊子	15	100	筆記	前期
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学		1	30	講義	宮内潤　他	30	100	筆記	前期
		病原微生物学		1	30	講義	宮崎千鶴	30	100	筆記	前期
		疾病治療論	放射線治療	1	15	講義	外部講師	4	30	筆記	後期
			臨床検査			講義	外部講師	4	30		
			麻酔学			講義	外部講師	6	40		
		疾病の成り立ちと治療Ⅰ	呼吸機能障害と治療	1	30	講義	外部講師(呼吸器)	12	40	筆記	後期
			循環機能障害と治療			講義	外部講師（循内）	10	35		
							外部講師（心外）	6	25		
		疾病の成り立ちと治療Ⅱ	中枢神経機能障害と治療	1	30	講義	外部講師(脳神経内科)	8	30	筆記	後期
							外部講師（脳神経外科）	8	20		
			運動機能障害と治療			講義	外部講師（整形外科）	10	35		
			感覚器障害と治療			講義	外部講師（眼科）	4	15		
		疾病の成り立ちと治療Ⅲ	消化器機能障害と治療	1	30	講義	外部講師（消化器内科）	12	40	筆記	後期
							外部講師（消化器外科）	10	35		
			内分泌機能障害と治療			講義	外部講師（内科）	6	25		
		疾病の成り立ちと治療Ⅳ	泌尿器機能障害と治療	1	30	講義	外部講師（泌尿器科）	10	35	筆記	後期
			腎臓機能障害と治療			講義	外部講師（腎臓内科）	4	15		
			女性生殖器機能障害と治療 周産期の異常			講義	外部講師（産婦人科）	12	40		
			乳腺			講義	外部講師（乳腺外科）	2	10		
		臨床栄養学		1	30	講義・演習	張替　泰子	15	50	筆記	後期
						講義・演習	西村かおる	15	50		
		臨床薬理学		1	30	講義	日比徹	24	80	筆記	後期
							渡邉正教				
							外部講師	6	20		
専門分野	基礎看護学	看護学概論		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記・レポート	前期
		日常生活援助技術Ⅰ		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・レポート	前期
		日常生活援助技術Ⅱ		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・レポート	前期
		日常生活援助技術Ⅲ		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・レポート	前期
		診療看護技術Ⅰ		1	30	講義・演習	専任教員	28	100	筆記・レポート	後期
						講義・演習	外部講師	2			
		診療看護技術Ⅱ		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・レポート	後期
		看護過程		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記・レポート	後期
		ヘルスアセスメントⅠ		1	15	講義・演習	専任教員	15	100	筆記・レポート	前期
	地・在	地域・在宅看護論概論		1	30	講義	専任教員	28	100	筆記	前期
						講義	外部講師	2			
	成人	成人看護学概論		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	後期
		成人期にある対象の看護Ⅰ		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	後期
	老年	高齢者看護学概論		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記	後期
	小児	小児看護学概論		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記・課題	後期
	母性	母性看護学概論		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	後期
	精神	精神看護学概論		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	後期

基 礎 分 野

感性豊かな人間性を形成するため、専門基礎分野や専門分野を学ぶ上で、考え方の基礎となる一般教養と科学的思考を身につける。

基礎分野	科目名：哲　学	講師	笠松　和也	２単位（30時間） １年次前期～後期
ね ら い	生命倫理や哲学の具体的な問題に対して、自分なりの意見を形成し、他人と意見交換できるようになる。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
１・２	哲学者たちは何を考えているのだろうか	哲学の基本的な問いの姿勢について学ぶ	講義
３～９	哲学者たちの議論を追いかける	主に以下の哲学者たちの議論を扱う プラトン、デカルト、ライプニッツ、カント、ハイデガー、ヴェイユ	講義
10～14	哲学や科学の歴史の中で「生」と「死」がどのように捉えられてきたかを学ぶ	主に以下の点から生命について考える （１）歴史的にみて「生」や「死」という概念はどのように生じてきたのか （２）現代において「生」や「死」はどのようなものとして扱われているのか （３）私たちは「生」や「死」に対してどのように向き合っていくべきか ※必要に応じて授業中にディスカッションの時間を設ける	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
特になし

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 野矢茂樹『哲学の謎』講談社現代新書 【参考文献】 金森修『動物に魂はあるのか 生命を見つめる哲学』中公新書 その他、授業中に適宜紹介する

基礎分野	科目名：論理学	講師	米田　和美	2単位（30時間） 1年次前期
ねらい	筋道の通った考え方、物事を客観的に判断できる能力と、事実を正しく解釈できる思考を訓練する。 1.　論理的思考を養う。（文章の読解及び表現ができる。物事を筋道たてて正しく考える。） 　1）「読む」「書く」を中心に文章の書き方を身につける。「一文一義」の文が書けるようになる。 　2）「聞く」「話す」を中心に言葉の運用能力の向上を図る。 2.将来、研究論文を書くための文章構成法を身につける。			

回数	主　題	学習内容	講義形態
1～15	1.論理的な思考 2.文の七原則 3.事実の読み方 （いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どうした） 4.主張と理由 5.論評 論文文章の批判的検討	1～5について、次の方法で学習する。 1）資料文を読み、意見文を書く。 2）意見文を選択し、批判的に検討する。 3）例文（悪文）を書き直す。 4）検討意見文で学んだことを反映させ、各自の意見文を検討する。 これを繰り返し行う。	講義 演習

受講上の留意点
特になし

評価方法	テキスト・参考文献
1.意見文 2.提出物	【テキスト】 なし 授業中にプリントを配布する。

基礎分野	科目名： 情 報 科 学	講師	安藤　さや	1単位（30時間） 1年次後期
ね ら い	カルテやレセプト（診療報酬明細）などをはじめ、医療現場ではコンピュータシステムが利用されています。 　医療に限らず日常生活においても今やコンピュータはあって当たり前のものとなってきました。患者はインターネットで病院情報を検索し、予約システムで診療を予約し、家に帰って処方された薬の情報をインターネットで検索する時代です。 　この授業では日常のツールということからの単なるアプリケーションの操作だけでなく、セキュリティや個人情報の保護といったことも学習していきます。 また、臨床に出てからの看護研究で円滑にＩＣＴを活用できるようにしていきます。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～14	・コンピュータに関する基本事項の説明（セキュリティなどを含む） ・オフィスソフトの基本操作	1.コンピュータとセキュリティ、個人情報保護について 2.ビジネス文書、表の作成（Word） 3.レポートの作成（Word） 4.データの集計、グラフの作成（Excel） 5.発表資料の作成（PowerPoint）	演習
15	終講試験		試験

受講上の留意点
第1回目の講義前に準備としてアカウント作成を行う時間を設けます。作成したアカウントを用いて授業を進めていきます。紛失しないように管理をしてください。また、授業に欠席した場合は次の授業までに欠席した内容を各自学習して臨むようにしてください。

評価方法	テキスト・参考文献
各段階での提出物、学習態度、終講試験から総合的に評価	【テキスト】 　検討中のため初講前には購入します。

基礎分野	科目名：医 療 英 語	講師	CARL EIHO SHIROMA カール　エイホ　シロマ	1単位（30時間） 1年次後期
ね ら い	将来医療現場でも直面するだろう国際化に備えて、医療関連英文の読解力と医療専門用語力を高める。 コミュニケーションのために必要な語彙力・表現力・文法力の養成を図る。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1 ～ 15		テキストに沿って医療・看護関連の英文を丁寧に読み進めながら、英語習得のための4技能（Reading、Writing、Listening、Speaking）をバランスよく向上させる。 テキスト以外の英文も適宜プリント等で提示しなるべく多くの英文に触れるようにする。 更に自信を持って英文が組み立てられるようにプリント等を利用して基本文法を根本から理解し、コミュニケーション能力の向上を図る。	講義

受講上の留意点
授業時に、辞書を持参すること。（電子辞書も可） 予習、復習を徹底すること。

評価方法	テキスト・参考文献
出席状況、宿題、授業における発表等を平常点とし、中間・学期末テストの結果と併せて総合的に評価する。	【テキスト・参考文献】 Check-Up! Basic English for Nursing　金星堂

基礎分野	科目名：生　物　学	講師	鶴ケ谷　柊子	1単位（15時間） 1年次前期
ねらい	1. ヒトを含む生物の世界全体について理解する。 2. 生命と生物の仕組みの基本概念を習得し、今後学習する分野の理解に役立てる。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	生物とは	生物の分類と特徴	講義
2	動物の体のつくり①	器官の種類と細胞	講義
3	動物の体のつくり②	消化・吸収に関係する器官	講義
4	動物の体のつくり③	呼吸・循環に関係する器官	講義
5	動物の体のつくり④	運動・感覚に関係する器官	講義
6	動物の体のつくり⑤	生殖に関係する器官、受精・発生	講義
7	生物の多様性	進化、環境とのかかわり	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

講義内容は状況によって変動する場合があります。
生化学や解剖生理学などこれから学ぶ内容へのつながりを意識しながら学習してください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 100点満点とし、60点以上で単位取得とする。	【テキスト】 なし 【参考文献】 系統看護学講座　生物学　医学書院 看護系で役立つ生物の基本　化学同人

基礎分野	科目名：社　会　学	講師	菅原　想	1単位（15時間） 1年次後期
ねらい	さまざまな次元の社会関係（友人・家族・地域・都市・国家など）を連関的に捉え、その総体を考察してきた社会学の視点と方法にもとづき、個人・集団・共同体のあり方や貧困・差別・暴力などの問題について考える。自身の「常識」に反省的なまなざしを向け、現代社会の諸問題を多様な視点から広い視野で見渡せるようになることがねらいである。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	社会学とは何か	社会学とはどのような学問なのか。「社会学的想像力」という概念を通して、社会学の特徴と社会学を学ぶ意義について考える。	講義
2	社会学の基礎概念① 自己と他者	社会学では人間を社会的存在と捉える。自己と社会との関連をめぐる概念や議論を通して、社会学的な人間観の意義について考える。	講義
3	社会学の基礎概念② 集団と共同体	私たちの生活は集団や共同体の存在と切り離しえない。集団のメカニズム（社会的ジレンマ、集団凝集性など）について理解し、現代のコミュニティ（SNSなど）のあり方について考える。	講義
4	社会問題を考える① 格差と貧困	個人のおかれた境遇を「自己責任」で片づけることはできない。現代社会における不平等の実態と背景について学び、この問題にどのように向き合うべきか考える。	講義
5	社会問題を考える② 犯罪と逸脱	犯罪をめぐる社会学の理論について学び、現代の刑事司法（少年法、医療観察制度など）のあり方を通して犯罪の抑止や加害者の更生などの問題について考える。	講義
6	社会問題を考える③ 差別と偏見	社会的な「排除」や「分断」が大きな社会問題になっている。現代社会における差別の実態と背景について学び、多様性が尊重される社会とはどのような社会なのか考える。	講義
7	社会問題を考える④ グローバリゼーション	国家の枠組みを超えたモノやヒトの移動がもたらす世界的な貧困問題や移民問題の実態と背景について学び、私たちの社会的な責任と異文化共生の可能性について考える。	講義
8	まとめ	これまでの講義の振り返りを行う。	講義

受講上の留意点

授業は、パワーポイントとそれを印刷したレジュメにもとづいて行う。各自の関心ある内容については、文献・論文で自習するとよい。

評価方法	テキスト・参考文献
レポート試験を行う	授業中に関連するテキストを紹介する。

基礎分野	科目名：心　理　学	講師	小沢　恵美子	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	心理学は私たちの日常生活や行動に関係する学問です。私たちの心の世界がどのような特徴を持つのか、講義を通して理解し、説明できるようにしましょう。また、今までの自分の経験と理論を結びつけて考えることや、自分とは異なる他者についても考えてみましょう。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	心理学の歴史	心理学のはじまりと移り変わり	講義
2	学習心理学	古典的条件づけとオペラント条件づけ	講義
3	学習心理学	技能学習、社会的学習	講義
4	知覚心理学	視覚を中心とした感覚	講義
5	知覚心理学	聴覚、触覚	講義
6	認知心理学	注意	講義
7	認知心理学	記憶、言語	講義
8	社会心理学	自己と他者のかかわり	講義
9	社会心理学	社会・集団の影響力	講義
10	パーソナリティ心理学	パーソナリティの分類、形成・発達	講義
11	臨床心理学	精神分析療法、クライエント中心療法	講義
12	発達心理学	乳児期	講義
13	発達心理学	幼児期、児童期	講義
14	発達心理学	思春期以降	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
授業はテキストに沿って進めていくので、忘れずに準備しましょう。 「後でやればいい」ではなく、できる時にできる事を積み重ねていきましょう。

評価方法	テキスト・参考文献
リアクションペーパーや課題（レポート）と終講試験の総合評価	【テキスト】 心理学入門　こころを科学する10のアプローチ　板口典弘・相馬花恵　講談社（2017年）

基礎分野	科目名： 人間関係論	講師	瀧深　徹	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	コミュニケーションの基本を理解し、人間関係の重要性と困難性を再確認するとともに困難性を緩和するための人間関係に関する技術を習得する。			

回数	主　題	学習内容	講義形態
1･2	授業オリエンテーション アイスブレイク	・授業の構造とテーマについて ・アイスブレイキングゲーム　等	講義 演習
3･4	出会いの人間関係	・第一印象、主体的自己、客体的自己 ・「私」アンケートと自己紹介、振り返り	講義 演習
5･6	相互理解のために	・自己開示、フィードバック、他者理解 ・演習ゲーム　等	講義 演習
7･8	エンカウンター	・屋外におけるリラックスとスポーツ体験 ・エンカウンター体験のゲーム　等	実習 講義
9･10	話し方、聞き方	・話し上手、聞き上手とは？ ・話し方・聞き方の自己診断	講義 演習
11･12	コミュニケーションスキル	・言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション ・あいづち話法、アサーション、聴く、話す、観る	講義 演習
13･14	特別な人間関係	・援助的役割の人間関係と積極的援助技法 ・リーダーシップ	講義 演習
15	まとめと小テスト （終講試験）	・まとめと小テスト	試験

受講上の留意点
講義・演習等を通じて、仲間と自分自身に向きあっていきましょう

評価方法	テキスト・参考文献
①受講に対する意欲・態度 ②演習の記録 ③小テスト　等	授業中に配布・紹介します

基礎分野	科目名： コミュニケーション論	講師	岡嶌　浩志	1単位（15時間） 1年次前期
ねらい	コミュニケーションについての基本的知識と技術を学び、他者とのよりよい対人関係を構築できるよう自分と他者を尊重したコミュニケーションについて理解する。 　特にグループワークによる自己と他者の受容、理解、かつ表現する相互交流を通して、体験的に対人援助の基本となるコミュニケーションスキルを学習する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	ガイダンス・コミュニケーションとは	講義のねらいと内容を理解し、自己紹介を中心としたワークを行う。	講義
2	自分を知る・他者を知る体験（エンカウンターグループ）	エンカウンターグループのルールを理解し、グループの相互理解や相互交流を体験的に行う。	講義 演習
3	コミュニケーションの基礎知識と共感・傾聴	コミュニケーションの基礎知識と特徴を学び、共感や傾聴の練習をする。	講義 演習
4	コミュニケーションの基本的スキル、自己理解を深める	聞く・話す・受け止める練習をし、TEG を用いて自己理解を深める。	講義 演習
5	ABC 理論と感情コントロール	ABC 理論について学び、合理的思考を理解する。また、感情コントロールのメカニズムについても学ぶ。	講義
6	アサーショントレーニングとコンセンサスゲーム	アサーションについて理解し、グループワークにおいて意見を一致させる体験をする。	講義 演習
7	ABC 理論の補足と発達障害・児童虐待	ABC 理論をさらに深め、コミュニケーションの取りづらい発達障害や児童虐待についても理解を深める。	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
話し合いやグループワークなどに積極的に参加し、わからないことは質問すること

評価方法	テキスト・参考文献
出席を基本とし、振り返りシートと終講試験で総合的に評価する。	テキスト：プリント使用 参考文献：授業の中で適宜紹介

基礎分野	科目名：家　族　論	講師	菅原　想	1単位（15時間） 1年次後期
ねらい	日本における家族の特徴とその変遷を学び、多様化する家族の課題と可能性について考える。家族とは、私たちを支えるもっとも基礎的な集団と思われがちであるが、実際の家族は極めて多様である。いまや「当たり前」の家族像は容易に想定できない。身近な存在である家族の現状を糸口にして、ケアをめぐる現代社会の課題について理解することがねらいである。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	家族とは何か	人間にとって家族とは何か。家族をめぐる定義の問題などを踏まえたうえで、家族について学ぶ意義を考える。	講義
2	社会構造と家族① 伝統的な家制度	家族に関する基本的な概念や家族の構造と機能に関する議論を整理したうえで、日本特有の家族形態とされた「家」の特徴について考える。	講義
3	社会構造と家族② 近代化と近代家族	戦後日本社会において一般化した家族形態を近代家族と呼ぶ。この近代家族とは何かについて、性別役割分業や子ども中心主義などの特徴を考える。	講義
4	現社会構造と家族② 家族の多様化	現代社会において、家族のあり方は多様化している（事実婚や同性婚など婚姻形態の多様化、単独世帯や共働き世帯の増加など）。多様化する家族の実態とその課題について考える。	講義
5	家族とケア① 家事の問題を手がかりに	現代家族が抱える「家事」の問題を糸口にして、男性と女性の社会的性差および男性中心社会を問うジェンダー論や近年の性的マイノリティ（LGBTQ）をめぐる問題について考える。	講義
6	家族とケア② 育児の問題を手がかりに	現代家族が抱える「育児」の問題糸口にして、現代社会における児童虐待や社会的孤立の問題、「親ガチャ」という言葉が流行る背景などについて考える。	講義
7	家族とケア③ 介護の問題を手がかりに	現代家族が抱える「介護」の問題を糸口にして、現代社会における少子高齢化の問題や安楽死の法制化をめぐる日本社会特有の課題について考える。	講義
8	まとめ	これまでの講義の振り返りを行う。	講義

受講上の留意点

授業は、パワーポイントとそれを印刷したレジュメにもとづいて行う。各自の関心ある内容については、文献・論文で自習するとよい。

評価方法	テキスト・参考文献
レポート試験を行う	授業中に関連するテキストを紹介する。

基礎分野	科目名： カウンセリング理論	講師	岡嶌　浩志	1単位（15時間） 1年次後期
ねらい	カウンセリングは、臨床心理学の考え方を基盤に「クライアントをどのように理解し、いかに関わるか」を吟味しながら行われる。本授業では、カウンセリングの基本知識を体験的に学習して、看護における心理的援助の在り方を考える。また、看護場面においても心の援助を行うために基本的な知識と考え方、方法を学ぶ機会とする。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	カウンセリングとは何か カウンセリングの基本姿勢	カウンセリングの定義から始まり、「対話精神療法の初心者への手引き」をもとに話を聴く方法について具体的に学習する。	講義
2	カウンセリングの基本技法	カウンセリングの技法を理解し、ペアワークの中で、技法を使う練習を行う。	講義 演習
3	カウンセリングの流れ 精神分析	クライアントに肯定的なメッセージを伝える練習を行う。 精神分析・転移逆転移・防衛機制について学ぶ	講義
4	自己理解を深める	ユングのパーソナリティ論に基づいた8類型のテストを体験し、自己理解を深める。	講義 演習
5	行動療法 心理アセスメント	行動療法の考えを学ぶ。 心理検査をいくつか紹介し、「風景構成法」を体験する。	講義 演習
6	クライアント中心療法 家族療法・短期療法	クライアント中心療法の「共感」についてペアワークの中で練習する。 家族療法をシステム理論の観点から理解し、短期療法（解決志向アプローチ）の流れをロールプレイを通して学ぶ。	講義 演習
7	認知行動療法 マインドフルネス認知療法 リラックス法	認知行動療法とそれをさらに発展させたマインドフルネス認知療法を理解する。 呼吸法などのリラックス法を体験する。 自律訓練法を理解し、体験的に学習する。	講義 演習
8	終講試験		試験

受講上の留意点
話し合いやグループワークなどに積極的に参加し、わからないことは質問すること

評価方法	テキスト・参考文献
出席を基本とし、振り返りシートと終講試験で総合的に評価する。	テキスト：プリント使用 参考文献：授業の中で適宜紹介

専 門 基 礎 分 野

看護学を学ぶ上で土台となる「人体の構造」「疾病の成り立ちと回復の促進」に関する科目があり、人体を系統立てて理解し、健康や疾病に関する観察力と判断力を身につける。

専門基礎分野	科目名： 人体の構造と機能Ⅰ 【呼吸器、循環器】	講師	櫻井　伊三	Ⅰ単位（30時間） Ⅰ年次前期
ねらい	医療を行うための最も基本的な知識である「人体の成り立ち」を理解するために学ぶ学問である。人体は生命維持に働く植物機能と生命活動を行う働きの動物機能の２つの群によって営まれている。ここでは前者の血液循環・呼吸器系などのような生命活動をするはたらきの器官系群を学習する。器官系毎に解剖学と生理学の知識を効果的に関連させ、最終的には人体を一個の統合体として有機的に理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
Ⅰ～3	総論	・人体の素材としての細胞・組織・皮膚 （身体を構成し臓器を守るしくみ） ・器官の位置 ・人体の方向・区分	講義
4～8	呼吸 （酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ） ５回	・呼吸器系の構成（鼻、喉頭、気管、肺、縦隔） ・ガス交換とガス運搬 ・肺の循環と血流 ・呼吸運動の調節	講義
9～14	血液の循環 （体のすみずみまで血液を送るしくみ） ６回	・循環器系の構成、心臓の構造、心臓の排出機能 ・末梢循環器系の構造、血液循環と血圧・血流量の調節 ・血液の構成成分とその機能（物質を運搬するしくみ） ・赤血球の新生と破壊、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液凝固と繊維素溶解、リンパとリンパ管	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
予復習を十分に行うことを心がけて欲しい。講義は学習の一手段に過ぎないことを認識し、各人に適した学習方法を追加することにより更に知識を深め、確実なものとするよう心がけて欲しい。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　解剖生理学　メディカ出版 【参考文献】 人体の正常構造と機能シリーズ　全１０巻　日本医事新報社 （図書室で閲覧可） 目で見るからだのメカニズム　医学書院

専門基礎分野	科目名：　人体の構造と機能Ⅱ 【消化器・内分泌、腎・泌尿器・生殖器】	講師	村上　志津子	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	医療を行うための最も基本的な知識である「人体の成り立ち」を理解するために学ぶ学問である。人体は生命維持に働く植物機能と生命活動を行う働きの動物機能の2つの群によって営まれている。ここでは前者の消化、代謝、排泄、内分泌、生殖などに関わる器官系群を学ぶ。解剖学と生理学の知識を効果的に関連させ、人体を一個の統合体として理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～5	栄養の消化と吸収 （食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ） 5回	・食物の通り道である口腔・咽頭・食道の構造と機能 ・食物消化を担う胃の構造と機能 ・栄養の消化と吸収を担う小腸の構造と機能 ・食物残渣をまとめて糞便形成を担う大腸の構造と機能 ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義
6～8	体液の調節 （尿をつくるしくみ） 3回	・泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）の構造と機能 ・腎臓の機能（尿生成のメカニズム） ・体液の調節（水分と電解質平衡、酸塩基平衡）	講義
9～11	内臓機能の調節 （内部の環境を整えるしくみ） 3回	・内分泌系とホルモン ・全身の内分泌線と内分泌細胞の構造と機能 （視床下部・下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎、性腺） ・ホルモンによる調節（血糖、ストレス、血圧）	講義
12～14	生殖と発生 （子孫を残すしくみ） 3回	・男性生殖器の構造と機能 ・女性生殖器の構造と機能 ・受精、着床、初期発生過程	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
予復習を十分に行うことを心がけて欲しい。講義は学習の一手段に過ぎないことを認識し、各人に適した学習方法を追加することにより更に知識を深め、確実なものとするよう心がけて欲しい。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　解剖生理学　メディカ出版 【参考文献】 系統看護学講座　解剖生理学　医学書院 人体の正常構造と機能シリーズ　全１０巻　日本医事新報社 （図書室で閲覧可） 目で見るからだのメカニズム　医学書院

専門基礎分野	科目名： 人体の構造と機能Ⅲ 【脳神経、感覚器、骨・筋】	講師	村上　志津子 櫻井　伊三	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	医療を行うための最も基本的な知識である「人体の成り立ち」を理解するために学ぶ学問である。人体は生命維持に働く植物機能と生命活動を行う働きの動物機能の2つの群によって営まれている。ここでは後者の脳・神経・感覚器、骨・筋などの生命活動に働く機能に関わる器官系群を学ぶ。解剖学と生理学の知識を効果的に関連させ、人体を一個の統合体として理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～5	神経系 （情報の受容と伝達のしくみ） 5回	・神経組織の構造と機能（ニューロンとグリア、シナプス） ・脳の構造と機能（大脳、間脳、脳幹、小脳） ・脊髄の構造、伝導路（下行路と上行路） ・末梢神経の構造、脳神経と脊髄神経 ・自律神経系（交感神経と副交感神経）	講義
6～7	感覚器系 （外部から情報を取り入れるしくみ） 2回	・眼の構造と視覚 ・耳の構造と聴覚、味覚と嗅覚	講義
8～10	外部環境からの防御 （外部の攻撃から身体を守るしくみ） 3回	・皮膚の構造と機能 ・生体防御（自然免疫と獲得免疫） ・体温とその調節	講義
11～14	からだの支持と運動 （体を支え動かすしくみ） 4回	・運動器系の構造（骨格系、筋系、関節・靭帯） ・関節の形状・可動性、骨格筋の作用と支配神経 ・体幹の骨格と筋、上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋 ・骨格筋の収縮機構、不随筋の収縮の特徴	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
予復習を十分に行うことを心がけて欲しい。講義は学習の一手段に過ぎないことを認識し、各人に適した学習方法を追加することにより更に知識を深め、確実なものとするよう心がけて欲しい。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　解剖生理学　メディカ出版 【参考文献】 系統看護学講座　解剖生理学　医学書院 人体の正常構造と機能シリーズ　全１０巻　日本医事新報社 （図書室で閲覧可） 目で見るからだのメカニズム　医学書院

専門基礎分野	科目名: 生　化　学	講師	鶴ケ谷 柊子	1 単位（15 時間） 1 年次前期
ね ら い	1. 生体構成成分の性質と機能を理解する。 2. 遺伝情報とその発現の基礎を理解する。 3. 元素記号や化学物質の濃度算出方法など、化学の基礎について理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	生物を構成する物質	生物を構成する物質、代謝、酵素	講義
2	生体の構成成分①	糖質と代謝	講義
3	生体の構成成分②	脂質と代謝	講義
4	生体の構成成分③	タンパク質と代謝	講義
5	エネルギー代謝、ビタミン	エネルギーの代謝の統合と制御、ビタミンと欠乏症	講義
6	核酸、遺伝情報①	核酸・ヌクレオチドと代謝、遺伝情報の転写・翻訳	講義
7	遺伝情報②、先天性代謝異常	突然変異、先天性代謝異常	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

講義内容は状況によって変動する場合があります。毎講義前にテキストの該当箇所に目を通しておいてください。生物学や、これから学ぶ栄養学などとのつながりを考えながら学習してください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100 点 100 点満点とし、60 点以上で単位取得とする。	【テキスト】 ナーシング・グラフィカ　臨床生化学　メディカ出版 【参考文献】 ナーシング・サプリ　イメージできる生化学・栄養学　メディカ出版 看護学テキストNiCE 生化学 南江堂

専門基礎分野	科目名：病　理　学	講師	宮内潤・赤塚誠哉 尾島英知・菊地淳 林雄一郎	1 単位（30 時間） 1 年次前期
ね　ら　い	看護師として知っておかねばならない病理学の基礎知識について、これらが実際の臨床現場でどのように活かされるかを解説し、理解してもらう。病気の成り立ちについて、具体的な臓器・組織の形態変化（病変）から説明する。看護師として患者に接するとき、その患者にどのような変化(病態)が起こっているのか、またどのような意図を持って治療が行われるのかを理解させる。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1 ～ 14	病理学で学ぶこと 細胞・組織の障害と修復 循環障害 炎症と免疫 移植と再生医療 感染症 代謝障害 先天異常と遺伝子異常 腫瘍 病理診断の実際	病理学とは何かという基本的な内容とともに、基礎分野でありながら臨床分野でもある臨床病理学について解説する。病理学は病気の成り立ちを主に臓器や組織の形態の変化を通して追求してきたが、時代とともに生化学・免疫学・分子生物学等が研究方法に取り入れられ、新たな学問の展開が示されている。授業ではこれらの新しい知識を取り入れた形で病理学の総論を講義する。総論は人体に起こる病的現象を炎症や腫瘍といった病変群に分けて説明する。病気の理解を深めるために臓器別の病変(各論)も適宜加えて説明し、看護師として臨床的に知っておかねばならない事項を重点的に学習させる。	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
授業中に多くの臨床病理学的事項を説明するため、集中して講義に臨むこと。講義では多様な専門用語が使われる。言葉の意味や定義を正確に理解すること。病理学の教科書だけでなく解剖学、生理学、生化学等の教科書の関連事項にも目を通すこと。授業内容を必ずその日のうちに教科書を読んで確認すること。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座 病理学 医学書院 【参考文献】 藤田尚男・藤田恒夫：標準組織学総論、第５版、医学書院 2015 年 藤田尚男・藤田恒夫：標準組織学各論、第４版、医学書院 2010 年 菊地浩吉：病理形態学、第 17版、南山堂 2004 年 長村義之：エッセンシャル病理学、第６版、医歯薬出版 2009 年 シンプル病理学 改定７版 編集 笹野公伸,岡田保典,安井弥 南江堂 クイックマスター病理学 新訂版 第２版 堤寛著 サイオ出版

専門基礎分野	科目名：病 原 微 生 物 学	講師	宮﨑　千鶴	1 単位（30 時間） 1 年次前期
ね ら い	人が生活する場には、さまざまな肉眼では見ることのできない微生物が存在する。微生物の活動は人その他の生物の生活にとってなくてはならないものであるが、なかには人の生体を生息場所とする種もあり、これらの微生物は人の生命活動における健康と病態に深く関わっている。人の健康とは何か、病気とは何かを微生物との関わりを通して理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1 ～ 14	1．微生物学総論	病原微生物の生物分類における位置 病原微生物の性状、生息環境 滅菌と消毒、感染防止対策 感染症の診断 感染症の治療（化学療法）	講義
	2．免疫学	感染と発病（感染症） 生体防御（免疫）反応のしくみ 免疫病	講義
	3．微生物学各論	細菌、真菌、原虫、ウイルスなどからなる主要な微生物の種類と性状 感染症への関わり 感染症法	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
理解のためにはテキストを読んでくるなどの予習が大切となる。

評価方法	テキスト･参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　臨床微生物・医動物　メディカ出版 【参考文献】 講義中に紹介する。

専門基礎分野	科 目 名 :疾病治療論	講師	外部講師	1 単位（15 時間） 1 年次前期
ね ら い	1.放射線診断・治療の目的と特徴、種類と適応、放射線防護と健康管理について理解し、看護の役割について理解する。 2.臨床検査の目的、種類とその方法・留意点を理解し、看護師の役割について理解する。 3.麻酔の目的・方法・合併書を理解し、看護師の役割について理解する。 4.生命維持装置の管理について理解し、看護師の役割について理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1・2	放射線医学	1. 放射線医学の成り立ち 2. 放射線診断学 X線の性質・種類・X線検査の看護と患者指導 3. MRI、超音波診断、核医学診断 4. 放射線治療、放射線防護と健康管理	講義
3・4	臨床検査	1. 臨床検査とその役割、臨床検査の流れと看護師の役割、尿検査、系統別臨床検査の進め方、免疫・血清検査 2. 一般検査、生化学検査、ホルモン検査 3. 血液検査 輸血検査 4. 病理検査、微生物検査 5. 生理機能検査	講義
5～7	麻酔学	1. 全身麻酔、腰椎麻酔等について 2. 術中輸液管理、サードスペース、ペインコントロールについて 3. 気管内挿管、手術による生命維持装置について ・人工呼吸器・人工心肺装置	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100 点 （放射線医学）（臨床検査（麻酔学） 合計 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

専門基礎分野	科目名: 疾病の成り立ちと治療Ⅰ （循環器・呼吸器）	講師	外部講師	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	主な循環器・呼吸器疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、循環器及び呼吸器疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得する。内科的治療の側面から、各種疾患の検査・治療を理解できるようにする。また、各種疾患の外科的治療および術式について理解する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
	循環器内科		講義
1	循環機能低下のメカニズムと主な症状	1）心不全の原因と主な症状 （1）形態の異常（2）刺激伝導系の異常 （3）冠状動脈の異常 2)血圧の異常	
2～4	虚血性心疾患 （狭心症・心筋梗塞）	1）原因及び症状 2）主な検査：（1）心電図 （2）負荷心電図 （3）心エコー （4）心臓カテーテル法 3）主な治療：（1）カテーテルによる治療 （2）薬物療法	講義
5	心臓弁膜症・心筋症 高血圧症	1）原因及び症状 2）主な検査及び治療：薬物療法	講義
6～8	循環器外科	1）主な症状：（1）血管の形態の異常・閉塞 （2）弁機能障害 2）主な疾患：（1）大動脈瘤 （2）先天性心疾患 （3）虚血性心疾患 3）主な治療：（1）大動脈瘤 （2）先天性心疾患 （3）虚血性心疾患	講義
	呼吸器		
9	呼吸機能障害のメカニズムと主な症状	（1）呼吸困難 ①ガス交換障害 ②気道障害 ③呼吸中枢障害	講義
10	肺炎 肺結核	①X線検査 ②動脈血ガス分析 ③酸素療法 ④薬物療法 ①喀痰検査	講義
11	気胸	①胸腔ドレナージ	講義
12	肺癌	①手術療法 ②薬物療法	講義
13	慢性閉塞性肺疾患	①呼吸機能検査 ②酸素療法 ③呼吸リハビリテーション	講義
14	呼吸不全	①人工呼吸療法 2）気管支喘息 ①吸入薬物療法	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点

解剖生理学を復習して講義に臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 循環器（16時間）・呼吸器（12時間） 合計 100点満点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト・参考文献】 ナーシンググラフィカ 循環器 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 呼吸器 メディカ出版

専門基礎分野	科目名: 疾病の成り立ちと治療Ⅱ (脳神経・運動器・感覚器)	講師	外部講師	1 単位(30 時間) 1 年次後期
ね ら い	脳神経・整形外科・眼科の主な疾患の原因・症状・診断・治療などの理解を深め、各疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得する。内科・外科的治療の側面から、各種疾患の検査・治療を理解する。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
	脳神経内科		講義
1・2	脳神経障害のメカニズムと主な症状①	1)意識障害 2)高次脳機能障害 3)運動機能障害 4)感覚機能障害 5)反射性運動の障害 (6)髄膜刺激症状 7)頭痛	
3	主な疾患とその治療	1)脳血管障害:脳梗塞・TIA・高血圧性脳症) (1)原因 (2)主な検査:神経学的検査・CT・MRI (3)主な治療:薬物療法 2)パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症 筋萎縮性側索硬化症 (1)原因 (2)主な検査:神経学的検査・自律神経機能検査 1)頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 2)バイタルサインの変化	講義
	脳神経外科		
4~7	脳神経障害のメカニズムと主な症状②	1)脳血管障害:クモ膜下出血・脳内出血・脳動脈奇形 2)脳腫瘍 3)頭部外傷(硬膜下出血) 4)脳神経手術後のてんかん 5)水頭症	講義
	主な疾患とその治療	(1)原因 (2)主な検査:脳血管造影・SPET・PET ・脳シンチグラフィー (3)主な治療:手術療法	
	整形外科		
8~12	運動機能障害のメカニズムと主な症状	1)骨折:骨折の分類・転位・骨折治癒の病態生理 治療:整復・固定・後療法	講義
	主な疾患とその治療	1)大腿骨頸部骨折、上腕骨骨折、疼痛 形態の異常―変形 (1)原因 (2)主な検査:X線検査 (3)主な治療:ギプス包帯法・絆創膏包帯法・牽引、手術療法 2) 脱臼 3)腰椎椎間板ヘルニア、脊椎分離症および脊椎辷り症 (1)原因 (2)主な検査:脊髄造影検査・CT・ﾐｴﾛｸﾞﾗﾌｨｰ バレー徴候 ラセーグ徴候 手術療法 4) 脊椎・脊髄損傷 5)神経麻痺:腓骨神経麻痺・橈骨神経麻痺・正中神経麻痺・尺骨神経麻痺 6)変形性関節症(膝・股関節)、関節リウマチ、関節の疼痛 関節可動域制限、手術療法 薬物療法 7)骨腫瘍および軟部腫瘍 8) 先天性疾患	
	眼科		
13	眼球及び付属器	1)眼症状とその病態 2)主な検査:視力検査・視野検査:眼球運動検査	講義
14	主な疾患とその治療	1)白内障 2)緑内障症 3)網膜剥離	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点	
解剖生理学を復習して講義に臨むこと。	
評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100 点 脳神経(14 時間)・運動器(10 時間)・眼科(4 時間) 合計 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	ナーシンググラフィカ 脳神経 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 運動器 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版

専門基礎分野	科目名: 疾病の成り立ちと治療Ⅲ (消化器・内分泌・代謝)	講師	外部講師	1 単位(30 時間) 1 年次後期
ね ら い	主な消化器疾患について、原因・症状・診断・治療(内科的治療・手術療法)などの理解を深め、消化器疾患患者を看護するうえで必要な基礎知識を習得する。また、内分泌・代謝疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、看護する上で必要な基礎知識を習得する。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
1.2	消化器内科 消化・吸収障害	消化・吸収障害と通過障害のメカニズムと主な症状 1)主な症状:腹痛 嘔吐 吐血 食欲不振 2)主な疾患:胃炎 胃・十二指腸潰瘍 食道炎 胃癌 3)主な検査: 内視鏡検査 血液検査 4)主な治療:内視鏡治療 薬物療法 食事療法	講 義
3.4	代謝障害	1)主な症状:腹水 黄疸 門脈圧亢進症 2)主な疾患:肝炎,肝硬変,肝癌 胆石,胆道癌 膵炎 3)主な検査: 内視鏡検査 肝生検 4)主な治療:肝・胆道ドレナージ(PTCD, ENBT)内視鏡的硬化療法, 内視鏡的食道静脈瘤結紮療法, EST 塞栓療法、インターフェロン	講義
5.6	排泄障害	1)主な症状:イレウス 下痢・便秘 2)主な疾患:潰瘍性大腸炎 大腸ポリープ 3)主な検査: 内視鏡検査 4)主な治療:イレウスチューブ挿入 薬物療法 食事療法	講義
7.8	消化器外科 外科総論	手術侵襲と生体の反応、サイトカインによる生体調節機構、創傷治癒 術後合併症	講義
9	食道癌・胃癌	1)主な治療:食道再建術 胃切除術 2)術後合併症:ダンピング症候群 逆流性食道炎 吻合部狭窄	講義
10	大腸癌・ 肛門の疾患	1)主な治療:人工肛門造設術 痔核の手術 2)術後合併症:術後イレウス	講義
11	膵臓癌・肝臓癌 胆のう炎・胆石症	1)主な治療:膵頭十二指腸切除術・肝切除術 胆のう炎・胆石症の手術 2)術後合併症:術後出血 縫合不全 感染	講義
12. 13	内分泌・代謝 バセドウ病・褐色細胞腫・クッシング症候群	1)内分泌器官とホルモンの機能 2)代謝の概要と機能 3)主な治療:薬物療法	講義
14	糖代謝障害	1)主な症状:高血糖 低血糖 ケトアシドーシス 2)主な疾患:糖尿病 3)主な検査: 血糖 ブドウ糖負荷試験 4)主な治療:薬物療法 (2)食事療法 (3)運動療法	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点	
解剖生理学を復習して講義に臨むこと。	
評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100 点 消化器 22 時間、内分泌・代謝 6 時間 合計 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト 】 ナーシンググラフィカ 消化器 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

専門基礎分野	科目名: 疾病の成り立ちと治療Ⅳ (腎・泌尿器・生殖器・乳腺)	講師	外部講師	1 単位(30 時間) 1 年次後期
ね ら い	主な腎泌尿器疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、腎泌尿器疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得する。内科・泌尿器科的治療の側面から各種疾患の検査・治療を理解する。また、女性特有の疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、生殖器疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得する。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
1～5	泌尿器科	1) 腎機能障害のメカニズムと主な症状 (1)尿の異常 (2)浮腫 (3)高血圧 (4)水と電解質の異常 (5)循環器系の異常 (6)尿毒症 2) 主な症状:(1)疼痛 (2)腫脹、腫瘤 3) 主な疾患:(1)尿路結石 (2)膀胱癌 (3)前立腺癌 (4)前立腺肥大症 4)主な検査:(1)腎機能検査 ①IVP ② DIP ③ RP 5)主な治療:(1)手術療法(術後の管理含む) ①膀胱全摘術 ②尿路変更術 ③経皮的前立腺切除 ④体外衝撃波砕石術(ESWL)	講義
6・7	腎臓内科	1) 主な疾患:(1)腎不全 (2)糸球体腎炎 (3)ネフローゼ症候群 2) 主な検査:(1)超音波検査 (2)血液・尿検査 (3)腎生検 3) 主な治療:(1)人工透析 (2)食事療法	講義
8	生殖器疾患	女性生殖器の機能 女性機能障害時の主な症状とそのメカニズム	講義
9		1) 主な疾患:膣炎 子宮筋腫 卵巣腫瘍 2) 主な検査:超音波検査法 内診 細胞診 組織診 CT MRI 3) 主な治療:手術療法 薬物療法	講義
10		1) 主な疾患:子宮内膜症 不妊症 性感染症 子宮頸がん 子宮体がん 2) 主な検査:超音波検査法 細胞診 組織診 卵管検査法 精液検査 フーナーテスト 3) 主な治療:化学療法 放射線療法 体外受精 顕微授精	講義
11～13	周産期の異常 異常妊娠・分娩の病態と治療	1) 流早産 2) 子宮外妊娠 3) 妊娠高血圧症候群 4) 糖尿病合併妊娠 5) 胞状奇胎 6) 多胎妊娠 7) 妊娠中の主な感染症:主な感染症と母児への影響	講義
14	乳腺	1)乳癌の病態と治療	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点

解剖生理学を復習して講義に臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100 点 腎 4 時間、泌尿器 10 時間、生殖器 6 時間、周産期の異常 6 時間、乳腺 2 時間 合計 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 女性生殖器 メディカ出版 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

専門基礎分野	科目名：臨 床 栄 養 学	講師	張替　泰子 西村　かおる	1単位（30時間） 1年次後期
ね ら い	人間の健康における栄養の摂取の意義と機能について内部環境や代謝の機能を基盤として理解し、ライフステ-ジの各段階における食事摂取基準と栄養状態の判定を理解する。 また健康障害と栄養療法について疾患系統別の食事療法の実際を学び、栄養管理に必要な知識と方法を修得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	臨床栄養学の基礎知識①	世界の食文化の多様性や、宗教的配慮、現代日本の抱える食の問題点、臨床栄養学の意義と看護、栄養の概念と栄養素、栄養素（たんぱく質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル）の分類	講義
2	臨床栄養学の基礎知識②	栄養素（たんぱく質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル）の体内における役割	講義
3	食事摂取基準	栄養アセスメントの方法と判定基準、消化と吸収（たんぱく質、脂質、糖質）食事摂取基準（2025版）	講義
4	食品成分表と食事摂取基準の活用	BMI の判定、PFC 比、栄養価計算、食品群、食品構成、献立作成	講義
5	ライフステージ別の栄養	健康日本21の概要と変遷、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期、妊娠・授乳期	講義
6・7	調理実習①（健常者）	栄養価計算されたモデル献立を実際に、計量、調理、調味を通して体験し、評価・考察する。	演習
8	病院食栄養基準	一般治療食の栄養管理、栄養成分別のコントロール食	講義
9	疾患別の栄養食事療法	1）内分泌・代謝疾患、糖尿病交換表	講義
10		2）消化器系疾患	講義
11		3）循環器系疾患、腎疾患	講義
12	療養生活と栄養	嚥下障害のある人のための食事、経口摂取できない患者のための栄養管理、栄養食事指導の実際	講義
13・14	調理実習②	代謝疾患・循環器系疾患の食事	演習
15	終講試験		試験

受講上の留意点
課題、レポート、調理実習の献立表の提出　※期限を守ること。 なお、授業の進度状況によって内容が変更することもある。

評価方法	テキスト・参考文献
試験、レポート、授業態度などを総合的に評価する。 合計 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ 臨床栄養学　メディカ出版 八訂食品成分表 2026：女子栄養大学出版部 糖尿病食事療法のための食事交換表 第7版：日本糖尿病協会・文光堂 【参考文献】 臨床栄養学Ⅱ 疾患・病態別：第一出版

専門基礎分野	科目名：臨 床 薬 理 学	講師	日比　徹 渡邉　正教 外部講師	1単位（30時間） 1年次後期
ね ら い	薬物治療は医療の場では重要なウエイトを占めており、看護師は薬物を取り扱う機会が多い。そこで薬物の有効性と安全性を高めるために知っておくべき薬理学総論および各疾患に主な治療薬と薬理作用がわかることをねらいとする。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	医薬品総論①	医薬品とは、薬の知識の重要性、医薬品の分類、法律上の区分	講義
2	医薬品総論②	作用機序、受容体、薬物動態、毒性、副作用と有害作用、相互作用	講義
3	医薬品総論③	小児・高齢者への投与、薬剤の保管、配合変化、お薬手帳の活用法	講義
4	中枢神経疾患治療薬①	抗精神病薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬	講義
5	中枢神経治療薬②	睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬	講義
6 7	末梢神経作用薬	受容体とは、アドレナリン受容体、アセチルコリン受容体について学ぶ	講義
8	循環器系薬①	高血圧	講義
9	循環器系薬②	狭心症、心筋梗塞	講義
10	循環器系薬③	脂質異常治療薬、心不全	講義
11	解熱・消炎・鎮痛薬 アレルギー薬	免疫機能について学び、炎症、アレルギーとの関連性	講義
12	糖尿病治療薬	インスリン関連薬、非インスリン関連薬について	講義
13	消化器系治療薬	制酸薬、胃粘膜保護剤、制吐薬、下剤、下痢止め	講義
14	抗がん剤 感染症に使用する薬	抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト･参考文献】 ナーシンググラフィカ　臨床薬理学　メディカ出版

専 門 分 野

看護学の主要概念となる人間・環境・健康をどのように捉え、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を身につける。そして、それぞれの領域における対象と健康問題の特性を理解し、その人らしく生活できるための**看護の**方法と役割について学ぶ。

専門分野	科目名：看 護 学 概 論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で看護の機能、役割を理解する。また、人間理解を基盤とし、専門職業人としての倫理的態度を養う。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1回	看護への導入	・科目オリエンテーション・看護とは	講義・GW
2回	看護実践者ための基準	・看護実践をするための法的根拠	講義・GW
3回	看護の変遷	・看護の歴史の概要	講義・GW
4回	看護の対象とその理解	・看護の対象としての人間・こころとからだ ・生涯発達	講義・GW
5回	健康と病気におけるウェルネス（安寧）の促進	・看護における健康の概念	講義・GW
6回	健康と環境	・ナイチンゲール「看護覚え書」	講義・GW
7回	看護と基本的欲求	・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	講義・GW
8回	看護実践のための理論的根拠	・看護理論とは　　・様々な看護理論	講義・GW
9回	看護における倫理と価値	・看護倫理に関する基本的知識	講義・GW
10回	看護ケア（看護援助）の基本的役割	・コミュニケーターとしての役割 ・看護実践と質の保障（EBN、看護過程看護研究）	講義・GW
11回	看護の提供の場としくみ	・看護者が働いている場所と提供のしくみ	講義・GW
12回	保健・医療・福祉システム	・看護の役割と多職種連携の理解	講義・GW
13回	看護の統合と今後の展望	・医療安全、災害看護、国際看護の基礎知識	講義・GW
14回	まとめ	・既習学習のまとめ	講義・GW
15回	終講試験		試験

受講上の留意点

課題学習、グループ討議には積極的に参加しましょう。
授業の3分の2以上の出席および、レポートなどの提出物が期限までに提出されていることが終講試験の受験条件となる。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　看護学概論　メディカ出版 看護覚え書　現代出版社 看護の基本となるもの　日本看護協会出版社

専門分野	科目名：日常生活援助技術Ⅰ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	看護技術に必要な安全・安楽についての共通基本技術を習得する。また、快適な環境を整えることは健康生活の支えである。健康障害を持つ対象にとって、自然治癒能力を最大限に引き出し健康回復への援助に繋がるための基礎技術を習得する。活動と休息の重要性を理解するとともに、活動が阻害・障害されたときの安全・安楽な移動の基本技術を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	共通基本技術	技術の基本 1）安楽の意義　2）患者・医療従事者の安全を守る技術 3）コミュニケーション　4）標準予防策の意義	講義
2	感染予防	感染予防 1）スタンダードプリコーション	講義 演習
3	環境①	環境と人間の健康生活　安全を守る環境 1）生活環境の意義　2）環境因子　3）療養生活の環境 4）環境調整　5）ベッドの作成方法　6）リネン交換	講義
4	環境②	環境整備　1）環境のアセスメントと調整 病床環境の整備　1)ベッド周囲の環境整備	講義
5・6	環境③	病床環境の整備 1）リネン類の取扱い　2）ベッドメーキング	演習
7・8	環境④	臥床患者のシーツ交換	演習
9	活動と休息①	活動 1）活動の意義　2）運動が生体に与える影響 3）長期臥床が生体に与える影響　4）体位変換の技術	講義
10	活動と休息②	姿勢・体位 1）構えと体位　2）基本肢位・良肢位 3）基本体位・特殊体位	講義
11	活動と休息③	ボディメカニクスを活かした体位変換 1）姿勢・体位の保持　2）体位変換　3）ベッド上の移動 4）ボディメカニクス（重心と安定）	演習
12・13	活動と休息④	移乗・移送 1）車いすへの移乗・移送 2）ストレッチャーへの移乗・移送	演習
14	活動と休息⑤	休息と睡眠 1）レム睡眠・ノンレム睡眠　2）サーカディアンリズム 3）休息と睡眠状態のアセスメント 4）安楽な休息・睡眠を促す援助	講義
15	終講試験	筆記試験 技術チェック	試験

受講上の留意点

演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。
技術チェック：ベッドメーキング　講義時間外で実施する。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 看護がみえる　vol.1　ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ

専門分野	科目名：日常生活援助技術Ⅱ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	清潔であることは感染のリスクを減らし、対象が持つ自然治癒力を発揮するための基盤となる。清潔と衣生活が心身に及ぼす影響をふまえ、基礎的知識と技術を学ぶ。また健康時には自分でできた生活行動を他人の援助に委ねることの苦痛を考え、羞恥心に配慮する態度を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	清潔の基本	清潔とは 1）人間にとっての清潔の意義 2）身体の清潔に関する基礎的知識 3）対象の状態に応じた援助の決定と留意点	講義
2	衣生活の基本	衣生活とは 1）衣生活の意義と目的 2）対象の状態に応じた援助の決定と留意点	講義
3	清潔援助の基本	清潔援助の基礎知識 1）全身清拭　2）入浴・シャワー浴　3）整容	講義
4	整容の援助	整容 1）顔面清拭　2）ひげそり　3)爪切り	演習
5	寝衣交換の援助	寝衣交換 1）和式寝衣　2）パジャマ	演習
6	清潔援助の技術	清潔援助の実際 1）全身清拭　2）部分浴	講義
7・8	清拭の援助	全身清拭	演習
9	洗髪の基本	洗髪援助の基本技術 1）ケリーパッド　2）洗髪車　3）洗髪台	講義
10・11	洗髪の援助	洗髪	演習
12・13	部分浴の援助①	足浴	演習
14	部分浴の援助②	手浴	演習
15	終講試験	筆記試験 技術チェック	試験

受講上の留意点
演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。 技術チェック：全身清拭、寝衣交換　講義時間外で実施する。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験･レポート点で合計100点とし､60点以上で単位修得とする。	【テキスト】　ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】　看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 看護がみえる　vol.1　ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ

専門分野	科目名：日常生活援助技術Ⅲ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	栄養を満たし美味しく食べることを大切にした、よりよい食事援助のための基礎的な知識と技術を学ぶ。また、対象に必要な食事指導を通して、指導・教育に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。人にとっての排泄の意義を理解し、対象に応じた排泄の基礎的な援助技術を学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	食事援助の基本技術	食事援助のための基礎的知識 1）食事の意義　2）食べる仕組みと意義	講義
2	栄養に関するアセスメント	栄養状態および摂取能力 1）栄養摂取の仕組みと栄養のアセスメント 2）病院で提供される食事	講義
3	食事の援助	経口摂取できる患者の食事援助 1）食事動作に介助が必要な患者　２）口腔ケア	演習
4	非経口的栄養摂取	経口摂取できない患者の援助 １）経管栄養　2）胃瘻　3)中心静脈栄養	講義
5・6	指導・教育	集団指導・個人指導 1）個人指導・家族指導 2）集団指導	講義
7	排泄援助の基本技術	排泄の意義と援助の基本 1）排泄の意義　2）排泄のアセスメント	講義
8	排泄障害がある患者の援助①	排尿・排便のアセスメント 1）自然排泄を促す排泄の援助	講義
	排泄障害がある患者の援助②	床上排泄の援助 1)便器・尿器を使った排泄の援助	講義
		2)オムツを使用する患者の援助　3)陰部洗浄 4)一時的導尿・持続的導尿	講義
9	排泄援助の実際①	床上排泄援助① 1)便器・尿器を使った排泄援助の実際	演習
10・11	排泄援助の実際②	症状排泄援助② 1)オムツ交換　2)陰部洗浄	演習
12・13	排泄援助の実際③	尿道留置カテーテル挿入 1)滅菌手袋・滅菌ガウンの着用 2)尿道留置カテーテルの挿入	演習
14	排泄援助の実際④	排泄障害がある患者の援助 1)グリセリン浣腸　2)坐薬	演習
15	終講試験		試験

受講上の留意点

消化と吸収、排泄のメカニズムについて予習しておく。演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計 100 点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】　ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】　看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 看護がみえる　vol.1　ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ ナーシンググラフィカ　解剖生理学　メディカ出版

専門分野	科目名：診療看護技術Ⅰ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり） 外部講師	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	看護実践の基本は安全を意識し、対象を危険にさらすことなく、かつ医療者自身の安全も守ることである。診療行為（治療や処置・検査）を安全に実施できるよう補助するために必要な知識・技術について学び、それに伴う対象の援助方法を理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	感染防止対策	院内感染防止対策（認定看護師による講義） 1)手指衛生　2)ガウンテクニック　3)N95マスク	講義 演習
2	洗浄・消毒・滅菌 医療廃棄物	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 医療廃棄物の取扱い 1）感染性廃棄物の取扱い 2）感染性廃棄物の分別・表示	講義
3・4	無菌操作 創傷管理技術	無菌操作・創傷管理の基礎知識 1）創傷処置　2）テープによる皮膚障害	講義
5・6	無菌操作・創傷処置	創の消毒と洗浄・無菌操作	演習
7	包帯法	援助の基礎知識 1）巻軸帯の巻き方　2）三角巾を用いた固定方法	講義
8	検査を受ける患者の看護①	検査が生体に及ぼす影響	講義
9	検査を受ける患者の看護②	検査を受ける患者の看護 1）生体検査・検体検査の目的 2）検査を受ける患者への配慮	講義
10	検査を受ける患者の看護③ 血液検査①	検体検査：尿検査、便検査、喀痰検査 血液検査：動脈血採血 1）血液ガス検査のための動脈血採血介助	講義
11	血糖測定の実際	血液検査：血糖測定 1）血糖測定の意義　　2）自己血糖測定	講義 演習
12	血液検査②	血液検査時の看護 1)血液検査の目的　2)検査の種類　3)静脈血採血の技術 検体検査：静脈血採血 1）注射器の取扱い　2)採血の手順・留意点 3）検体の取扱い	講義
13・14	静脈血採血の実際	静脈血採血 1）モデル人形を使用しての技術演習	演習
15	終講試験	2）医療廃棄物の処理	試験

受講上の留意点

病原微生物学の復習を要する。演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】　ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】　看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 ナーシンググラフィカ　臨床微生物・医動物　メディカ出版

専門分野	科目名：診療看護技術Ⅱ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	与薬の技術は生命に関わる重要な技術である。安全に確実な与薬を行うために、正しい知識と技術の基本を身につける。薬物療法における看護師の役割を理解し、対象の健康の維持・増進・回復に向けた援助に必要な基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1・2	与薬の基礎知識	薬剤投与について 1)薬剤の吸収経路　2)医薬品の投与方法　3)与薬の原則 4)薬剤の保管・管理	講義
3	与薬の実際	投与経路別の援助の実際 1)援助の基礎知識　2)援助の実際	講義
4	注射の基礎知識①	注射に関する知識 1)注射とは　2)注射の種類と適応　3)注射に伴う危険 4)注射器具の取扱い	講義
5・6	注射の基礎知識②	筋肉内注射、皮下注射、皮内注射 1)援助の基礎知識 2)援助の実際　①安全確認　②方法と留意点	講義
7・8	注射の実際①	筋肉内注射	演習
9	注射の実際②	皮下注射	演習
10・11	注射の管理	静脈内注射 1)点滴静脈内注射　2)ワンショット 3)中心静脈カテーテル　4)輸液・輸注ポンプ	講義
12・13	注射の実際③	点滴ラインの作成、点滴静脈内注射	演習
14	注射の実際④	点滴静脈内注射（側管からの投与）	演習
15	講義のまとめ	終講試験	試験

受講上の留意点

注射針や薬剤の取扱いは危険を伴うため、教員の監督下において事故のないよう演習に臨むこと。演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】　ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】　看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 ナーシンググラフィカ　解剖生理学　メディカ出版

専門分野	科目名：看 護 過 程	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ね ら い	対象の持つ健康上の問題を明確にし、その問題を解決するための看護過程の展開方法を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	看護過程の概念および目的・必要性	1）看護過程のもとになる考え方 （1）看護過程とは	講義
2	看護過程の構成要素	1）アセスメントの意義とプロセス 2）データ収集、データ分類 3）データの分析、情報のもつ意味の読み取り	講義
3・4	紙上患者の情報整理と情報の解釈・分析	1）基本情報の整理 2）S情報・O情報の分類、解釈・分析 3）全体像の把握、問題の統合	講義
8～10	紙上患者の健康問題の抽出と看護診断	1）看護上の問題の明確化 （1）看護診断の意義とプロセス（2）看護診断の確定 （3）共同問題 2）優先順位の決定	講義
11	紙上患者の看護計画の立案	1）看護計画 （1）期待される結果、目標設定 （2）具体策（看護介入）の立案	講義
12	看護過程における実施	1）計画の実施　2）1日ごとの優先順位の決定 3）具体策の実施　4）記録、申し送り	講義 演習
13	評価・修正の必要性とその方法	1）評価の意義　2）目標達成度の評価 3）達成度に影響した因子の洗い出し	講義
14	看護記録の形式 看護展開のまとめ	1）叙述的記録　2）POSとSOAP記録 3）事例展開の発表・解説	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点

1.テキストと配付資料は熟読・活用する。
2.個人及びグループの提出物・提出方法の詳細については、授業内で説明する。

評価方法	テキスト・参考文献
事例展開 、筆記試験（各50点）合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ　メディカ出版 NANDA-I 看護診断　定義と分類　医学書院

専門分野	科目名：ヘルスアセスメントⅠ （バイタルサイン）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 1年次前期
ねらい	バイタルサインの意義と重要性を理解するとともに、呼吸・脈拍・体温・血圧の測定・観察技術を学ぶ。バイタルサインは身体器官が発する生命の合図である。また、生命徴候を示す測定値のみならず、必要な観察は何かを考え実施できる技術を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	ヘルスアセスメントの意義	ヘルスアセスメントとは 1）問診とデータベース：留意点　項目　聴取のポイント 2）情報の記録	講義
2	バイタルサインの意義	バイタルサインとは 1）バイタルサインとは　2）変動する日常生活との関連性 3）バイタルサインに影響を及ぼす身体のメカニズム	講義
3～4	バイタルサインの観察	呼吸の観察 1）呼吸とは　2）状態に合わせた測定技術 脈拍の観察 1）脈拍とは　2）状態に合わせた測定技術 体温の観察 1）体温とは　2）状態に合わせた測定技術 血圧の観察 1)血圧とは　2）状態に合わせた測定技術	講義
5・6	バイタルサイン測定の実際	バイタルサイン測定	演習
7	記録・報告	観察・記録・報告 1）記録の方法　2）ISBARCを用いた報告	講義
8	講義のまとめ	筆記試験 技術チェック	試験

受講上の留意点
演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。 技術チェック：バイタルサイン測定　講義時間外で実施する。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験・レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】　ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　メディカ出版 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 【参考文献】　看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社 看護がみえる　vol.1　ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ

専門分野	科目名：地域・在宅看護論概論	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	地域看護活動における在宅看護の位置づけを踏まえ、在宅看護の目的を理解する。また在宅看護の対象は、地域で療養する者とその家族であり、その生活環境および生活の場としての在宅看護の理解を深め、在宅における看護の役割と機能を学ぶ。さらに在宅療養者を支える法律と制度を理解する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	地域・在宅看護の概念	1）地域・在宅看護とは 2）地域・在宅看護の変遷とその社会的背景 3）国際生活機能分類（ICF）の概念	講義
2	暮らしの理解	1）暮らしの多様性について自分と他者の人生について考える	GW
3・4	暮らしの基盤である地域の理解	1）人々の暮らしと地域 2）地域包括ケアシステムと地域共生社会	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ 講義
5・6	地域・在宅看護の対象者	1）多様な対象者 （ライフサイクル、健康レベル、障害レベル、状態・状況別） 2）多様な家族のかたち、地域・在宅看護の対象としての家族 （家族の定義、家族発達論、家族システム論）	GW・講義
7	地域・在宅看護の実践の場	1）多様な地域・在宅看護の実践の場	講義
8～10	地域療養生活を支える法制度	1）医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度	講義・GW
11	訪問看護の制度と機能と多職種連携	1）在宅療養を支える訪問看護制度について 2）療養を支える多職種とその連携について	講義
12	継続看護について 地域・在宅看護における	1）入院支援、退院支援・退院調整について	講義
13	地域・在宅看護における倫理的課題	1）地域・在宅での倫理的問題の特徴 2）人々の尊厳と権利	GW
14	地域・在宅が必要とされている社会背景	1）地域・在宅看護が必要とされている社会背景について新聞記事にまとめる	個人ﾜｰｸ
15	終講試験		試験

受講上の留意点

普段から地域・在宅看護に関する報道や新聞記事などに興味を持ちましょう。教科書を読んで予習・復習をして授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　在宅療養を支えるケア　メディカ出版 【参考文献】　基礎からわかる 地域・在宅看護論　照林社 地域・在宅看護の基盤　医学書院 地域・在宅看護の実践　医学書院

専門分野	科目名：成人看護学概論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	1．成人期にある対象の発達課題や、現代の成人に生じやすい健康問題が社会に及ぼす影響を理解する。 2．成人期における健康課題の達成に向けた看護の役割について理解する			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～4	成人期にある人々の理解	1）ライフサイクルからみた成人期の理解 2）成人各期の健康問題、健康課題 （青年期・壮年期・向老期）	講義 GW
5～6	成人期の特徴的な生活習慣病の理解	1）生活習慣病の発症推移と対策 2）生活習慣と関連する疾患	講義
7	生活ストレスに関連する健康問題の理解	1）生活ストレスとその実態 2）生活ストレスに関連する疾患等の発生	講義
8	健康の維持・増進の看護	1）ヘルスプロモーションの概念 ①日本の健康づくり対策「健康日本21」 ②ヘルスプロモーションの概念からみた生活習慣病	講義
9～10	健康の維持と増進へ向けた看護援助の実際	1）健康習慣における指標（健康指標） ①食生活　②運動　③休養　④喫煙　⑤飲酒	GW
11	職業性疾患とヘルスプロモーション	1）職業病の要因とその予防策 ①熱中症　②騒音性難聴　③腰痛　④手指レイノー現象　⑤VDT障害　⑥じん肺　⑦アスベスト 2）作業関連疾患の要因とその対応策 ①作業関連疾患：過労死とその対策 ②うつ病とメンタルヘルス対策	講義
12	健康診断とヘルスプロモーション	1）健康の指標となる検査 2）ヘルスプロモーションに向けた方略 3）異常の早期発見と悪化の予防に向けて 4)心身モニタリングと健康の維持増進	講義
13～14	症状別看護 グループワーク発表	①高血圧　②脂質異常症　③便秘・下痢　④頭痛 ⑤睡眠障害　⑥痩せ・肥満　⑦ストレス	GW
15	終講試験		試験

受講上の留意点	
現代の成人問題も取り上げて学びます。メディアや新聞等にも目を通してください。	
評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100点 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　成人看護学概論　メディカ出版 【参考文献】厚生の指標　国民衛生の動向

専門分野	科目名：成人期にある対象の看護Ⅰ （消化器・代謝・内分泌）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	消化器吸収機能障害、栄養摂取、代謝機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害をもつ患者の看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を習得する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1～10	消化機能、栄養摂取に障害をもつ患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）症状に合わせた看護 ①嘔気・嘔吐　②嚥下困難・嚥下障害　③腹痛 ④腹部膨満　⑤下痢　⑥便秘　⑦吐血・下血　⑧黄疸 ⑨意識障害（肝性脳症） 3）検査を受ける患者の看護 ①糞便の検査　②膵外分泌物機能検査 ③放射線・MRI・核医学検査　④超音波検査　⑤内視鏡検査 ⑥肝臓の検査（肝生検） 4）主な疾患の看護1：口腔・食道疾患 ①舌癌　②食道炎　③食道アカラシア　④食道癌 ⑤食道静脈瘤 5）主な疾患の看護2：胃・十二指腸の疾患 ①胃潰瘍・十二指腸潰瘍　②胃癌 6）主な疾患の看護3：腸・腹膜疾患 ①クローン・潰瘍性大腸炎　②感染性胃腸炎 ③腸閉塞症とイレウス　④大腸癌 7）主な疾患の看護4：肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 ①肝炎　②肝硬変　③肝臓がん　④胆石　⑤膵炎 8）手術療法を受ける患者の看護	講義
11～14	代謝機能障害をもつ患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）症状に合わせた看護と主な検査 ①肥満　②成長異常　③顔貌の変化　④発汗異常 ⑤染色以上　⑥体毛異常　⑦血圧異常　⑧脈拍異常 ⑨口渇・多飲・多尿　⑩意識障害 3）主な治療処置：代謝疾患 ①糖尿病　②脂質異常症 4））主な疾患の看護 ①バセドウ・橋本病　②クッシング症候群　③アジソン病	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
解剖生理学の既習内容を復習してから授業に臨んでください

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100点 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　消化器　メディカ出版 ナーシンググラフィカ　腎/泌尿器/内分泌・代謝　メディカ出版

専門分野	科目名：高齢者看護学概論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 1年次後期
ねらい	高齢期に特徴的な発達課題と加齢による身体的、心理・社会的な側面から高齢者を理解し、生活を支援する老年看護の役割を理解する。また、高齢化に伴う保健・医療・福祉システムや、高齢者を取り巻く社会について幅広く高齢者を捉えられるように学習する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～2	高齢者の理解	1）発達課題から捉えた老年期 （1）老年期の年齢区分（2）老年期における発達課題 ①ライフサイクルから見た高齢者、②喪失体験と獲得体験、③ハヴィガースト、エリクソン、④エンドオブ・ライフ 2）老いとは　（1）老いの捉え方　（2）加齢と老化 3）老年看護の役割	講義
3～4	高齢者の暮らし	1）高齢者インタビュー 2）高齢者インタビュー後グループワーク（生きてきた時代、役割と社会活動の変化、余暇と生きがい就労・雇用、収入・生計、住まい） 3）高齢者のアイデンティティ・QOL・サクセスフルエイジング	講義
5	高齢者を取り巻く社会	1）高齢者に関る統計 （1）人口の推移　（2）健康の指標（平均寿命・受療率・要介護状態死亡の動向） 2）家族の状況 （1）家族世帯の構成　（2）高齢者世帯 （3）独り暮らし　（4）介護者の特徴 3）高齢者が暮らしを営む場所（居宅・介護福祉施設サービス付高齢者住宅　等）	講義
6	高齢者を支える制度・社会資源	1）医療保険制度の特徴 2）介護保険制度 （1）導入の背景　（2）しくみ　（3）サービスの種類 （4）介護予防　（5）地域包括支援システム	講義
7	高齢者の看護における倫理	1）高齢者に対するエイジズムとスティグマ 2）ノーマライゼーション 3）高齢者虐待の種類と高齢者虐待防止法 4）身体拘束予防 5）成年後見制度と日常生活自立支援事業	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点	
積極的に講義・グループワークに参加してください	
評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100点 60 点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　高齢者の健康と障害　メディカ出版

専門分野	科目名：小児看護学概論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 1年次後期
ねらい	小児看護の対象である子どもと家族の特徴、小児看護の理念・目的について学ぶ。社会環境の変化が及ぼす子どもと家族への影響をふまえ、その中でいかに子どもを守り育てるか、現代の子どもと家族の概況や法制度の変遷、倫理的観点から小児看護の役割と課題について学習する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	小児看護の対象	1）小児とは 2）小児期の分類 3）小児の特性	講　義
2	小児看護における概念と理論	1）自我発達理論 2）認知発達理論 3）愛着理論	講　義
3	小児看護と医療における諸統計と変遷	1）小児看護の変遷 2）小児と家族の諸統計	講　義
4	子どもを取り巻く社会環境の変化	1）社会の変化と小児看護 2）疾病構造の変化と小児看護 3）小児看護の専門分化	講　義
5	子どもを守る法律と制度	1）児童福祉法 2）母子保健法 3）児童虐待の防止等に関する法律 4）学校保健安全法	講　義
6	小児看護における倫理と子どもの権利	1）子どもの権利条約 2）医療における子どもの権利 3）小児医療の場における倫理的配慮	講　義
7	小児看護の目的・役割	1）小児看護の目標 2）小児看護の役割 3）小児看護の場と看護の特徴	講　義
8	終講試験		

受講上の留意点

提示された課題の学習をし、グループワークの際は積極的に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 筆記試験及びグループワーク・課題提出 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　小児看護学(1)　小児の発達と看護　メディカ出版 【参考文献】 小児看護学概論/小児保健　小児看護学①　メヂカルフレンド社 日本子ども資料年間　KTC中央出版 小児看護学　子どもと家族の示す行動への判断とケア　日総研出版

専門分野	科目名：母性看護学概論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	母性看護学の基盤となる理論と概念を学び、母性看護の対象とそれを取り巻く社会の変遷と現状を知ることで、母性看護の目的や母性看護に関わる看護師の役割、課題について知る。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1・2	母性看護学の基盤となる理論と概念	1．母性看護の中心概念 1）親になること 2）愛着理論 3）家族とは 2．母性看護実践を支える概念 1）ヘルスプロモーション 2）エンパワメント 3）ウエルネス	講義 講義
3・4	セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する概念	1．セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ 2．セクシュアリティとジェンダー 3．包括的セクシュアリティ教育	講義
5	性・生殖に関する生理	1．生殖器の形態と機能 2．性周期 3．性分化のメカニズム 4．生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル	講義
6～8	セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する統計	1．母子保健統計	講義
9～11	セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援	1．母子に関わる法律と社会資源 2．保健施策	講義
12・13	リプロダクティブヘルスに関する倫理	1．母性保護における倫理的・法的・社会的課題 1）倫理的課題にアプローチするためのツール 2）女性の権利と擁護 3）人工妊娠中絶・出生前検査・生殖補助医療の現状と課題	講義
14	特殊なニーズをもつ妊産婦と家族の支援	1）社会的ハイリスク・特定妊婦と生まれた子への支援 2）外国人妊産婦への支援	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
近年の女性を取り巻く社会問題や倫理的課題について取り上げます。メディアなどの情報に関心を持ち、講義に臨みましょう。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版

専門分野	科目名：精神看護学概論	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次後期
ねらい	1．精神看護学の対象・目的・看護の役割と機能が理解できる 2．人間の心の発達や心の健康に影響を与える要因を理解できる 3．精神の危機的状況と危機的状況を予防するための援助が理解できる 4．精神医療の変遷と精神の保健・医療・福祉の動向、多職種連携が理解できる。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	1．精神看護とは	1）精神看護の目的と対象	講義
2	2．精神保健の健康の定義	1）精神の健康とは 2）精神疾患と精神障害	講義
3～5	3．心のしくみと人格	1）精神の健康状態 2）イド･自我･超自我 3）意識･前意識･無意識	講義
6～10	4．危機状況と心の動き	1）発達段階における危機状況 2）生活の場における危機状況 （家庭、学校、職場等における心の健康） 3）医療の現場における危機的状況 4）自然災害･人的災害における危機的状況	講義
11・12	5．精神保健医療福祉の歴史と人権･倫理	1）精神医療の変遷　2）患者の権利 3）ノーマライゼーション　4）リスクマネージメント 5）精神保健の動向	講義
13・14	6．精神障がい者の社会参加支援と課題	1）精神保健福祉の制度	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
必要に応じて、配付資料やビデオなどを用いて理解を深めていく。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：　100点 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 ナーシンググラフィカ　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版 ナーシンググラフィカ　精神障害と看護の実践　メディカ出版 国民衛生の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会

臨地実習	科目名：基礎看護学実習Ⅰ-1	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	基礎1-2と合わせて 1単位（45時間） 1年次後期
実習目的	1.対象の療養環境と、看護師の対象への関わり方を学ぶ。 2.病院の役割・機能と医療従事者の業務とその役割を知る。			

実習目標	実習内容
1.病院の役割・機能について分かる。	1）地域における病院の役割や機能について分かる 2）院内の構造・体制、役割
2.対象をとりまく医療従事者の業務とその役割について分かる。	1）対象に関わる医療従事者の役割と機能 2）病院における医療チームの役割 3）医療チームにおける看護師の役割
3.対象の療養環境としての生活の場について理解することができる。	1）病棟や病室の構造や設備 2）安全・安楽の視点からみた対象の療養環境
4.対象への看護援助の実際について理解することができる。	1）対象への看護援助の見学 2）対象と看護師のコミュニケーション場面の見学
5.対象とのコミュニケーション方法について考察することができる	1）対象に応じたコミュニケーション方法の考察 2）対象が抱く療養生活に対する思いの考察
6.実習を通し、看護師としての基本的態度を学ぶことができる。	1）必要な報告・連絡・相談の実践 2）個人情報の保護 3）問題意識をもって自ら学び、探求する姿勢

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習を行い、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
実習記録、実習態度を総合して 30 点満点で評価する。 基礎看護学実習Ⅰ－2と合算し、100点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名：基礎看護学実習Ⅰ-2	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	基礎Ⅰ-1と合わせて 1単位（45時間） 1年次後期
実習目的	対象の療養生活を理解し、基礎看護学で学んだ知識・技術・態度をもとに、対象に応じた日常生活援助を実践する。			

実習目標	実習内容
1.対象の日常生活を理解できる。	1）受け持ち対象の紹介　2）入院前の生活環境（職業・家族構成）の把握 3）入院後の日常生活の把握　4）バイタルサインの測定 5）測定結果からの状態の把握　6）対象とのコミュニケーション
2.対象の日常生活援助の必要性について把握することができる。	1）安全を阻害している状況の把握　2）安楽を阻害している状況の把握 3）自立を阻害している状況の把握 4）収集できた情報から、日常生活援助の必要性の把握
3.対象に必要な日常生活援助を実践できる。	1）把握した日常生活援助の必要性に基づき、援助計画の立案 2）対象への挨拶、目線の高さ、話す速さ、言葉遣い 3）対象への説明と同意 4）対象の状態を把握し、根拠に基づいた援助の実践 5）安全・安楽に留意した、日常生活援助の実施 6）対象の自立度、希望に合わせた援助の工夫 7）プライバシーに配慮した援助の実践 8）適切な援助の準備とルールに則った片付け 9）援助実施前後のバイタルサイン測定と実施の判断 10）対象の状況から計画の修正・中止の判断 11）指導者、教員へ実施した内容の報告
4.対象に実施した援助について評価することができる。	1）実施した援助に対する対象の反応の観察 2）実施した援助が適切であったかの評価 3）援助計画の修正
5.実習を通し、看護師としての基本的態度および倫理的態度を学ぶことができる。	1）実習の学びと看護の課題　2）自己のコミュニケーション方法の振り返り 3）感染予防行動の実施　4）自己の健康状態の把握と適切な行動 5）清潔感のある身だしなみ　6）必要な報告・連絡・相談の実施 7）チームの一員としての行動　8）提出物の期限内提出 9）個人情報の保護　10）計画的な学習の実施　11）援助技術の習得

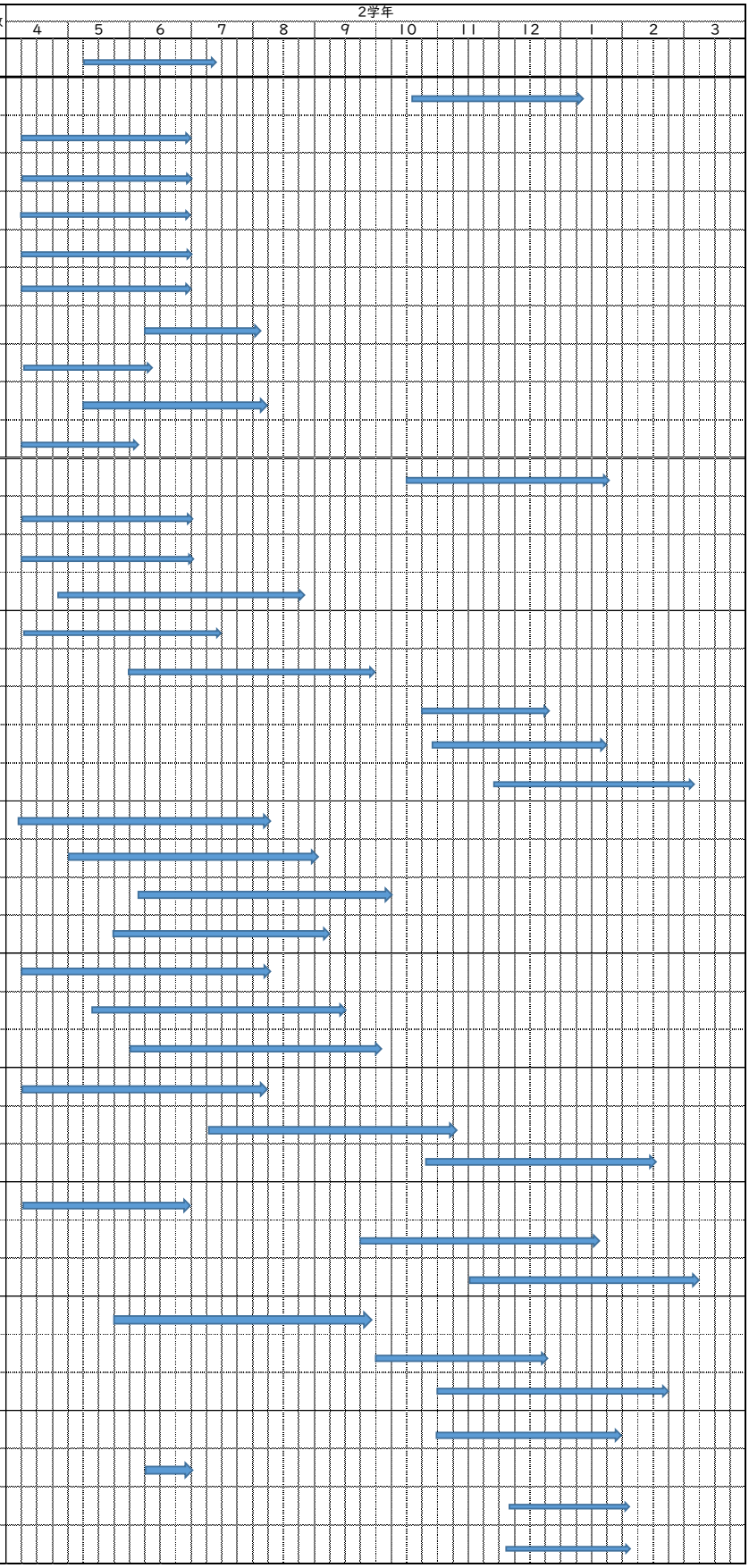
受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習を行い、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
実習記録、実習態度を総合して 70 点満点で評価する。基礎看護学実習Ⅰ－1と合算し、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院 ・大宮共立病院 ・指扇療養病院

２年次シラバス

2年次 学科進度表

科目			単位数	時間数
基礎分野	人間と生活・社会の理解	教育学	1	15
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の成り立ちと治療Ⅴ	1	15
		疾病の成り立ちと治療Ⅵ	1	15
		疾病の成り立ちと治療Ⅶ	1	15
		リハビリテーション論	1	15
	健康支援と社会保障制度	社会福祉	1	15
		生活を支える社会福祉制度	1	15
		健康維持のための予防と支援	1	15
		公衆衛生の基本	1	15
		関係法規	1	15
		国際・災害医療論	1	15
専門分野	基礎看護学	看護研究	1	15
		診療看護技術Ⅲ	1	15
		ヘルスアセスメントⅡ	1	15
		臨床看護総論	1	30
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護生活援助技術	1	30
		地域・在宅で療養する対象の看護	1	30
		健康とくらしを支える看護	1	15
		地域・在宅で生活する対象を支える看護	1	15
		地域・在宅看護論看護過程演習	1	30
	成人看護学	成人期にある対象の看護Ⅱ	1	30
		成人期にある対象の看護Ⅲ	1	30
		成人期にある対象の看護Ⅳ	1	30
		成人看護学看護過程演習	1	30
	老年看護学	高齢者の健やかな生活への看護	1	30
		健康障害のある高齢者の看護	1	30
		高齢者看護学看護過程演習	1	30
	小児看護学	こどもの成長・発達に応じた看護	1	30
		健康障害のあるこどもの看護	1	30
		小児看護学看護過程演習	1	30
	母性看護学	女性のライフサイクルと健康と看護	1	15
		女性のライフサイクルと周産期の看護	1	30
		母性看護学看護過程演習	1	30
	精神看護学	精神障害を持つ対象の看護	1	30
		精神看護学援助技法	1	15
		精神看護学看護過程演習	1	30
	統合	国際・災害看護	1	15
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	90
		成人看護学実習Ⅰ	2	90
		老年看護学実習Ⅰ	2	90



2年次 実施科目および評価方法

科目				単位数	時間数	授業形態	講師名	担当時間数	配点	認定方法	認定時期
基礎分野	生活社会	教育学		1	15	講義	金　英美	15	100	筆記・レポート	前期
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病の成り立ちと治療Ⅴ	血液疾患	1	15	講義	森茂久	4	30	筆記	後期
			免疫疾患				外部講師	4	30		
			頭頸部疾患			講義	外部講師	4	30		
			皮膚疾患			講義	外部講師	2	10		
		疾病の成り立ちと治療Ⅵ	小児内科疾患	1	15	講義	外部講師(小児内科)	10	70	筆記	前期
			小児外科疾患			講義	外部講師（小児外科）	4	30		
		疾病の成り立ちと治療Ⅶ	精神疾患	1	15	講義	大井　雄一	15	100	筆記	前期
		リハビリテーション論		1	15	講義	外部講師	15	100	筆記	前期
	健康支援と社会保障制度	社会福祉		1	15	講義	小櫃　俊介	15	100	筆記	前期
		生活を支える社会福祉制度		1	15	講義	小櫃　俊介	15	100	筆記	前期
		健康維持のための予防と支援		1	15	講義	大澤　真奈美	15	100	筆記	前期
		公衆衛生の基本		1	15	講義	大澤　真奈美	15	100	筆記	前期
		関係法規		1	15	講義	唯木　暁	15	100	筆記	前期
		国際・災害医療論		1	15	講義	外部講師	15	100	筆記	前期
専門分野	基礎看護学	看護研究		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記・レポート	後期
		診療看護技術Ⅲ		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記・レポート	前期
		ヘルスアセスメントⅡ		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記・レポート	前期
		臨床看護総論		1	30	講義	専任教員	20	50	筆記・レポート	前期
						講義	外部講師	10	50	筆記	
	地域在宅看護論	地域・在宅看護生活援助技術		1	30	講義・演習	早坂　直子	14	50	筆記	前期
						講義	外部講師	6	10		
						講義	専任教員	10	40		
		地域・在宅で療養する対象の看護		1	30	講義	専任教員	18	70	筆記	前期
							外部講師	12	30		
		健康とくらしを支える看護		1	15	講義	専任教員	13	100	筆記・レポート	後期
							外部講師	2			
		地域・在宅で生活する対象を支える看護		1	15	講義	専任教員	11	70	筆記・レポート	後期
							外部講師	4	30	筆記	
		地域・在宅看護論看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	後期
	成人看護学	成人期にある対象の看護Ⅱ		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	前期
		成人期にある対象の看護Ⅲ		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	前期
		成人期にある対象の看護Ⅳ		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	後期
		成人看護学看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	前期
	老年看護学	高齢者の健やかな生活への看護		1	30	講義・演習	専任教員	28	100	筆記	前期
							外部講師	2			
		健康障害のある高齢者の看護		1	30	講義・演習	専任教員	26	100	筆記	前期
						講義	外部講師	4			
		高齢者看護学看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	前期
	小児看護学	こどもの成長・発達に応じた看護		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記・課題	前期
		健康障害のあるこどもの看護		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・課題	後期
		小児看護学看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	後期
	母性看護学	女性のライフサイクルと健康と看護		1	15	講義	専任教員	15	100	筆記・レポート	前期
		女性のライフサイクルと周産期の看護		1	30	講義	専任教員	26	80	筆記	後期
						講義	外部講師	4	20	筆記	
		母性看護学看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	後期
	精神看護学	精神障害を持つ対象の看護		1	30	講義	専任教員	30	100	筆記	前期
		精神看護学援助技法		1	15	講義・演習	専任教員	15	100	筆記	後期
		精神看護学看護過程演習		1	30	講義・演習	専任教員	30	100	看護過程	後期
	統合	国際・災害看護		1	15	講義・演習	早坂直子	15	100	筆記	後期

基 礎 分 野

感性豊かな人間性を形成するため、専門基礎分野や専門分野を学ぶ上で、考え方の基礎となる一般教養と科学的思考を身につける。

基礎分野	科目名： 教 育 学	講師	金　英美	1単位（15時間） 2年次前期
ね ら い	教育学は、教授・学習の方法のみを対象とする学問ではありません。誰に対して、いかなる目的のもとに教育を行うのか、また学ぶとはいかなる営みであるのかを根源的に問い直す学問領域です。本授業では、人間を多面的に捉える教育学的視座を修得し、それを通して看護の語りを多層的に分析・解釈する実践的能力の涵養を目的とします。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	ガイダンス 教育学とは何か	1）本授業の到達目標と進め方の説明 2）教育学の独特のものの見方を考える	講義 演習
2	家族と子ども	1）『私の看護ノート』「母の選択」を読み解く 2）「家族」という独特な社会共同体について洞察を深める	演習 講義
3	「死」の人間関係論	1）『私の看護ノート』「写真」を読む 2）「死」という出来事を人間関係論、社会関係論的な観点から再考する	講義 演習
4	専門家と実践家： 誰が当事者なのか	1）『私の看護ノート』「当事者」を読む 2）公共性という観点から専門家であることの意味を問い直し実践家であること、当事者であることを問い直す	講義 演習
5	倫理学の世界	1）『私の看護ノート』「態度」を読む 2）観念論的な倫理学が単なる理念的な教義なのではなく、道徳の持つ社会的な機能を読み解く手がかりとなることを学び公-社会-私の関係性を問い直す	講義 演習
6	個人の生成： 「私」はいつ生まれるのか	1）『私の看護ノート』「プライバシー」を読む 2）プライバシーという観念の歴史的生成を学び、公-社会-私の関係性を問い直す	講義 演習
7	贈与すること： 教育はいつ生まれるのか	1）『私の看護ノート』「母の遺産」を読む 2）これまでの授業内容を振り返りつつ、「教育」の世間一般的な理解が覆る教育の瞬間を捉えるものの見方を考える	講義 演習
8	ディスカッション	1）試験レポートの内容に関わるディスカッション	演習

受講上の留意点

毎回授業前には教科書の指定した章、または参考文献のプリントを必ず読み、それを通じて考えたことをまとめてくること。授業の後半には、次の回の授業で扱う章の内容に関するディスカッションを行う（第1回授業時には「母の選択」の章を読んでくること）

評価方法	テキスト・参考文献
講義内課題　　４０％ （リアクションペーパー　８回） 講義後レポート　６０％	テキスト：紙谷克子（1993）『私の看護ノート』医学書院 参考文献：中井俊樹・小林忠資（2022）『看護のための教育学』第２版　医学書院

専 門 基 礎 分 野

看護学を学ぶ上で土台となる「人体の構造」「疾病の成り立ちと回復の促進」に関する科目があり、人体を系統立てて理解し、健康や疾病に関する観察力と判断力を身につける。

専門基礎分野	科目名：疾病の成り立ちと治療Ⅴ （生体防御機能・免疫機能・血液・感覚器）	講師	森 茂久 外部講師	1単位（15時間） 2年次後期
ねらい	1.主な造血・免疫・生体防御機能障害の疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、看護する上で必要な基礎知識を習得する。内科的治療の側面から、各種疾患の検査・治療を理解する。 2.主な頭頸部疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、感覚器疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得する。 3.主な皮膚疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、感覚器疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得することができる。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1・2	血液	1)造血機能の異常のメカニズムと症状：（1）貧血 （2）出血傾向 2)主な疾患：（1）白血病 (2)悪性リンパ腫 (3)播種性血管内凝固症候群 3)主な検査：（1)末梢血検査 (2)骨髄穿刺・生検 4)主な治療：(1)化学療法 (2)造血幹細胞移植	講義
3・4	免疫・生体防御	1）免疫機能低下のメカニズムと主な症状 ：(1)アレルギー 2）主な疾患：（1）自己免疫疾患 （2）膠原病；①関節リウマチ ②全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ ③全身性硬化症 ④多発性筋炎 （3）膠原病類縁疾患 ①ベーチェット病 ②シェーグレン症候群 （4）エイズ 3）主な検査：（1）免疫学的検査 4）主な治療 （1）薬物療法	講義
5・6	頭頸部	1）耳鼻咽喉の構造と機能 2）耳・喉頭にあらわれる症状と病態生理：（1）難聴 （2）耳鳴り （3）めまい （4）臭覚障害 （5）鼻閉 （6）音声障害 （7）呼吸障害 （8）嚥下障害 3）主な疾患の検査と治療：（1）聴力検査 （2）平衡感覚検査 4）主な疾患と治療：（1）中耳炎 （2）内耳疾患（内耳炎・メニエール病・突発性難聴）（3）アレルギー性鼻炎 （4）副鼻腔炎 （5）扁桃炎 （6）咽頭・喉頭がん	講義
7	皮膚	1）皮膚の構造と機能 2）皮膚症状とその病態生理 3）主な検査：（1）貼付試験 （2）血液・尿検査（3）病理検査 （4）光線過敏検査 （5）その他 4）主な疾患と治療：（1）熱傷 （2）アトピー性皮膚炎 （3）帯状疱疹 （4）白癬 （5）疥癬	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

解剖生理学を復習して授業に臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 血液4時間、免疫4時間、頭頸部4時間、皮膚2時間 合計100点満点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト・参考文献】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学〔4〕 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学〔11〕 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学〔14〕 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 皮膚 成人看護学〔12〕医学書院

専門基礎分野	科目名：疾病の成り立ちと治療Ⅵ （小児の特徴的な疾患と治療）	講師	外部講師	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	小児に特徴的な内科的疾患について、疾患の原因、症状、検査、治療について理解できる。 小児に特徴的な外科的疾患について、疾患の原因、症状、検査、治療について理解できる。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	小児内科疾患 ・出生前小児科学 ・アレルギー性疾患 ・乳幼児の感染症	小児の疾患の成り立ちと治療回復過程 1）メンデル遺伝病　2）染色体異常 1）気管支喘息 1）細菌感染症　2）ウイルス感染症	講義
2	・循環器疾患 ・免疫疾患・膠原病疾患	1）ファロー四徴症　2）動脈管開存症 1）若年性関節リウマチ　2）川崎病	講義
3	・神経・筋疾患 ・内分泌・代謝性疾患	1）てんかん　2）進行性筋ジストロフィー 1）1型糖尿病	講義
4	・小児がん ・腎疾患	1）神経芽腫　2）腎芽腫（ウィルムス腫瘍）3）悪性リンパ腫 1）急性糸球体腎炎　2）ネフローゼ症候群　3）膀胱尿管逆流症	講義
5	・新生児 ・乳児期の疾患	1）低出生体重児（未熟児）とその特徴　2）新生児仮死 3）呼吸窮迫症候群 1）乳幼児突然死症候群	講義
6・7	小児外科 ・小児外科総論 ・小児の外科的疾患	外科的疾患と手術を要する小児の診断と治療 1）手術管理 1）先天性食道閉鎖症　2）肥厚性幽門狭窄症 3）腸重積症　4）ヒルシュスプルング病 5）先天性胆道閉鎖症　6）口唇および口蓋裂 7）鎖肛　8）虫垂炎	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

小児内科、小児外科の疾患と治療となっています。それぞれ合わせて2／3以上の出席が終講試験の受験資格となります。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 小児内科（70点）＋小児外科（30点） 合計100点満点とし、60点以上で単位取得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　小児臨床看護各論　医学書院 【参考図書】 カラー版 現場で役立つ小児救急アトラス　西村書店

専門基礎分野	科目名 :疾病の成り立ちと治療Ⅶ （精神障害と治療）	講師	大井　雄一	1単位（15時間） 1年次前期
ねらい	精神疾患について、原因・症状・診断・治療などの理解を深め、精神疾患患者を看護する上で必要な基礎知識を習得することができる。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	精神医学の概要	精神医学の起こりと変遷、全体像	講義
2	様々な精神症状	1）思考の障がい２）感情の障がい３）意欲の障がい 4）知覚の障がい５）意識の障がい６）記憶の障がい 7）局所障害（失語・失行・失認）	講義
3	精神障害の診断と分類臨床検査	1）原因と分類　2）DSM 分類　3）ICD 分類 1）脳波検査２）脳の画像検査３）心理検査４）脳脊髄検査	講義
4･5	様々な疾患と分類	1）統合失調症２）気分（感情）障がい 3）神経症性障がい、 ストレス関連性障害及び身体表現性障がい 4）生理的障がい及び身体的要因に関連した行動症候群 5）パーソナリティ障害６）器質性精神病７）てんかん 8）知的障がい/精神遅滞９）心理的発達の障がい １０）小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒障害 １１）心身症	講義
6･7	精神科での治療	1）身体療法　①薬物療法　②電気痙攣療法 2）精神療法 3）行動療法及びリラクゼーション （行動療法、SST、自律訓練法など） 4）環境療法・社会療法（作業療法など） 5）集団精神療法６）家族療法	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
テキストを読んで講義に臨むこと

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　１００点 １００点満点とし、６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　　医学書院

専門基礎分野	科目名：リハビリテーション論	講師	外部講師	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	リハビリテーションについての考え方は「全人的立場に立って、その人の尊厳や権利、資格を、本来あるべき姿に回復することが必要である」というものである。したがって、リハビリテーションとは、サービスであり、技術であるとともに一つの考え方、思想であることを学び、看護の役割についても考察する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1		リハビリテーション総論	講義
2		理学療法総論 関節可動域テスト	講義
3		作業療法総論	講義
4		言語聴覚療法総論	講義
5		リハビリテーション技術1	演習
6		リハビリテーション技術2	演習
7		リハビリテーション技術3	演習
8		終講試験	試験

受講上の留意点

病態学・解剖生理学の既習内容を確認してから授業に臨んでください。

講義の中で演習することもあるので、授業の時は動きやすい服装で出席してください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験100点 100点満点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護　メヂカルフレンド社

専門基礎分野	科目名：社 会 福 祉	講師	小櫃　俊介	1単位（15時間） 2年次前期
ね ら い	社会福祉を歴史的展開から理解することにより、その理念の本質を理解していくこととする。また、それぞれの分野における包括的な視点を養っていくことによって、人間としての生きるという行為を支援する体制を学んでいく。さらに、現在の社会福祉の各制度の概要、社会動向や課題を学習することによって、より看護師の専門性や役割についての理解を深めていくことをねらいとする。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	社会福祉とは	社会福祉の概要	講義
2･3	社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史と諸外国の社会福祉の状況	講義
4	社会福祉制度	社会保障の概念･目的･機能･体系･内容について	講義
5	社会福祉の法制度	社会福祉六法と行政･組織･担い手について	講義
6	社会保障･福祉の動向	現代社会の変化とそれを取り巻く社会保障･社会福祉の動向について	講義
7	医療保障･所得保障	医療保障制度と所得補償制度･年金制度の構造･体系と制度について	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
講義内容は進行状態に合わせて変化することがある。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶ③健康支援と社会保障「社会福祉と社会保障」 メディカ出版

専門基礎分野	科目名：生活を支える社会福祉制度	講師	小櫃　俊介	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	生活者の健康を保障する社会資源について理解し、看護師として対象者に必要な社会資源の提供ができるよう社会資源について学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	児童・家族と福祉	児童福祉を中心とする児童家庭福祉の概要について	講義
2	障害者と福祉	障害の種類と障害者福祉の概要について	講義
3	高齢者と福祉	高齢者福祉の概要について	講義
4	生活保護	生活保護制度のしくみについて	講義
5	社会保障制度①	年金、医療保険	講義
6	社会保障制度②	介護保険、雇用保険等	講義
7	地域福祉と脱施設化	ノーマライゼーション 包括支援 ネットワークと自立生活	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
講義内容は進行状態に合わせて変化することがある。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 ナーシング・グラフィカ③健康支援と社会保障「社会福祉と社会保障」 メディカ出版

専門基礎分野	科目名：健康維持のための予防と支援	講師	大澤　真奈美	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	日本の健康課題の現状を理解し、健康づくり対策の動向と課題を理解する。さらに、生活習慣が健康に及ぼす影響を理解し、保健活動の実際について学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	日本人の健康と課題	1）日本人健康課題と健康づくり対策の動向 2）生活習慣病の予防法と保健事業	講義
2	親子保健	1）親子保健に関する施策の概要と支援	講義
3	高齢者保健医療福祉 歯科保健	1）高齢者保健の施策と支援 2）歯科疾患の対策と予防法	講義
4	精神保健福祉	1）精神科医療の歴史と現状 2）精神障害者に関する法令・制度と支援	講義
5	難病対策 学校保健	1）難病対策の現状と支援 2）学校保健行政の概要と基本的法令	講義
6	産業保健	1）産業保健の目的と特徴 2）産業保健における看護職の役割	講義
7	健康危機管理	1）健康危機管理体制と保健所の役割 2）災害発生時の健康管理と公衆衛生活動	講義
8	終講試験	健康維持のための予防と支援全般について試験	試験

受講上の留意点
公衆衛生を学ぶ上で、テレビやインターネットの報道や新聞記事の中に関連するものがないか、興味をもって情報収集してください。また、国民衛生の動向は教科書と並行して使用し、現状を確認しながら理解を深めるとともに、他の分野との関連について学びを深めてください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	公衆衛生　メディカ出版 国民衛生の動向　（財）厚生労働統計協会

専門基礎分野	科目名：公衆衛生の基本	講師	大澤　真奈美	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	公衆衛生の概念や健康の概念を学び、さらに疫学・保健統計を用いて集団の健康をとらえ、生活者の健康増進について理解する。 また、食品衛生・環境衛生・感染症対策も含めた公衆衛生に必要な基礎知識を理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	公衆衛生の歴史 現在の公衆衛生システムと政策	1）公衆衛生の定義とその意義 2）公衆衛生の歴史的変遷 3）公衆衛生システムの特徴 4）保健師の活動	講義
2	公衆衛生の理念・概念	1）ヘルスプロモーションの概念や公衆衛生看護の役割	講義
3	公衆衛生のものさし	1）疫学の手法を用いた健康増進と病気の予防	講義
4	公衆衛生活動のプロセス	1）個から地域に広げる公衆衛生活動の特徴	講義
5	環境保健	1）環境保健の対策と健康影響	講義
6	感染症対策	1）感染症の基本と予防の原則 2）感染症対策に関する法令	講義
7	国際保健	1）国際保健の歴史と健康課題	講義
8	終講試験	公衆衛生の基本分野全般について試験	試験

受講上の留意点
公衆衛生を学ぶ上で、テレビやインターネットの報道や新聞記事の中に関連するものがないか、興味をもって情報収集してください。また、国民衛生の動向は教科書と並行して使用し、現状を確認しながら理解を深めるとともに、他の分野との関連について学びを深めてください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	公衆衛生　メディカ出版 国民衛生の動向　（財）厚生労働統計協会

専門基礎分野	科目名：関 係 法 規	講師	唯木　暁	1単位（15時間） 2年次前期
ね ら い	看護業務を遂行するために不可欠な医療・保健・福祉の法規について基本的事項を習得する。医療過誤について看護師の法的責任と医療安全対策について具体的事例により習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	法の概念と看護法	法とは何か、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律	パワーポイントによる重要事項の講義
2	医療過誤と看護師の法的責任	医療過誤の現状、看護師の法的責任、裁判事例	
3	医事法	医療法、医療・保健・福祉関係資格法、医療を支える法	
4	保健衛生法（地域保健・精神保健・母子保健・感染症・食品等に関する法令）	地域保健法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、母子保健法、がん対策基本法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、食品衛生法、水道法等	
5	薬務法	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律、麻薬及び向精神薬取締法等	
6	社会保険法、福祉法	健康保険法、介護保険法、国民年金法、社会福祉法等	
7	労働法と社会基盤整備、環境法	労働基準法、育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律、個人情報の保護に関する法律、環境基本法等	
8	終講試験		試験

受講上の留意点

関係法規制定の背景について学習しておくこと。（少子高齢化社会の状況等の資料を第1回時に配布）
講義終了都度、法規と関連する過去国家試験問題を解くことにより理解を深めておくこと。（第1回時に法規別過去問題集を配布）

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　専門基礎　看護関係法令健康支援と社会保障制度 【参考文献】 看護法令要覧　日本看護協会出版会 国民衛生の動向　厚生労働省統計協会

専門基礎分野	科目名：国際・災害医療論	講師	外部講師	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	1.災害の定義及び災害医療の概要を理解する。 2.災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた医療を理解する。 3.わが国における災害対策と災害援助活動を通して、国際協力の必要性を理解する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	被災者の立場から見た必要な支援 その1	被災地の避難所で生活するあなたに必要な技能・知識を俯瞰する	演習
2	災害と災害医療、災害の種類と特徴、わが国の災害対応	これから学習・修練を積むあなたに必要な技能・知識を確認する	講義
3	被災者の立場から見た必要な支援 その2	被災地の病院で勤務するあなたに必要な技能・知識を俯瞰する	演習
4	災害医療の基本	対応の標準化（指揮命令系統（CSCATTT）、災害医療と救命医療の違い、防災・減災マネージメント 等）を理解する	講義
5	災害サイクルから見た必要な医療（急性期、亜急性期、回復期）	国内派遣された医療救護チームのメンバーとして活動するあなたに必要な災害対応システムを俯瞰する	演習
6	災害への対応・準備	災害発生時の対応、特殊災害（NBC）、災害派遣チーム（DMT）等を理解する	講義
7	国際医療活動の実際（人道支援、異文化理解など）	海外派遣された医療救護チームのメンバーとして活動するあなたに必要な 技能・知識を俯瞰する	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
1学年合同授業とする。また、全7回の授業は3日間で実施する。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 『系統看護学講座 災害看護学・国際看護学』 医学書院 『災害看護 心得ておきたい基本的な知識』 南山堂

専 門 分 野

看護学の主要概念となる人間・環境・健康をどのように捉え、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を身につける。そして、それぞれの領域における対象と健康問題の特性を理解し、その人らしく生活できるための**看護の**方法と役割について学ぶ。

専門分野	科目名：看 護 研 究	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次後期
ね ら い	看護研究の基本を学び、研究を実践する上で必要な知識を得る。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	看護における研究	1）看護研究とは 2）看護実践と看護研究	講義
2	研究の種類とプロセス	1）研究プロセスの概観 2）研究デザイン	講義
	研究テーマの選定	1）研究テーマの選定 2）リサーチクエスチョン	講義
3	文献検討	1）文献の種類 2）文献検索の方法 3）文献の入手と整理 4）文献検索の実際 5）文献クリティーク	講義
4	研究における倫理	1）人を対象とする倫理原則 2）研究の各段階における倫理的配慮 3）研究倫理に関するガイドライン	講義 演習
5・6	研究演習	グループ研究での研究活動及び発表	講義 演習
7	研究成果の発表	看護研究について理解を深める プレゼンテーションの実際	学会参加
8	終講試験		試験

受講上の留意点

1.テキストと配付資料は熟読･活用する。
2.個人及びグループの提出物･提出方法の詳細については､授業内で説明する。
3. 看護研究に関する理解を深める機会として県内･市内で開催される看護学術集会等に参加する。(予定)

評価方法	テキスト・参考文献
課題及び筆記試験による総合評価 （詳細は開講時に説明する）	【テキスト】 系統看護学講座 別巻　看護研究　医学書院

専門分野	科目名：診療看護技術Ⅲ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	呼吸・循環に影響を及ぼす援助技術を、1年次の既習内容を踏まえてアセスメントをしながら習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	循環動態を整える技術①	循環動態に変動のある患者の看護 1)循環機能のアセスメントと看護上の問題 2)循環動態の観察　3)体温調節技術	講義
2	循環動態を整える技術②	輸血管理 1)輸血の基礎知識　2)輸血製剤の取扱い	講義
3	輸血の技術	輸血の実際	演習
4	呼吸を整える技術①	呼吸困難のある患者の看護 1)呼吸機能のアセスメントと看護上の問題 2)酸素ボンベの取扱い　3)酸素マスクの知識 4)気道浄化の看護	講義
5・6	呼吸を整える技術②	酸素療法を必要とする患者の看護 1)酸素ボンベの取扱いの実際　2)酸素吸入 3)薬物吸入（ネブライザー）　4)口腔内吸引	演習
7	体温調節技術	体温調節技術の実際 1)温罨法　①温湿布　②温沈 2)冷罨法　①氷枕の作成	演習
8	終講試験		試験

受講上の留意点

既習の解剖生理学や病態学の復習をして臨むこと。演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献		
終講試験、レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ	医学書院
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	医学書院
	【参考文献】	看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術	ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
		系統看護学講座　専門基礎Ⅰ　解剖生理学	医学書院

専門分野	科目名：ヘルスアセスメントⅡ （フィジカルアセスメント）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	対象の健康状態についてアセスメントをするために必要なフィジカルアセスメントの意義と基本技術を学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	フィジカルアセスメントの意義	フィジカルアセスメントの意義 1）フィジカルアセスメントの基本技術 ①視診　②触診　③打診　④聴診	講義
2	フィジカルアセスメントの知識と技術①	呼吸器系･消化器系のフィジカルアセスメントの知識と技術	講義
3	フィジカルイグザミネーション①	消化器系のフィジカルイグザミネーション　①打診・聴診	演習
4	フィジカルイグザミネーション②	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション　①打診・聴診	演習
5	フィジカルアセスメントの知識と技術②	循環器系のフィジカルアセスメントの知識と技術	講義
6	フィジカルイグザミネーション③	循環器系のフィジカルイグザミネーション	演習
7	フィジカルアセスメントの知識と技術③	中枢神経系・感覚器系・乳房のフィジカルアセスメントの知識と技術	講義 演習
8	終講試験		試験

受講上の留意点
演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献		
終講試験、レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ	医学書院
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	医学書院
	【参考文献】	看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術	ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社
		看護がみえる vol.3　ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ	ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ

専門分野	科目名：臨床看護総論	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） ２年次前期
ねらい	健康障害をもつ対象を理解し、あらゆる発達段階の人々に共通した看護の基本を理解する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	急性期看護	急性期にある患者の看護　（認定看護師による講義）	講義
2	周手術期・手術室看護	周手術期にある患者の看護　（認定看護師による講義）	講義
3	回復期・慢性期看護	回復期・慢性期にある患者の看護（認定看護師による講義）	講義
4	終末期看護	終末期にある患者の看護　（認定看護師による講義）	講義
5	がん看護	がんの治療を受ける患者の看護（認定看護師による講義）	講義
6・10	主要な症状を示す対象への看護	主要な症状を示す対象への看護 1）呼吸機能障害　2）循環障害　3）栄養・代謝障害 4）排泄機能障害　5）意識障害　6）認知機能障害	講義
11・12	治療・処置を受ける対象への看護	治療・処置を受ける対象への看護 1）人工臓器と臓器移植を必要とする対象への看護 2）輸液療法、化学療法、薬物療法	講義
13	救命救急処置	救命救急処置の基礎知識 1）急変時における初期対応　2）BLS 3）止血法　4）胃洗浄	講義
14	BLS	BLSの実際	演習
15	終講試験		試験

受講上の留意点

既習の解剖生理学や病態学の復習をして臨むこと。演習は事前学習が必須であるため、テキストや動画でしっかりと予習して臨むこと。

評価方法	テキスト・参考文献		
終講試験、レポート点で合計100点とし、60点以上で単位修得とする。	【テキスト】	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論	医学書院
		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	医学書院
	【参考文献】	系統看護学講座　専門基礎　病態生理学	医学書院
		緊急度・重症化からみた症状別看護過程	医学書院
		根拠がわかる症状別看護過程	南江堂

専門分野	科目名：地域・在宅看護生活援助技術	講師	早坂直子／外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期
ねらい	療養者とその家族が望むその人らしい療養生活を継続できるように、在宅における日常生活を支える援助とはどのようなものか学ぶ。また、在宅にあるものを工夫して、簡便、安全・安楽な生活援助と医療処置の技術を学ぶ。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	暮らしの場での看護について	1)地域・在宅生活援助技術の考え方 2)地域・在宅看護実践で看護師に求められる力	講義
2	在宅での活動への支援 在宅での食生活への支援	1)身体活動のアセスメント 2)在宅における活動への援助の実際	講義
3	在宅での排泄への支援	1)暮らしにおける食生活とその援助 2)食生活・嚥下に関するアセスメント 3)在宅における食生活への援助の実際	講義
4	在宅での清潔への支援	1)暮らしにおける排泄とその援助 2)排泄に関するアセスメント 3)在宅における排泄への援助の実際	講義
5	在宅での清潔への支援	1)暮らしにおける清潔・衣生活とその援助 2)清潔・衣生活におけるアセスメント 3)在宅における清潔への支援の実際	講義
6・7	在宅での援助の実際	1)在宅にあるものを活用した洗髪の援助	演習
8	在宅での栄養に関する医療的ケア	1)在宅経管栄養法 2)在宅中心静脈栄養法 3)在宅での創傷・褥瘡管理	講義
9	在宅での排泄に関する医療的ケア	1)尿道留置カテーテルの管理 2)消化器ストーマの管理 3)腹膜透析の管理	講義
10	在宅での薬物療法	1)在宅での与薬と薬物の管理（薬物療法・化学療法） 2)在宅での疼痛コントロール	講義
11.12	在宅での呼吸･循環に関する医療的ケア	1)在宅酸素 2)在宅人工呼吸療法	講義 演習
13.14	訪問看護の実際	1)訪問看護で行われている看護援助	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
基礎看護技術、老年看護学の既習内容を復習してから授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 地域・在宅看護の基盤　　医学書院 地域・在宅看護の実践　　医学書院 【参考文献】 写真でわかる訪問看護アドバンス　インターメディカ

専門分野	科目名：地域・在宅で療養する対象の看護	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1 単位（30 時間） 2 年次後期
ねらい	慢性疾患管理，認知症ケアと難病ケア，終末期ケアおよび専門的支援が必要な精神障害者ケアなど地域在宅看護実践について理解する．また，各健康課題の在宅療養移行期，安定期，リハビリテ急性増悪期など病期に応じた看護支援を学ぶ．			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	在宅看護介入時期別の特徴	1)在宅療養準備期・移行期　2）在宅療養安定期 3）急性増悪期　4）終末期・療養終了期	講義
2	在宅看護における安全と危機管理	1）在宅看護におけるリスク 2）在宅での日常生活における安全管理 3）災害における危機管理	講義
3.4	認知症の療養者に対する看護	1）家族・介護者を含む支援 2）社会資源の活用・調整	講義
5.6	精神障がい者に対する看護	1）在宅で療養する精神障がい者の自立に向けた支援 2）家族・介護者の支援	講義
7.8	在宅療養児に対する看護	1）在宅療養児の健康と成長発達への支援 2）家族・介護者の支援	講義
9	慢性疾患を抱える療養者に対する看護（COPD）	1）家族・介護者を含む支援 2）社会資源の活用・調整	講義
10.11	神経難病の療養者に対する看護（ALS、パーキンソン病）	1）疾病の特徴と療養の経過 2）急性増悪期の早期発見と対応 3）医療処置技術方法の習得の支援 4）家族・介護者への支援	講義
12.13	在宅で終末を迎える対象の看護	1）終末期の主な症状とコントロール 2）看取りの看護 3）多職種連携と社会資源の活用	講義
14	家族へのグリーフケア	1）遺族訪問の実際 2）悲嘆作業（グリーフワーク）の支援	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
講義で取り上げる疾患について復習して授業に臨むこと

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100 点 60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】　地域・在宅看護の基盤　医学書院 地域・在宅看護の実践　医学書院 【参考文献】　地域・在宅看護論　日本看護協会出版社

専門分野	科目名：健康とくらしを支える看護	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次後期
ねらい	病院以外の対象のくらしに興味・関心をもち、地域でどのような健康支援を行っているのか調査し、その調査結果から、看護師としての役割を考える。また小児、母性、成人、老年、障害者など様々な発達段階や健康障害をもつ人々のくらしの現状を知り、さいたま市で取り組んでいる健康支援の実際と課題を見出していく。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	地域における健康支援	1）地域の健康対策	講義
2	地域のくらしを支える活動	1）地域包括支援センターについて 2）地域包括支援センターの活動	講義
3・4	地域の理解	1）地域を理解するためのフィールドワークに向けた準備 2）人口動態・地勢・文化 3）さいたま市における健康対策	GW
5	地域の実際	1）さいたま市 10 区でのフィールドワーク	フィールドワーク
6	地域の特徴と健康課題	1）地域の特性の実際 2）地域でよりよく過ごすための改善策の提案	GW
7	グループ発表	1）発表及び振り返り	
8	終講試験		試験

受講上の留意点
情報収集についてはインターネットや情報誌など様々使用してよいが、確かな情報を取り扱うよう留意すること。

評価方法	テキスト・参考文献
授業の取り組む姿勢、発表やレポートの総合評価 100 点 100 点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 地域・在宅看護の実践　医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 【参考文献】 ナーシング・グラフィカ③健康支援と社会保障「社会福祉と社会保障」 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ③健康支援と社会保障「公衆衛生」 メディカ出版

専門分野	科目名：地域・在宅で生活する対象を支える看護	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次後期
ねらい	在宅で暮らす人々の健康生活を支えるための必要な生活支援を学習していく。また、療養者や家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1・2	訪問看護の基本技術	1）訪問看護師の役割と支援 2）訪問時のマナー 3）訪問看護のコミュニケーション技術	講義 演習
3・4	在宅におけるリハビリテーション	1）訪問リハビリテーションの考え方 2）訪問リハビリテーションの技術	講義 演習
5・6	在宅における家族支援	1）療養者と家族のアセスメント 2）家族の意思決定を支える看護 3）家族を支える看護の実際	講義 演習
7	在宅で生活する対象を支える工夫	1）福祉展示場見学（介護すまいる館） 2）在宅療養を支える自助具や介護用品の工夫	見学 演習
8	終講試験		試験

受講上の留意点
事前に教科書を読んでから授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
授業に取り組む姿勢とレポート、筆記試験の総合で評価100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 地域・在宅看護の基盤　　医学書院 地域・在宅看護の実践　　医学書院 【参考文献】 事例から学ぶ地域・在宅看護論訪問時のお作法から実習のポイントまで　医学書院

専門分野	科目名：地域・在宅看護論看護過程演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次後期
ねらい	地域・在宅看護は、病気や障害を抱えながら「その人らしく、その人が望む生活を営む」ことをめざす。在宅看護過程の展開は、ICFの視点に基づく対象の強みを活かした目標達成思考で行う。在宅看護の特徴を理解したうえで、「療養者・家族の思いや望みを達成する」ことを目標とした看護過程の展開について学んでいく。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	在宅療養に向けた調整	1）病院から在宅への継続看護 2）在宅看護過程の考え方 3）ICFに基づいた対象の捉え方	講義
2	事例に基づいた看護過程展開－事例紹介	1）事例紹介 2）情報の整理 3）次回訪問時の情報収集に向けた準備	講義・GW
3	訪問を通じての情報収集	1）コミュニケーションと観察を通じての情報収集の実践	演習
4～8	アセスメント	1）身体的側面のアセスメント 2）精神的側面のアセスメント 3）家族・介護状況の側面のアセスメント 4）環境・生活の側面のアセスメント	GW・講義
9・10	療養者とその家族の全体像の把握	1）情報関連図の作成 2）優先度の高い療養上の課題の抽出 3）長期目標・短期目標の設定	GW・講義
11	看護計画の立案	1)療養者とその家族の状況に応じた看護計画の立案	GW・講義
12・13	看護援助の実践	1)計画に基づいた看護実践	演習
14	看護実践の評価	1)実践の振り返りと評価	講義
15	サービス担当者会議について 単元のまとめ	1）サービス担当者会議とは 2）サービス担当者会議への参加に向けた準備 3）地域・在宅看護における看護過程のまとめ	GW・講義

受講上の留意点
提示された事例についての病態と看護について各自学習に取り組むこと。 1年次に学習した看護過程を復習しておくこと。

評価方法	テキスト・参考文献
授業に取り組む姿勢と、課題提出の総合で評価100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 地域・在宅看護の基盤　医学書院 地域・在宅看護の実践　医学書院 【参考文献】 関連図で理解する在宅看護過程　メヂカルフレンド社

専門分野	科目名：成人期にある対象の看護Ⅱ（呼吸・循環）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期～後期
ねらい	呼吸機能障害、循環機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、対象の看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～7	呼吸機能障害がある患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）肺の疾患と看護 ①肺炎患者の看護　②間質性肺炎と肺線維症患者の看護 ③慢性閉塞性肺疾患患者の看護　④肺癌患者の看護 3）手術を受ける患者の看護 4）人工呼吸器を装着する患者の看護 5）検査を受ける患者の看護 ①気管支鏡検査　②胸腔穿刺 ③胸腔ドレーンがある患者の看護 6）治療を受ける患者の看護 ①喘息発作時の看護、生活指導 ②化学療法を受ける患者の看護 ③放射線療法を受ける患者の看護	講義
8～14	循環機能障害がある患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）診察、検査を受ける患者の看護 ①心電図　②超音波検査　③核医学検査 ④カテーテル検査　⑤EPS 3）治療・処置を受ける患者の看護 ①安静療法（急性期・慢性期）②酸素療法 ③食事管理・水分管理　④薬物療法の管理 ⑤電気的除細動 4）循環器疾患と看護 ①心不全、不整脈がある患者の看護 ②虚血性心疾患患者の看護 5）心臓血管外科手術を受ける患者の看護（バイパス術）	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
解剖生理学の既習内容を復習してから授業に臨んでください

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　専門分野　循環器　成人看護学３　医学書院 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　成人看護学２　医学書院

専門分野	科目名：成人期にある対象の看護Ⅲ （運動・脳神経・感覚器）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期
ねらい	運動機能障害・脳神経機能・感覚機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害をもつ患者の看護を実践するための基礎的な知識・技術・態度を習得する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1～6	運動機能障害をもつ患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）検査・治療を受ける患者の看護 3）疾患の看護1：骨折 ①大腿骨＊手術含 4）疾患の看護2：変形性関節症 ①膝関節　②股関節＊手術含 5）疾患の看護3：脊椎 ①ヘルニア　②脊椎損傷 6）疾患の看護4： ①四肢切断　②関節リウマチ	講義
7～12	脳・神経機能障害をもつ患者の看護	1）日常生活への影響と看護の役割 2）検査・治療を受ける患者の看護 3）症状および障害に対する看護1 ①意識障害　②頭蓋内圧亢進症状　③痙攣発作 4）症状および障害に対する看護2 ①運動麻痺　②感覚機能障害　③言語障害（失語） ④高次機能障害 5）開頭術を受ける患者の看護 6）脳神経疾患の患者の看護	講義
13・14	感覚機能障害をもつ患者の看護	1）感覚機能障害をもつ人の観察とアセスメント 2）感覚機能障害をもつ患者に対する看護	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
解剖生理学の既習内容を復習してから授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	系統看護学講座　専門分野　運動器　成人看護学10　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　成人看護学7　医学書院 系統看護学講座　専門分野　皮膚　成人看護学12　医学書院 系統看護学講座　専門分野　眼　成人看護学13　医学書院 系統看護学講座　専門分野　耳鼻咽喉　成人看護学14　医学書院

専門分野	科目名：成人期にある対象の看護Ⅳ （内部環境・生体防御・血液）	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 1年次前期
ねらい	内部環境調節機能障害・生体防御機能障害・血液疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、各機能障害をもつ患者への看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。			

回数	主　題	学習内容	講義形態
1～4	内部機能障害をもつ 患者の看護：腎機能	1）腎機能障害をもつ人の観察とアセスメント 2）腎機能障害をもちながら生活する人の看護 3）排尿機能障害をもつ人の観察とアセスメント 4）排尿機能障害をもちながら生活する人の看護 5）透析療法を受ける患者の看護	講義
5～7	内部機能障害をもつ 患者の看護	1）視床下部・下垂体前葉系に障害がある患者の看護 2）甲状腺機能障害がある患者の看護 3）副腎機能障害がある患者の看護	講義
8	生体防御機能障害をもつ 患者の看護：アレルギー	1）防御機能障害をもつ人の観察とアセスメント 2）防御機能障害をもちながら生活する人の看護	講義
9	生体防御機能障害をもつ 患者の看護	1）自己免疫性疾患のある患者の看護 ①SLE　②HIV/AIDS	講義
10～14	生体防御機能障害をもつ 患者の看護：血液	1）日常生活の影響と看護の役割 2）検査・治療を受ける患者の看護 ①検査 （1）血液検査（2）骨髄検査（3）リンパ節生検 （4）血液凝固・線溶検査（5）細胞表面マーカー検査 ②治療・処置 （1）化学療法（2）放射線療法（3）支持療法 （4）造血幹細胞移植 3）病気に合わせた看護 4）症状別看護 ①貧血　②易感染状態　③出血傾向　④リンパ節腫脹 5）血液疾患がある患者の看護 ①白血病 6）血液疾患がある患者の看護 ①造血器腫瘍	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
解剖生理学の既習内容を復習してから授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　腎・泌尿器　成人看護学８　医学書院 系統看護学講座　内分泌・代謝　成人看護学６　医学書院 系統看護学講座　アレルギー　膠原病　感染症　成人看護学11　医学書院 系統看護学講座　血液・造血器　成人看護学４　医学書院

専門分野	科目名：成人看護学看護過程演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期～後期
ねらい	術前・術中・術後の全期間を通して手術患者が最大限早期に健康回復をもたらすことができるよう、一貫した全人的看護ケアを学ぶ。周術期での看護過程の展開を行い、必要な実践を踏まえながら学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1～3	周術期看護の理解	1）周術期にある対象の理解 ①身体的・心理的特徴　②術後合併症 2）手術前期の看護 ①術前オリエンテーション　②術前訓練 3）手術期の看護 ①手術・麻酔侵襲と生体反応 4）手術後期の看護 ①術後の観察　②退院指導	講義
4～15	看護過程の展開	1）事例提示 ①情報収集　②情報分類 2）アセスメント・問題抽出 3）関連図の作成・問題の統合 4）看護計画の立案 5）計画に基づいた看護実践① 6）SOAP と計画修正 7）計画に基づいた看護実践② 8）講義のまとめ	講義 GW 演習 演習 講義

受講上の留意点

1年次に学習した看護過程を理解した上で講義に臨んでください。
看護過程で必要な提出物について、指示された期限に提出がない場合は評価対象外となることがあります。

評価方法	テキスト・参考文献
看護過程の提出物及び参加態度等を総合して100点満点で評価する 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論　医学書院

専門分野	科目名：高齢者の健やかな生活への看護	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位 （30時間） 2年次前期
ねらい	高齢者体験を通して、加齢変化が生活に与える影響を、体験通して学んでいく。高齢者は加齢現象と共存しながら生活を送っている人達が多くいるが、体力の低下や予備能力の低下により些細なことで要介護状態に移行してしまう。高齢者が、健やかな生活を送れるための看護を学んでいく。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	加齢に伴う影響	加齢に伴う身体的機能の変化が日常生活に及ぼす影響	講義
2・3	高齢者体験	高齢者体験	演習
4	高齢者の健康とヘルスプロモーション	1）高齢者のQOLとしての健康 2）ヘルスプロポーションと健康づくり	講義
5	介護予防健康な高齢者として自立を促すための看護	1）高齢期のフレイルの予防と看護 （1）フレイルの定義　（2）高齢期のﾌﾚｲﾙの健康問題 （3）フレイルの予防　（4）予防の視点をもつ看護	講義
6	活動と休息を支える看護	1）生活リズムとは　2）コミュニケーション （加齢性難聴と視力低下、認知機能の低下、高齢者の状態に合わせたコミュニケーションと看護）	講義
7	安全な生活を送るための看護	1）歩行・移動を支える看護 （1）日常生活動作のアセスメント（バーセルインデックス、CGA） 2）転倒予防と看護　3）火災予防	講義
8	レクリエーションとは	1）レクリエーションの目的・意義 2）高齢者の特徴を考慮したレクリエーションの計画立案	講義
9	食生活を支える看護	1）高齢者における食生活 2）食生活を支える看護 （1）脱水予防と看護 3）食中毒の予防	講義
10	食生活を支える看護	摂食・嚥下機能の状態に合わせた看護	講義
11	経鼻経管栄養	経鼻経管栄養時の看護	講義
12	経管栄養の実際	経鼻経管栄（モデル人形でのPEG・経鼻カテーテル演習）	演習
13	高齢者における清潔とは	1）高齢者における清潔とは 2）清潔の支援 3）口腔ケア（義歯洗浄）	講義
14	排泄を支える看護	1）尊厳を守る排泄援助とは 2）排泄リズムと調整（排泄のための用具含） 3）尿失禁と看護 4）便秘・下痢時の看護	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点	
積極的に講義・グループワークに参加してください	
評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60 点以上で単位修得とする。	・系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院 ・系統看護学講座　専門　老年看護　病態・疾患論　医学書院

専門分野	科目名：健康障害のある高齢者の看護	講 師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） ２年次前期～後期
ね ら い	解剖生理学、病態学をふまえ、高齢者に特徴的な疾患や症状に対する看護について学んでいく。また、認知症患者の増加に伴い対応できるよう、認知症患者の行動や心理症状の特徴と老年症候群について理解を深め、看護に活かしていく。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
1	治療を受ける高齢者の看護	1）入院時の看護　（1）高齢入院患者の特徴と看護 2）検査時の看護 （1）安全・安楽な検査の実施　（2）安全・安楽な検査の実施 3）薬物療法と看護 （1）加齢と薬物動態　（2）薬物療法による有害反応の徴候と危険因子　（3）服薬管理	講義
2	機能障害がある高齢者の看護 ・運動器機能障害のある高齢者の看護（周手術期）	1）骨粗鬆症と骨折（大腿部頸部骨折、 橈骨遠位端骨折、脊椎圧迫骨折、変形性関節症） （1）病態・症状・治療　（2）看護 2）大腿部頸部骨折（手術療法と看護）	講義
3・4	・脳神経機能障害のある高齢者の看護（回復期）	1）脳梗塞　2）パーキンソン病 （1）病態・症状・治療　（2）看護	講義
5	・循環器・呼吸器に障害がある高齢者の看護（慢性期）	1）心不全　2）誤嚥性肺炎　3）慢性閉塞性肺疾患 4）脱水 （1）病態・症状・治療　（2）看護　（3）家族への看護	講義
6・7	・排泄機能に障害がある高齢者の看護（終末期）	1）前立腺肥大　2）腎不全 （1）病態・症状・治療　（2）看護	講義
8	・認知機能障害のある高齢者の看護	1）うつ　2）せん妄　3）認知症 （1）認知症のコミュニケーション　（2）認知機能および生活機能評価 （3）生活障害への援助　（4）行動・心理症状（ＢＰＳＤ）の予防と対応	講義
9	・認知症のある高齢者の看護	1）援助の実際 2）家族支援とサポートシステム	講義
10・11	・寝たきり・廃用性症候群	1）廃用性症候群とは　2）病態・症状・看護 ～グループワークと発表～	講義
12	・褥瘡のある高齢者の看護	1）褥瘡の発生と機序・好発部位 2）分類・評価 3）治療 4）看護	講義
13・14 15	演習 終講試験	1）体位測定とポジショニング	演習 試験

受講上の留意点
積極的に講義・グループワークに参加してください

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100点 100点満点とし60点以上で単位認定とする	・系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院 ・系統看護学講座　専門　老年看護　病態・疾患論　医学書院

専門分野	科目名：高齢者**看護学**看護過程演習	講 師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） ２年次後期
ね ら い	事例の対象へ高齢者の看護過程の展開に必要な既習の知識を統合・活用しながら、ゴードンの健康パターン分類のアセスメントツールを用いて看護過程を展開する。疾患の理解のみではなく高齢者の生活機能や意思決定や尊厳の視点から、看護実践の方法をグループワークで検討する。また援助計画に基づいて演習を行っていく。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
1	看護過程の展開に向けて	1）パーソン・センタード・ケアとは 2）高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方	講義
2	事例に基づいた看護過程の展開 事例紹介 情報収集、情報分類	1）事例紹介 認知症に罹患している高齢者の事例展開 2）情報分類とアセスメントの視点	講義
3～5	アセスメントの記述	1）情報提示 2）情報分類、アセスメント 3）各項目の問題抽出	講義 ワーク
6	関連図、全体像の把握、統合	1）関連図の作成（グループワーク）	ワーク
7		1）関連図の発表	ワーク
8	看護問題抽出、目標立案	1）優先度の高い問題点の決定 看護目標の検討	講義
9・10	看護計画	1）看護計画の立案（グループワーク） 2）実践に向けての準備	ワーク
11・12	計画の基づいた看護の実践	1）計画に基づいた看護の実践	演習
13・14	振り返り	1）実践の振り返り、SOAP の記載 2）弾性ストッキングの着脱	演習
15	まとめ	講義のまとめ	講義

受講上の留意点
積極的に講義・グループワーク・演習に参加してください

評価方法	テキスト・参考文献
看護過程（提出物・グループワーク・演習など）の合計で 100 点とし、60 点以上で単位修得とする。	・系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院 ・系統看護学講座　専門　老年看護　病態・疾患論　医学書院 ・看護診断ハンドブック　医学書院 ・ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく　実践看護アセスメント　ヌーヴェルヒロカワ

専門分野	科目名：こどもの成長・発達に応じた看護	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期
ねらい	小児各期の成長・発達の特徴と子どもの最良の健康状態を保持・増進するための援助について学習する。また、日常生活に潜む危険や多い事故、健康問題に対する援助について学ぶ			

回数	主　題	学　習　内　容	講義形態
1	子どもの成長・発達	1）成長・発達の一般的原則　2）成長・発達に影響する因子	講義
2・3	小児各期の成長・発達の特徴	1）形態的変化・機能的変化	講義
4	発育・発達の評価	1）身体発育の評価　2）心理・社会的発達の評価 3）養育環境	講義
5	新生児期の健康増進と安全な環境の提供	1）新生児の特徴　2）新生児の栄養 3）新生児の健康を脅かすもの　4）日常生活の世話と愛着形成	講義
6～8	乳児期の健康増進と安全な環境の提供	1）乳児期の特徴　2）乳児期の栄養 3）運動と遊び　4）感染予防と予防接種 5）事故防止　6）親子関係の確立と育児技術の獲得	講義
9～10	幼児期の健康増進と安全な環境の提供	1）幼児期の特徴　2）食生活と食育　3）自我の発達と遊び 4）基本的生活習慣の確立　5）事故防止と安全教育 6）家族関係と社会化　7）家族の支援	講義
12・13	学童期の健康増進とセルフケアの発達	1）学童期の特徴　2）食生活と生活習慣病の予防 3）疾病予防　4）学校感染症の予防 5）事故防止と安全教育　6）学校生活への適応	講義
14	思春期の健康増進とアイデンティティの確立	1）思春期の特徴　2）情緒的変化と家族との関係 3）アイデンティティの確立　4）性意識の変化と逸脱行動 5）生活の特徴　6）心の問題	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
提示された課題の学習をし、積極的に講義に参加してください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験100点 （筆記試験及びグループワーク・課題提出） 100点満点とし、60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院 【参考図書】 小児看護学概論／小児保健 小児看護学① メヂカルフレンド社 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版

専門分野	科目名：健康障害のあるこどもの看護	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1 単位（30 時間） 2 年次後期
ねらい	子どもの健康や病気に対する認識や入院が子どもと家族に与える影響について理解し、子どもと家族が必要としている援助について学ぶ。また、子どもに起こりやすい健康障害、特別な状況にある子どもと家族がおかれている状況を理解し、その子どもと家族への看護について学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	1）　子どもの病気の理解 2）　プレパレーション 3）　健康障害に伴う子どもと家族のストレスと対処 4）　子どもが入院する病棟の環境	講義
2～5	急性期にある子どもと家族への看護	1）　子どもによくみられる症状と看護 発熱、脱水、けいれん、呼吸困難、嘔吐・下痢 2）　感染症の子どもの看護 3）　川崎病の子どもの看護 4）　生命徴候が危険な状況にある子どもへの看護	講義
6～9	慢性期にある子どもと家族への看護	1）　主な慢性疾患と看護 気管支喘息、ネフローゼ症候群、Ⅰ型糖尿病 2）　子どもと家族のエンパワメントを支援する看護 3）　医療的なケアを必要とする子どもと家族への看護 4）　外来における子どもと家族への看護 5）　成人期への移行を目指した支援（トランジション）	講義
10	終末期にある子どもと家族への看護	1）　子どもの死の概念発達 2）　身体的苦痛の緩和と精神的不安への対応 3）　終末期にある子どもと家族への援助 きょうだいに対するケア	講義
11・12	手術を受ける子どもと家族への看護	1）　子どもの手術の特徴 2）　手術の時期と種類 3）　術前～術後の看護 4）　活動制限のある子どもと家族への看護	講義
13	在宅における子どもと家族への看護	1）　在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴 2）　在宅療養への移行期、継続における看護 3）　きょうだいに対するケア 4）　先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護	講義
14	災害を受けた子どもと家族への看護 被虐待児と家族への看護	1）　災害を受けた子どもの心と身体への影響 2）　特に支援を必要とする子どもと家族への看護 1）　虐待のサイン 2）　被虐待児および家族への支援	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
小児の特徴的な疾患と治療（疾病の成り立ちと治療Ⅵ）の既習内容を復習して授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験　100 点 （筆記試験及びグループワーク・課題提出） 60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学［1］　医学書院 系統看護学講座　小児臨床看護各論　小児看護学〔2〕　医学書院 【参考文献】こどもの病気の地図帳　講談社

専門分野	科目名：小児看護学看護過程演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次後期
ねらい	この科目では、事例を用いて小児における看護過程の特徴を理解し、成長発達を促すような日常生活援助や小児看護に必要な基本的看護技術の習得を目指す。また、事例を通して子どもの権利や看護師の倫理的役割について考え、発達段階に応じたプレパレーションや遊びの提供を行う。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	小児看護における看護過程	1）小児看護の看護過程の特徴　2）子どもの権利とプレパレーション	講義
2	子どものケアに必要な看護技術	1）子どもの看護技術の特徴　2）子どもの健康状態を把握する看護技術　3）検査・処置に必要な看護技術	講義
3	子どものケアに必要な看護技術の実際	身体計測、検査・処置に必要な看護援助	演習
4・5	看護過程の展開［1］	1）事例紹介　2）情報分類　3）アセスメント①	講義
6	援助場面の再現で看護を学ぶ［1］	入院した患児の安全な環境調整	演習
7～12	看護過程の展開［2］	1）アセスメント②　2）問題抽出　3）関連図作成 4）看護目標　5）看護計画立案	講義
13	援助場面の再現で看護を学ぶ［2］	計画に基づいた看護の実践①	演習
14	援助場面の再現で看護を学ぶ［3］	計画に基づいた看護の実践②	演習
15	まとめ	1）実践の振り返り　2）SOAP記載　3）計画の修正	講義

受講上の留意点
看護過程で必要な提出物について、指示された期限に提出がない場合は評価対象外となることがあります。

評価方法	テキスト・参考文献
看護過程の提出物及び演習参加態度等を総合して100点満点で評価する 60点以上で単位修得とする	【テキスト】 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学〔1〕 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学〔2〕 医学書院 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術 メヂカルフレンド社 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 医歯薬出版株式会社 【参考文献】 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 医学書院 小児医療の現場で使えるプレパレーションガイドブック 日総研出版 医療を受ける子どもへの上手なかかわり方 日本看護協会出版社 小児看護ケアモデル実践集 へるす出版

専門分野	科目名：女性のライフサイクルと健康と看護	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次前期
ねらい	女性は生まれながらに形態的生殖器の特徴を持つが、性周期を獲得していく過程で形態的にも性機能的にも変化し母性機能が成熟する。そのしくみについて性の分化から女性生殖器の形態と機能について学ぶ。 男性・女性それぞれの生殖器のライフサイクルにおける成長、発達、変化を学び、ライフサイクル各期の健康について考え、各期の健康問題を課題、看護について学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	生殖に関する形態機能とライフサイクル	1）女性の生殖器のライフサイクルにおける成長、発達、変化 2）男性の生殖器のライフサイクルにおける成長、発達、変化	講義
2～6	思春期の健康問題と看護	1）身体的・心理的・社会的特徴 2）性行動における健康問題	講義 GW
	成熟期の健康問題と看護	1）身体的・心理的・社会的特徴 2）月経困難症、月経前症候群 3）不妊症、不育症	講義 GW
	更年期の健康問題と看護	1）身体的・心理的・社会的特徴 2）更年期障害	講義 GW
	老年期の健康問題と看護	1）身体的・心理的・社会的特徴 2）老年期のセクシュアリティ 3）骨盤底筋の弛緩と尿道括約筋の障害 4）萎縮性膣炎、外陰炎	講義 GW
7	まとめ	発表	
8	終講試験		試験

受講上の留意点
男性・女性それぞれの生殖器のライフサイクルにおける成長、発達、変化は母性看護学の対象を理解する基礎となる知識となるため、人体の構造と機能についてはしっかり復習をしてから講義に臨みましょう。

評価方法	テキスト・参考文献
筆記試験・レポート：１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト・参考文献】 母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル　南江堂

専門分野	科目名：女性のライフサイクルと周産期の看護	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	１単位（30 時間） ２年次後期
ね ら い	妊娠・分娩・産褥期の対象の健康を守るために、妊娠・胎児の発育・分娩・産褥期・新生児期の経過と身体的ならびに精神的な特徴・生理的な変化を理解し、その診断法と看護について学ぶ。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
１～4	妊娠期にある対象の特性と看護	１）妊娠期の身体的・心理的・社会的特性 ２）妊娠期の看護 （１）　正常な経過をたどる妊婦とその家族の看護 （２）　異常な経過をたどる妊婦とその家族の看護	講義 妊婦体験
5～7	分娩期にある対象の特性と看護	１）分娩期の身体的・心理的・社会的特徴 ２）分娩期の看護 （１）　正常な経過をたどる産婦とその家族の看護 （２）　異常な経過をたどる産婦とその家族の看護	講義
8～11	産褥期にある対象の特性と看護	１）産褥期の身体的・心理的・社会的特性 ２）産褥期の看護 （１）　正常な経過をたどる褥婦とその家族の看護 （２）　異常な経過をたどる褥婦とその家族の看護	講義
12・13	新生児の特性と看護（認定看護師）	１）新生児の身体的・心理的・社会的特性 ２）新生児の健康状態のアセスメント ３）新生児の看護 ４）子宮外生活適応への援助	講義
14	新生児の事故防止	１）新生児の事故の状況 ２）新生児の医療事故防止	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
周産期の女性の健康を守るための基礎となる知識であり、実習で援助していくための根拠となる知識を学習するため、十分な予習と復習をした上で臨みましょう。

評価方法	テキスト・参考文献
筆記試験・レポート：１００点 ６０点以上で単位修得とする。	【テキスト】 母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル　南江堂 根拠がわかる母性看護技術　南江堂 【参考文献】 系統看護学講座　母性看護学各論　医学書院

専門分野	科目名：母性看護学看護過程演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） ２年次後期
ねらい	母性看護学ではウエルネスの考え方を基本とし、褥婦の看護過程を展開する。どのような妊娠経過や分娩経過を経て、褥婦の現状と新生児が存在するのかを考え、褥婦と新生児に必要な看護を考える。妊婦健康診査で必要な援助や分娩時の産痛緩和のための援助、分娩進行を促す援助を学ぶ。また、褥婦の退院後の生活をイメージし、褥婦と新生児に必要な技術を習得する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	産褥期の看護過程	1）ウエルネスの思考での看護過程の展開のポイント 2）妊娠期から分娩期を経て産褥期にある事例の紹介	講義
2	妊婦に必要な看護技術	1）レオポルド触診法 2）胎児心音聴取 3）妊婦健康診査 4）妊婦体操	演習
3	アセスメント	1）妊娠期の情報分類とアセスメント	講義/ ワーク
4	産婦に必要な看護技術	1）産痛緩和のための援助 2）分娩進行を促す援助	講義
5～7	アセスメント	1）分娩期の情報分類とアセスメント 1）産褥期の情報分類とアセスメント 2）新生児期の情報分類とアセスメント	ワーク
8・9	関連図	1）関連図、問題抽出、看護目標 2）中間カンファレンス	ワーク 発表
10	計画立案	1）計画立案	GW
11	褥婦に必要な看護技術	1）計画の実践	演習
12	ＳＯＡＰ	1）ＳＯＡＰ記録 2）計画修正	ワーク
13・14	新生児に必要な看護技術	1）出生直後の新生児の観察 2）新生児のバイタルサイン測定 3）沐浴	演習
15	帝王切開の看護 まとめ	1）帝王切開を受ける産婦への援助 2）帝王切開を受けた褥婦への援助	講義

受講上の留意点
提示された課題の学習をしっかり行ったうえで講義や演習に臨みましょう。グループワークにも積極的に参加してください。

評価方法	テキスト・参考文献
授業に取り組む姿勢と、課題の提出の総合で100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル　南江堂 根拠がわかる母性看護技術　南江堂 【参考文献】 系統看護学講座　母性看護学各論　医学書院

専門分野	科目名：精神障害を持つ対象の看護	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次前期
ねらい	1．精神障がいを持つ人の看護の基本を理解する 2．診察・検査・治療法を受ける対象に必要な看護を理解する 3．精神障がい者の症状と問題の特徴について理解し、家族を含めた看護援助の方法を理解する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	1．精神に障害を持つ対象の看護の基本	1)目標･役割 2)観察の視点とアセスメント 3)権利擁護　4)リスクマネージメント	講義
2･3	2．精神看護の場と看護	1)外来での看護 2)病棟での看護（急性期、慢性期の看護） 3)リハビリテーション 4)地域での看護（社会復帰期）	講義
4	3．医療観察法と看護管理	1)医療観察病棟における看護と看護師の役割	講義
	4．診察・検査および治療に伴う看護	1)診察に伴う看護 2)検査に伴う看護 3)身体療法･精神療法を受ける患者の看護	講義
5･6	5．統合失調症の看護	1)精神症状･身体症状、治療と看護　2)家族への援助	講義
7･8	6．気分障害の看護	1)気分障害にある人の治療と看護 2)薬物療法･電気けいれん療法と看護 3)家族への援助	講義
9	7．神経症性･ストレス 障害の看護	1)不安と防御機制　2)症状と看護　3)家族への援助	講義
10	8．生理的.身体的障害の看護	1)成長発達の特徴　2)症状と看護　3)家族への援助	講義
11	9．精神作用物質･認知症の看護	1)離脱症状と看護　2)リハビリテーションと看護 3)家族への援助　4)リハビリテーションとは	講義
12	10．てんかんの看護	1)てんかん発作と看護　2)家族の援助	講義
13	11．知的障害の看護	1)成長発達の特徴　2)症状と看護　3)家族への援助	講義
14	12．リエゾン精神看護	1)リエゾン精神看護 （1)リエゾン看護とは　(2)リエゾンナースの活動	講義
15	終講試験		試験

受講上の留意点
演習やワークにも積極的に参加し、分からないことは質問すること。

評価方法	テキスト・参考文献
出席状況 終講試験：　100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 精神看護学1 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 精神看護学2 医学書院 【参考文献】 ナーシング･グラフィカ 情緒発達と精神看護の基本 精神看護学① MCメディカ出版 ナーシング･グラフィカ 精神障害と看護の実践 精神看護学② MCメディカ出版 国民衛生の動向 一般財団法人 厚生労働統計協会

専門基礎分野	科目名：精神看護学援助技法	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 2年次後期
ねらい	1. 精神疾患をもつ患者への接近方法が理解できる 2. 患者-看護師関係の成立と発展について理解できる 3. 精神疾患をもつ患者および家族の援助が理解できる			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	1. 精神障害の理解と看護の基本	1）精神障がい者の理解と考え方 （1）情報収集の視点 （2）観察（全身状態の観察 対人関係の観察） （3）家族に関する情報の収集 目的と視点 2）接近・接触の技法 （1）人としての尊厳を尊重する （2）互いの境界を守る （3）現実検討をする （4）応答性を保つ	講義
2・3	2. 効果的なコミュニケーションの技法	1）視線・立ち方・座る位置・声のトーンと速度 時間・質問の仕方・話しをする	講義/演習
4・5	3. 患者-看護師間の理解	1）関係の始まり・安定を保つ・関係を終結する （1）プロセスレコードの分析	講義/演習
6	4. 環境の調整	1）治療と環境 2）環境整備の実際	講義/GW
7	5. 患者家族の理解とその援助	1）患者家族の心理 2）家族への負担 3）家族が危機を乗り越えるための援助	講義/GW
8	終講試験		試験

受講上の留意点
テキスト、講師の作成した資料を用いて講義を進めます。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験：100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　専門　精神看護の基礎　精神看護学1　医学書院 系統看護学講座　専門　精神看護の展開　精神看護学2　医学書院 【参考文献】 大森武子他　仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス　医歯薬出版 五十嵐透子　自分を見つめるカウンセリング・マインド　医歯薬出版 長谷川雅美　自己理解・対象理解を深める　プロセスレコード　日総研

専門基礎分野	科目名：精神看護学看護過程演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 2年次後期
ねらい	看護過程を展開し、精神障がいの主な症状について学ぶ。事例を用いて症状と援助方法の考え方を理解できるようにする。精神症状が影響する患者の状態をアセスメントし、援助の必要性を明らかにして看護計画を立案する。援助事例を元にＳＯＡＰとプロセスレコードの記入を行い、精神看護学における看護過程を理解できるようにする。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	1.精神障害を持つ人の看護過程の展開	1）精神看護の援助と特徴 精神障害を持つ人の看護過程	講義
2～5	2.情報収集・アセスメント	1）看護過程の展開 情報収集・アセスメント	講義/演習
6・7	3. 全体像の把握	1）看護過程の展開 情報関連図・全体像の把握	講義/演習
8・9	4. 看護問題・看護目標	1）看護過程の展開 看護問題・看護目標	講義/演習
10・11	5. 看護計画	1）看護過程の展開 看護計画	講義/演習
12・13	6.プロセスレコード	1）看護過程の展開　患者ー看護者関係の発展 （1）プロセスレコード【演習】	講義/演習
14	7. SOAP	1）看護過程の展開 （2）SOAP 記述	講義/演習
15	まとめ	提出物の最終提出	講義

受講上の留意点
指示された課題の学習をしっかり行い、講義にのぞみましょう。グループワーク、発表にも積極的に参加すること。配点の 6割に達していない場合、再提出を要することがある。

評価方法	テキスト・参考文献
看護過程 100 点 （グループワークと発表、提出物による評価を含む） 60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　専門　精神看護の基礎　精神看護学１　医学書院 系統看護学講座　専門　精神看護の展開　精神看護学２　医学書院 全人的視点に基づく精神看護過程　第２版　医歯薬出版 【参考文献】 看護技術実習ガイド５精神看護技術+その手順と根拠-第２版　メヂカルフレンド社

専門分野	科目名：国際・災害看護	講師	早坂　直子	1単位（15時間） 2年次後期
ねらい	諸外国の看護事情を知ることにより、国際保健医療の中での看護の問題を把握し、看護職の果たす役割を理解する。 看護職であるならば、誰もが災害看護活動ができる能力を求められている。災害という通常ではない特殊な状況で適切なケアができるよう、災害に関する基本的な知識を習得する。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1	災害看護	1）災害看護の概要	講義
2		2）災害サイクルから見た必要な看護（超急性期、急性期）	講義
3		3）災害サイクルから見た必要な看護（亜急性期、復興期）	講義
4		4）防災・災害マネージメント 地域防災、防災教育、避難訓練、ボランティアの育成	講義
5		5）トリアージ演習	演習
6		6）災害救護の演習 （止血法・三角巾での包帯法・担架での搬送）	演習
7	国際看護	在日外国人への災害時の援助、国際協力	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座 統合 災害看護・国際看護 医学書院 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂

臨地実習	科目名：基礎看護学実習Ⅱ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2単位（90時間） 2年次
実習目的	対象の生活過程を理解し、対象に応じた日常生活援助を実践するための基礎的能力を養う。			

実習目標	実習内容
1.対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響を捉えることができる。	1）対象の発達段階の特徴　2）入院前の生活環境（職業・家族構成）の把握 3）対象の健康障害の程度・経過　4）対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響 5）対象の健康障害が精神的・社会的側面に及ぼす影響 6）療養環境、入院後の一日の過ごし方
2.対象に応じたコミュニケーション方法を用いて情報収集ができる。	1）意図的な会話　2）言語的・非言語的コミュニケーションの活用 3）適切な言葉遣い、積極的傾聴、受容した態度　4）患者・家族との適切なコミュニケーション
3.対象の情報をアセスメントし、健康問題を計画的に解決する方法について学ぶ。	1）健康問題を引き起こしていると思われる身体的・心理的・社会的要因の明確化 2）現在行っているセルフケア行動と対象の受けとめ方 3）日常生活援助の必要性の把握　4）S情報、O情報の整理 5）アセスメントツールの活用：ゴードンの機能的健康パターン 6）対象の状態を観察し、アセスメントする方法を学び、日常生活援助の必要性を理解する
4.対象の安全・安楽・自立を考慮した根拠に基づく看護計画が立案できる。	1）情報関連図の作成（患者全体像の把握） 2）情報のアセスメントから問題を抽出、目標の設定 3）問題解決（目標の達成）に向けた看護計画の立案
5.対象に応じた日常生活援助を実践し、評価できる。	1）原理原則に基づいた援助 2）既習の基礎看護技術を用いて対象にあわせた援助方法の工夫 （患者への指導は行わない） 3）対象の状態、状況に合わせた安全、安楽な援助 4）対象の自立を妨げず、日常生活行動の拡大に向けた援助 5）計画に基づいた援助を実施した結果の考察と目標達成度の評価 6）評価した内容に基づく計画の修正 7）日々の実習目標を評価し、翌日の行動計画立案
6.倫理に基づいた行動をとることができる。	1）事故の予防と安全確保　2）感染防止行動 3）生命の尊厳とプライバシーの保護　4）カンファレンスへの積極的な参加 5）規定に則った清潔感のある身だしなみ 6）収集した医療看護情報の適切な報告・伝達 7）記録物の適切な取扱いと期限を守った提出　8）計画的な学習

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。　・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。

評価方法	実習施設
・実習時間の2/3以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100点満点で評価、60点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院 ・大宮共立病院 ・指扇療養病院

臨地実習	科目名:成人看護学実習Ⅰ	講師	専任教員 (臨床実務経験あり)	2単位(90時間) 2年次後期
実習目的	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で既習した知識・技術・態度を活用し、健康問題の解決や健康課題の達成に向けての看護を実践する。			

実習目標	実習内容
1. 成人期にある対象を生活者として統合的に理解することができる。	1) カルテや対象とのコミュニケーションから情報収集する。 (1)対象の疾患と入院に至るまでの経過(入院までに受けた検査や治療を含む) (2)これまでの生活環境と現在の療養環境 2)得られた情報(生活習慣)から対象の病態や今後の起こりうる問題(退院後の生活)との関連を考える。
2. 健康障害が対象の生活やセルフケア能力へ及ぼす影響を考えながら、アセスメントし看護実践に繋げることができる。	1)疾患の原因、治療、検査、入院に対する認識を理解する。 2)疾患の受けとめ方を理解する。 (肯定的・否定的・あきらめ・依存的など) 3)健康障害が及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響について考える。 4)必要な支援体制を踏まえて社会復帰に向けた看護について考える。 5)関連図を作成し、対象に起こっている問題を抽出する。
3. 疾患を抱えながら、よりよく生きるための看護を考え実践することができる。	1)対象の生活状況や生活習慣を捉え、自立に向けて必要な看護を考える。 2)対象のニードを捉えて、残存機能を活かした看護を考え実践する。
4. 慢性期または回復期にある対象の看護について自己の考えを深めることができる。	1)退院後の生活に必要な知識・技術の指導を実施し、慢性期または回復期の看護について考える。 (1)服薬管理 (2)生活習慣の見直し (3)食生活について (4)睡眠と休息 (5)受診の判断と対処行動について 2)長期にわたるセルフケアを継続する必要がある対象の看護を考える。

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の2/3以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名：老年看護学実習Ⅰ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 2 年次後期
実習目的	高齢者の特徴を理解し、対象に合わせた看護を実践できる			

実習目標	実習内容
1．加齢に伴う高齢者の特徴を理解できる	1）老年期の発達課題と対象の理解 2）対象の生活背景 3）身体的、精神的、社会的変化の理解 4）加齢による生活への影響と個人差の理解 5）入院、療養生活に対する高齢者や家族の受け止め方の把握 6）日常生活に影響を及ぼしている因子（疾患や症状など） 7）老年期に起こりやすい症状、疾病の病態生理と健康レベルの理解
2．対象のセルフケア能力に応じた看護を実践できる	1）日常生活の把握 2）加齢及び心身機能低下を進行させる要因 3）日常生活を阻害している要因 4）疾患の進行及び合併症の危険予測 5）事故誘発の危険予測 6）現在のセルフケア能力に応じた機能維持 7）二次障害を予測し、安全・安楽に留意した援助
3．対象の人生観・価値観を尊重し QOL を考慮した関わりができる	1）対象に合わせたコミュニケーション 2）対象の自尊心を尊重した関わり（礼儀・言葉遣い・態度） 3）生活史の理解
4．対象の家族の役割を知り、家族を支援する必要性を理解できる	1）介護する家族や対象を取り巻く人々の生活状況や心理・欲求や役割 2）家族支援の実際
5．高齢者の生活を支える多職種連携を理解できる	1）対象を取り巻く多職種の役割と連携 2）退院に向けた多職種との連携における看護師の役割 3）通所介護（デイサービス）での見学を通して、自立支援、家庭復帰に向けた援助に関わる多職種の役割と連携の実際

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院 ・大宮共立病院 ・指扇療養病院 ・さいたま市内デイサービスセンター

３年次シラバス

3年次 学科進度表

科目			単位数	時間数	3学年 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専門分野	基礎看護学	看護倫理	1	15												
		看護研究演習	1	15												
	看護の統合と実践	医療安全	1	15												
		看護管理	1	15												
		統合技術演習	1	30												
	臨地実習	地域・在宅看護論実習	2	90												
		成人看護学実習Ⅱ	2	90												
		成人看護学実習Ⅲ	2	90												
		老年看護学実習Ⅱ	2	90												
		小児看護学実習	2	90												
		母性看護学実習	2	90												
		精神看護学実習	2	90												
		統合実習	2	90												

3年次 実施科目および評価方法

科目			単位数	時間数	授業形態	講師名	担当時間数	配点	認定方法	認定時期
専門分野	看護学基礎	看護研究演習	1	15	講義・演習	専任教員	15	100	課題	後期
		看護倫理	1	15	講義	専任教員	15	100	筆記	前期
	看護の統合と実践	看護管理	1	15	講義	外部講師	15	100	筆記	前期
		医療安全	1	15	講義	外部講師	7	50	筆記	前期
					講義	専任教員	8	50	筆記	
		統合技術演習	1	30	講義・演習	専任教員	30	100	筆記・レポート	後期

専 門 分 野

看護学の主要概念となる人間・環境・健康をどのように捉え、看護とは何かを考え、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を身につける。そして、それぞれの領域における対象と健康問題の特性を理解し、その人らしく生活できるための**看護の**方法と役割について学ぶ。

専門分野	科目名：看 護 倫 理	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 3年次前期
ね ら い	看護師としての職業倫理を理解し、専門職業人としての基本的な責任を果たすために倫理的課題に遭遇した時の判断力、対処する力を育成する。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1・2	看護倫理とはなにか	1）看護倫理を学ぶ意義 2）看護実践上の倫理に関する主要概念 3）看護倫理をふまえた看護実践の特徴	講義
3～5	専門職の倫理	1）専門職に求められる倫理 2）看護職の倫理綱領	講義
6・7	倫理的課題へのアプローチ	1）看護実践の中での倫理的課題とアプローチ 2）事例検討	講義
8	終講試験	終講試験	試験

受講上の留意点
専門職に必要不可欠な「倫理」について、基本的事項を学ぶ。グループワークやディスカッションなどをとおし、倫理的課題の解決に必要な力をつけていくので、積極的に参加してほしい。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 系統看護学講座　別巻　看護倫理　　医学書院 看護職の基本的責務　　日本看護協会出版会 【参考文献】 よくわかる看護職の倫理綱領　　照林社

専門分野	科目名：看護研究演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 3年次前期
ねらい	看護研究の基礎的な知識を活用し、臨地実習での事例を取り上げ、ケース・スタディに取り組む。			

回数	主　題	学習内容	講義形態
1	ケース・スタディとは	1）ケース・スタディとは 2）ケース・スタディの構成	講義
2	ケース・スタディ計画書	研究計画書の作成	演習
3	研究を伝える	1）研究成果の書き方 2）研究論文の構成	講義
4・5	ケース・スタディ演習	論文の作成 抄録の書き方と実際 発表スライドの作成	演習
6・7	ケース・スタディ発表	学内看護研究発表会	

受講上の留意点

・臨地実習での事例を取り上げ、ケース・スタディとして論文作成から発表まで行う。
・あらかじめ自己の研究テーマに関する文献検索を行い、計画的に研究に臨むこと。
・研究成果は学内での発表のほか、埼玉県看護学生研究発表会への投稿を（代表者）目指したい。

評価方法	テキスト・参考文献
提出された研究計画書・ケース・スタディ論文と研究に取り組む姿勢の総合評価とする。（評価表及び評価基準は授業内で説明する）	【テキスト】 系統看護学講座 別巻　看護研究　医学書院 新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　照林社 【参考文献】 看護研究 ミニマム・エッセンシャルズ　医学書院

専門分野	科目名：医 療 安 全	講師	外部講師 専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（15時間） 3年次前期
ねらい	頻発する医療事故を概観し、医療職を取り巻く社会的環境と医療現場の現状を理解し、医療事故に対するリスクマネジメントについて学習する。さらに、患者安全の視点を身につけるべく危機予知トレーニング（KYT）や実際に起きた医療事故事例の分析を通して、その原因と要因を自分達の問題として捉えながら考察し、医療事故の予防対策のあり方や事故発生時の対処方法について深く理解できるようにする。			

回数	主　題	学 習 内 容	講義形態
1	医療安全とリスクマネジメントの概念	1）医療安全とは　2）リスクとクライシス 3）ヒューマンエラー	講義
2	医療事故に対する看護師の倫理的課題と法的責任	1）ヒューマンファクターの重要性　2）エラーからの学習 3）リスクの管理　専門職としての法的責任	講義
3	個人・チーム・組織としての医療安全	1）個人の取り組み　2）チームとしての取り組み 3）医療機関の取り組み	講義
4・5	医療事故要因分析と対策	1）危険予知トレーニング（ＫＹＴ） 2）分析手法（ＳＨＥＬＬ） 3）看護援助の実際の場面を危険予知トレーニング（グループワーク）	講義
6	実際に起こった医療事故事例分析	1）医療事故事例の原因・要因と対処法の振り返り 2）予防対策の考察	講義
7	終講試験		試験

受講上の留意点

医療を取り巻く現状を医療事故報道や情報から注目し、医療事故がなぜ起こるのか、どのように対応すればよいか、常時考えるようにして下さい。自分たちの普段の行為も振り返り、考えられるようにしておいてください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100点 60点以上で単位修得とする。	【テキスト】 医療安全　　南江堂 【参考文献】 看護学生してはいけないケースファイル　臨地実習禁忌集　丸善出版 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術　医学書院 ヘンダーソンの基本的ニードに基づく看護学実習ヒヤリハット防止マニュアル　医歯薬出版社

専門分野	科目名：看 護 管 理	講師	外部講師	1 単位（15 時間） 3 年次前期
ね ら い	対象者に質の高い継続したケアを提供する為に、対象者を取り巻くあらゆる資源（人的・物的・財的）を有効利用し活用する為の「しくみ」やマネジメントを理解する。チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護師が担う役割であることを理解する。また身近なチーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整とリーダーシップ及びマネジメントの必要性を理解する。			

回数	主 題	学 習 内 容	講義形態
1	マネジメントの概念と実践	1）看護におけるマネジメント　2）薬品・物品の管理 3）情報管理	講義
2	看護師のチームワークとコミュニケーション	1）医療チームにおける指示と報告 2）看護業務におけるチームワークとリーダーシップ 3）看護チームでの情報伝達・共有	講義
3	多職種のチームワークとコミュニケーション	1）チーム医療の実際 2）多職種カンファレンス 3）チーム医療における看護師の役割	講義
4・5	業務遂行のためのマネジメント	1）1 日の業務の組み立て （1）1 日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 （2）業務時間の管理 2）多重課題への対処 （1）多重課題の危険性 （2）多重課題発生時の対処の原則	講義
6・7	看護職自身のマネジメント	1）看護職の健康管理 （1）看護実践と健康管理 （2）看護師が被害者となる自己とその対策 2）看護師のキャリア開発・継続教育 （1）キャリア形成 （2）生涯学習	講義
8	終講試験		試験

受講上の留意点
看護師として日常の業務を安全に遂行していくために学習します。事前にテキストを読んで授業に臨んでください。

評価方法	テキスト・参考文献
終講試験 100 点 60 点以上で単位修得とする。	【テキスト】 新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社 【参考文献】 系統看護学講座 看護管理 医学書院

専門分野	科目名:統合技術演習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	1単位（30時間） 3年次前期～後期
ねらい	複数の事例を設定し、優先順位の判断、多重課題に対応する力を養う。また、看護師のメンバーシップ・リーダーシップの役割を理解し、チームで看護実践できる能力を養う。 臨床での看護実践力の向上を目指し、複合的な援助技術を要する対象への個別的な援助及び診療に伴う技術の適切な実施・評価ができる能力を養う。			

回数	主題	学習内容	講義形態
1・2	複数事例の情報収集、アセスメント、看護計画	1）患者を受け持つための必要な情報 2）アセスメントと看護計画	講義
3	複数患者受け持ちに対する1日のタイムテーブルの作成	1）優先順位を決定するための情報整理の工夫と時間管理	講義
4・5	複数患者受け持ちの看護実践と振り返り	1）計画の実践と振り返り	演習
6	多重課題への対処	1）多重課題とは　2）看護場面での多重課題 3）多重課題へ発生時の対応	講義
7	多重課題・不測の事態発生時の対応	1）ＤＶＤを観て優先順位について話し合う	講義
8	チームで看護実践するための事例展開	1）リーダー、メンバーの役割を踏まえた看護計画の立案	講義
9・10	チームでの多重課題看護実践	1）不測の事態発生時の対応　2）チーム連携 3）報告、連絡、相談、協働　4）振り返り	演習
11～14	複合的な条件の看護実践	1）複合的な条件を要する事例の生活援助技術の実践 2）診療に伴う技術の実施評価	講義 演習
15	終講試験		試験

受講上の留意点

今まで修得した知識・技術・態度を統合し活用していく科目であり、自ら課題を見つけ学習する姿勢が求められる。

講義1～10回は統合実習に向けた講義・演習、第11回以降は統合実習後に講義・演習を実施していく。

評価方法	テキスト・参考文献
①試験とレポートの両方で評価 ②演習全ての出席をもって評価を確定する	事例に合わせて必要なテキストを各自準備する

臨 地 実 習（領域別）

臨地実習	科目名:地域・在宅看護論実習	講師	専任教員 (臨床実務経験あり)	2 単位(90 時間) 3 年次
実習目的	地域で生活するあらゆる人々を理解し、その人らしく生きることを支援する看護を実践するための基礎的能力を養う			

実習目標	実習内容
1. 在宅看護が必要な療養者とその家族の状況が理解できる	1)療養生活が生活に与える影響 2)健康障害をもつ療養者を支える家族の状況 3)生活環境が療養者とその家族の生活に与える影響
2. 療養者とその家族の価値観や意思を尊重した看護がわかる	1)訪問看護活動の実際 2)受け持ち療養者および家族の健康状態、生活状況、価値観に応じた看護 3) 受持ち療養者および家族のニードにより活用可能なサービスと活用方法 4) 受持ち療養者の生活に必要な援助の立案 5) 療養者とその家族に接するときに必要な基本姿勢と態度 6) 看護師とその他の職種の連携・協働の実際 7) その人らしい生活を支援するため訪問看護師に求められること
3. 継続看護の必要性について理解することができる	1) 在宅生活に向けた入退院支援・退院調整の実際
4. 地域で生活している人の健康増進・疾病の予防について理解できる	1)地域包括支援センターの機能と役割 2)地域包括支援センターを利用する人の目的とニーズ 3) 地域で暮らす人々のニーズを踏まえた支援の実際
5. 地域包括システムにおける看護の役割を理解する	1) 地域包括ケアシステムについて 2) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の中での看護師の役割 3) 地域での生活を支える看護について

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市内訪問看護ステーション ・さいたま市内地域包括支援センター ・さいたま市立病院 患者支援センター

臨地実習	科目名:成人看護学実習Ⅱ	講師	専任教員 (臨床実務経験あり)	2 単位(90 時間) 3 年次
実習目的	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で既習した知識・技術・態度を活用しながら統合的に理解し、健康問題の解決や健康課題の達成に向けての看護を実践する。			

実習目標	実習内容
1.機能障害や治療により変化した身体的特徴を理解することができる。	1)カルテやコミュニケーションから情報収集する (1)対象の疾患と入院に至るまでの経過 (2)対象の受けた検査と治療 (3)フィジカルイグザミネーションを活かした観察
2. 急性変化を生じた患者・家族への看護場面から、看護師の役割を考えることができる。	1)救命救急センターにおける看護の実際を知る (1)安全管理(2)感染管理 (3)救急処置、医療行為の介助 (4)緊急度・重症度の判断 (5)フィジカルアセスメント 2)緊急な状態にある対象とその家族への配慮の実際を知る (1)対象への精神的支援 (2)家族への精神的支援 (3)環境調整 (4)倫理的配慮
3.生活変容を必要とする対象の社会的背景、変化を踏まえ、回復を促すための看護を考え実践できる。	1)入院前の社会的役割を踏まえ、疾患により変化した身体機能に合わせた看護の実践を行う (1)社会や家庭での役割 (2)ADL(循環動態に合わせた活動、機能障害の程度に合わせた活動) 2)患者の退院後の自己管理に向けた指導を実施する (1)服薬管理 (2)嗜好品 (3)食生活について (4)睡眠と休息 (5)活動範囲の拡大方法 (6)受診の判断と対処行動について
4. チーム医療の重要性について理解し、看護師の役割を考えることができる。	1)各部門との連絡・調整の実際を知る (1)各部門との連絡調整 (2)医療チーム内での報告、連絡、相談 2)病棟でのチームナーシングの実際を知る
5. 急性期・周術期にある対象の看護について自己の考えを深めることができる。	1)急性期・周術期にある対象の看護について実習全体を振り返り、自己の考えをまとめる

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名:成人看護学実習Ⅲ	講師	専任教員 (臨床実務経験あり)	2 単位(90 時間) 3 年次
実習目的	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱを基盤に、あらゆる健康段階にある対象の看護を実践する。また、臨床看護実践力を身に着けるための知識・技術・態度を習得し、看護の役割や自己の看護の考えを深めていく。			

実習目標	実習内容
1. 対象の健康段階(病期)に合わせた特徴についてアセスメントできる。	1)事前学習を活かした情報収集を行い、病態を理解する
2. 対象の生命の安全を守り、苦痛の緩和や異常の早期発見を考えながら看護実践につなげることができる。	1)日々の状態をアセスメントし、異常の早期発見に繋げる 2)対象に起きている身体的苦痛を理解する。 (1) ADL の変化とセルフケアの程度 (2) 検査データの変化 (3) 苦痛の程度や増強因子 3)苦痛を増強させない又は緩和できる援助を実施する (1) 環境整備 (2) 体位の工夫 4)清潔の援助
3. チーム医療の重要性について理解し、看護師の役割を考えることができる。	1)ICU/HCU における看護師の役割とチーム医療の実際を学ぶ (1)安全管理 (2)感染管理 (3)医療機器の管理 (4)患者や家族に対する配慮 (5)医療チーム内での連携
4. 手術室における看護師の役割を理解することができる。	1)手術室における看護の実際を学ぶ (1) 安全管理 (2) 感染管理 (3) 手術を受ける患者への配慮 (4) 他職種との連携
5. 成人看護学全般を通して、自己の看護観について考えを深めることができる。	1)成人看護学実習Ⅲの実践を踏まえ、成人期にある対象の看護について自己の考えをまとめる

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名：老年看護学実習Ⅱ	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 3 年次
実習目的	高齢者の特徴を理解し、健康障害に応じた看護を実践できる			

実習目標	実習内容
1. 健康障害をもった高齢者の特徴を理解できる。	1）対象理解 （1）生活習慣が健康障害に及ぼす影響 （2）疾病、治療が及ぼす影響 （3）入院前・現在のセルフケア能力 （4）入院による環境の変化 （5）入院に対する高齢者や家族の受け止め方 （6）価値、信念
2. 対象の健康障害に応じた援助が実践できる。	1）セルフケア能力に応じた看護計画、援助の実践 2）加齢の特徴や対象の健康障害に応じて安全・安楽に留意した看護計画、援助の実践 3）治療に伴う合併症の予防、症状の緩和をするための看護計画、援助の実践
3. 対象の健康障害が家族に及ぼす影響が理解できる。	1）介護する家族や対象を取り巻く人々の生活状況や心理・欲求や役割 2）家族支援の実際
4. 対象の個人史、信条、信念、価値観を尊重した関わりが実践できる。	1）高齢者の特徴を考慮したコミュニケーション 2）価値観、健康に関する認識への配慮 3）生活習慣、信条への配慮 4）言葉遣い、質問や会話への配慮
5. 対象を取り巻く社会資源を理解し、多職種連携と看護師の役割について理解できる。	1）対象及び家族の社会復帰への思いを理解 2）社会復帰に向けた社会資源の理解 3）社会復帰に向けた多職種連携と看護師の役割

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名：小児看護学実習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 3 年次
実習目的	小児看護の対象を統合的に理解し、健康障害をもつ子どもと家族に対する看護が実践できる基礎的能力を養う。			

実習目標	実習内容
1. 子どもの特徴と成長・発達を理解し、健康レベルや発達段階に応じた援助ができる。	1）対象の成長・発達の観察と評価 2）対象の生活過程、基本的生活習慣の自立状況の把握 3）発達段階・健康状態に応じた遊びの把握 4）対象の健康障害の把握と発達段階・病態生理に基づいた解釈・分析 5）対象の基本的日常生活状況の把握 6）対象と家族の状況をふまえた看護問題の特定と発達段階・病態生理に基づいた優先順位の決定 7）発達段階を考慮し問題解決に向けた目標設定 8）安全・安楽の考慮及び発達段階に応じた看護計画の立案 9）安全に配慮し発達段階・健康状態に応じた日常生活の援助 10）バイタルサイン測定・診療の介助・治療・処置・検査時の援助
2. 健康障害や入院生活が、子どもとその家族に及ぼす影響を理解できる。	1）入院前・後の生活の変化 2）退院後の生活を見据えた援助 3）対象の入院生活に対する家族の認識や理解 4）対象の入院に伴う家族の生活と役割の変化 5）家族（きょうだい・父母・祖父母）への影響 6）子どもの権利を尊重した関わり
3. 子どもの安全を守るために必要な援助ができる。	1）施設の構造・設備、利用時の留意点 2）子どもに起こりやすい事故（転落・転倒、誤飲、窒息 等） 3）日常生活援助や診療の補助における事故防止 4）環境調整、衛生管理　5）感染予防対策の理解と徹底 6）感染症をもつ児への対応と身体的・心理社会的影響 7）予防接種歴
4. 子どもと家族の相互関係を理解できる。	1）ケアを受ける対象と家族の力を支える援助
5. 子どもと家族への関わりを通して、自己の子ども観を養う。	1）小児看護の役割 2）小児看護と倫理原則 3）医療を受ける子どもの権利

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院 ・さいたま市内保育所

臨地実習	科目名：母性看護学実習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 3 年次
実習目的	母性看護の対象の特徴を理解し、適応を促すための看護を実践できる基礎的能力を養う。			

実習目標	実習内容
1. ライフサイクル各期の女性の特徴をふまえ、妊婦・産婦の特徴と援助の実際を理解する。	1）妊婦に施行される健診内容を理解し、健康管理の実際を学ぶ。 2）健康診査の結果を把握し、母児の経過と援助の必要性の判断を学ぶ。 3）妊娠各期や個々のニーズに応じた保健指導を学ぶ。 4）分娩が順調に経過する為の援助の実際を学ぶ。 5）産婦の苦痛の軽減、精神的慰安の援助ができる。 6）分娩第 3 期・4 期の子宮収縮状態促進の援助について理解し、援助の実際を学ぶ。 7）分娩時からの、よりよい母子関係・親子関係の出発点となる援助について学ぶ。 8）分娩を見学し、生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の態度や価値観を養う。 9）ライフサイクルにおける健康問題を知り、婦人科外来の実際を知る。
2. 褥婦の特徴を理解し、援助を必要とするニーズや問題を捉え、適応を促すための援助を実践する。	1）褥婦の特徴や身体的変化を理解し、対象の健康状態のアセスメントと援助を学ぶ。
3. 新生児の特徴を理解し、日常の変化や新生児看護の原則に基づいた生活の援助を実践する。	1）新生児の情報を把握し、経過や経過に影響を及ぼす因子・援助の必要性の判断ができる。 2）子宮外生活への適応や基本的ニードの充足に向け、新生児の看護の原則を踏まえた日常生活の援助を学ぶ。 3）母子愛着形成のための看護として、ファミリーセンタードケアの役割を知る。 4）ディベロップメンタルケアの見学を通して、治療を必要とする新生児の特性を知る。
4. 母性看護活動の在り方と社会資源の活用方法が理解できる。	1）母子保健に関する社会資源を理解し、その活用の援助を学ぶ。 2）対象の生活に対する考えを把握し、対象に必要な社会資源を提示できる。
5. 母子の援助を通して、母性の概念が深まり、自己の母性（父性）観を考察する。	1）母児の看護を通して母性意識・母と子の絆・家族についての認識を深める。

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院

臨地実習	科目名：精神看護学実習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 3 年次
実習目的	精神障がいをもつ対象を統合的に理解し、自立に向けた看護を行うための基礎的能力を養う。			

実習目標	実習内容
1.精神障がいを持つ対象とその家族の理解ができる。	1）対象の理解 （1）対象の背景の把握 （2）疾患の経過や現在の状況の理解 （3）対象に行われている治療の理解 （4）対象に行われている看護の理解 （5）精神障がいが日常生活に与える影響の把握 （6）治療における環境の変化 （7）家族関係・家族への思い
2.精神障がいをもつ対象の　自立の程度を把握し、日常生活援助ができる。	1）対象の状態に応じた援助の方法の選択 2）対象の安全を考慮した援助 3）症状コントロールのための援助 4）個人や家族の思いを尊重した援助 5）対象の反応を捉え、理由を明らかにした援助の評価
3.看護師に求められる治療的 関わりの実践が理解できる。	1）意図的なコミュニケーション 2）コミュニケーション場面の実際の見学 3）プロセスレコードから対象と自己の相互作用を考察し、自己の感情や行動の特性を明確にする。
4.精神に障がいを持つ対象を取り巻く保健医療福祉の連携や社会資源の活用について理解 できる。	1）現在の入院形態を法的根拠と関連づける。 2）安全・保護のための法的根拠 3）各種療法や社会復帰に向けた援助（SST）に関わる職種の役割と連携の実際 4）社会復帰に向けた援助の実際や看護師の役割

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・埼玉精神神経センター ・北辰病院

臨地実習	科目名：統 合 実 習	講師	専任教員 （臨床実務経験あり）	2 単位（90 時間） 3 年次
実習目的	看護チームの一員としての役割を理解し、知識、技術、態度を統合した看護実践ができる。			

実習目標	実習内容
1. 看護チームの業務の流れを把握し、チームの一員としての役割が理解できる。	1）看護チーム内で適切に報告・連絡・相談を行うことができる 2）看護チームの一員として役割と責任の理解
2. 複数の患者のマネジメントをしながら、患者の状況に応じた看護が実践できる。	1）事象に応じた優先順位の決定 2）事象に適した援助の選択と実践 3）報告・連絡・相談の必要性の理解 4）患者の総合的理解と必要な看護 5）複数患者の看護における優先順位と時間管理
3. 保健医療福祉チームのなかで多職種と協働しながら、看護師としての役割が理解できる。	1）多職種との協働の中での看護師としての役割 2）多職種との協働・連携の必要性の理解
4. チームリーダーの役割がわかる。	1）病棟管理における看護師の役割の理解 2）安全管理における看護師の役割の理解 3）人的・物的・財的管理における看護師の役割の理解 4）情報管理における看護師の役割の理解
5. 統合実習での体験から自己の看護観や今後の課題が明確になる。	1）チーム内の看護援助の調整や連携を通しての役割 2）チームメンバー内への報告・連絡・相談の必要性の理解 3）管理者への報告や他チーム・他部門との情報伝達の実際

受講上の留意点
・身だしなみ、体調を整え実習に臨むこと。 ・必要な事前学習、実習要綱を熟読して臨むこと。 ・情報管理に十分注意すること。

評価方法	実習施設
・実習時間の 2/3 以上の出席をもって評価する。 ・評価の視点及び評価基準に基づき、100 点満点で評価、60 点以上で単位修得とする。	・さいたま市立病院 ・大宮共立病院 ・指扇療養病院

このシラバス（2026 年度）は　部作成し、１部当たりの印刷経費は　円です。